

2022 年度 シラバス

葵会柏看護専門学校

「担当教員等の実務経験の有無を明示した教育課程表」

教 育 課 程

区分	教育内容	科目名	履修年次	単位数	時間数	担当教員名	実務経験教員	
基礎分野	科学的思考の基礎	論理学	1年次	1	30	長島 俊記		
		看護物理学	1年次	1	30	富山 昭雄		
		情報科学	1年次	1	30	橋本 規子		
		法学	1年次	1	15	古尾谷 薫		
		スピリチュアリティ研究	1年次	1	30	榎本 香織		
	人間と生活・社会の理解	心理学	1年次	1	30	浮谷 秀一		
		コミュニケーション論	1年次	1	30	長澤 里絵		
		教育学	1年次	1	30	反橋 一憲		
		医療英語	1年次	1	30	淵 真理		
						川崎 圭子		
		倫理学	1年次	1	30	小笠原 幸		
		健康とスポーツ	1年次	1	30	鈴木 秀生		
		国際関係論	1年次	1	30	藤谷 浩悦		
		家族社会論	1年次	1	15	奥山 和美		
	小計			13	360	14名	0名	
専門基礎分野	人体の機能と構造	解剖生理学Ⅰ	1年次	1	30	瀧本 章平		
		解剖生理学Ⅱ	1年次	1	30	瀧本 章平		
		解剖生理学Ⅲ	1年次	1	30	瀧本 章平		
		解剖生理学Ⅳ	1年次	1	30	長戸 康和		
		解剖生理学Ⅴ	1年次	1	15	長戸 康和		
		生化学	1年次	1	30	田村 京子		
	疾病の成り立ちと回復の促進	臨床栄養学	2年次	1	30	小林 和恵		
		微生物学	1年次	1	30	蓮沼 裕也		
		病理学	1年次	1	30	山崎 洋次		
		疾病治療論Ⅰ	1年次	1	30	清水 大 山崎 洋次		
		疾病治療論Ⅱ	2年次	1	30	廣瀬 好文 ○		
		疾病治療論Ⅲ	2年次	1	30	田中 俊英 ○		
		疾病治療論Ⅳ	2年次	1	30	高嶋 英樹 ○		
		疾病治療論Ⅴ	2年次	1	30	山崎 洋次 ○		
		薬理学	1年次	1	30	屋代 郁子 吉澤 一巳		
		リハビリテーション学	2年次	1	15	井上 真秀 ○		
	健康支援と社会保障制度	現代医療論	1年次	1	15	山崎 洋次		
		公衆衛生	2年次	1	15	水谷 重憲		
		社会福祉制度論	2年次	1	30	吉田 浩滋 ○		
		経済と看護	2年次	1	30	山田 康夫 ○		
		看護関係法令	3年次	1	30	小笠原 幸 柴田 幸治 ○		
		健康行動論	1年次	1	15	金子 陽子		
	小計			21	555	18名	8名	
専門分野Ⅰ	基礎看護学	看護学概論	1年次	1	30	小笠原 幸		
		看護理論	3年次	1	30	小笠原 幸 ○		
		基礎看護学方法論Ⅰ	1年次	1	30	早川 真実		
					小笠原 幸			
		基礎看護学方法論Ⅱ	1年次	1	30	六反 邦裕 俵山あずさ		
		基礎看護学方法論Ⅲ	1年次	1	30	川野 和恵		
		基礎看護学方法論Ⅳ	1年次	1	30	廣田 晶子 青木いずみ 遠藤 基貴		
		基礎看護学方法論Ⅴ	1年次	1	30	河井 留美 川野 和恵		
					早川 真実			
		基礎看護学方法論Ⅵ	1年次	1	30	俵山あずさ 相川 裕美		
		基礎看護学方法論Ⅶ	1年次	1	30	早川 真実 遠藤 基貴		
		基礎看護学方法論Ⅷ	1年次	1	30	廣田 晶子		
		臨地実習	基礎看護学実習Ⅰ	1年次	1	45	専任教員	
			基礎看護学実習Ⅱ	2年次	2	90	専任教員	
		小計			13	435	9名	1名
		専門分野Ⅱ	成人看護学	成人看護学概論	1年次	1	30	金子 陽子
	成人看護学方法論Ⅰ			2年次	1	30	柴田 和宏 ○	
	成人看護学方法論Ⅱ			2年次	1	30	金子 陽子 ○	
	成人看護学方法論Ⅲ			2年次	1	30	俵山あずさ ○	
						阿部 晋大 ○		
	成人看護学方法論Ⅳ			2年次	1	30	俵山あずさ ○	
						秋田 真吾 ○		
						小澤 智 ○		
成人看護学方法論Ⅴ	2年次			1	30	相川 裕美 ○		
老年看護学	老年看護学概論		1年次	1	30	江口 聡子		
	老年看護学方法論Ⅰ		2年次	1	30	江口 聡子 ○		
	老年看護学方法論Ⅱ		2年次	1	30	青木いずみ ○		
					遠竹 華子 ○			
	老年看護学方法論Ⅲ		2年次	1	15	岡村 留美 ○		
小児看護学	小児看護学概論		1年次	1	30	青木 章子		
	小児看護学方法論Ⅰ		2年次	1	30	青木 章子 ○		
					井上 陽子 ○			
	小児看護学方法論Ⅱ		2年次	1	30	高嶋 英樹 ○		
母性看護学	小児看護学方法論Ⅲ		2年次	1	15	廣田 晶子 ○		
	母性看護学概論		2年次	1	30	青木 章子 ○		
	母性看護学方法論Ⅰ		2年次	1	30	永重 英子 ○		
	母性看護学方法論Ⅱ		2年次	1	30	戸村 恵理 ○		
精神看護学	母性看護学方法論Ⅲ		2年次	1	15	中野 美穂 ○		
	精神看護学概論		2年次	1	30	米本千里子 ○		
	精神看護学方法論Ⅰ		2年次	1	30	六反 邦裕 ○		
	精神看護学方法論Ⅱ		2年次	1	30	遠藤 基貴 ○		
臨地実習	精神看護学方法論Ⅲ		2年次	1	15	上妻 光浩 ○		
	成人看護学実習Ⅰ		2年次	2	90	六反 邦裕 ○		
	成人看護学実習Ⅱ		3年次	2	90	専任教員		
	成人看護学実習Ⅲ		3年次	2	90	専任教員		
	老年看護学実習Ⅰ		2年次	2	90	専任教員		
	老年看護学実習Ⅱ		3年次	2	90	専任教員		
	小児看護学実習		3年次	2	90	専任教員		
	母性看護学実習		3年次	2	90	専任教員		
	精神看護学実習		3年次	2	90	専任教員		
小計				38	1320	14名	21名	
統合分野	在宅看護論	在宅看護概論	2年次	1	30	半田 朋香 ○		
		在宅看護方法論Ⅰ	2年次	1	30	宝田 忠子 ○		
		在宅看護方法論Ⅱ	2年次	1	30	瀬下 律子 ○		
		在宅看護方法論Ⅲ	2年次	1	15	半田 朋香 ○		
	看護の統合と実践	看護管理と医療安全	3年次	1	30	橋野 恭子 ○		
		国際協力	3年次	1	30	野上美華子 ○		
		災害看護論	3年次	1	15	井澤 浩美 ○		
		看護の統合と実践	3年次	1	30	川野 和恵 ○		
		研究の基礎	2年次	1	30	青木いずみ ○		
					廣田 晶子 ○			
	臨地実習	在宅看護論実習	3年次	2	90	専任教員		
		看護の統合と実践	3年次	2	90	専任教員		
	小計			13	420	6名	6名	
	総計			98	3090	61名	36名	

基礎分野

科学的思考の基礎

授業要項詳細

科目名	論理学	科目区分	基礎分野
担当教員	長島 俊記	授業方法	講義・演習
期間	1 年次 前期	曜日/時限	
単位/時間	1 単位/30 時間	回数	15 回

科目の概要	論理というものの全世界に共通するものであり、民族・宗教・文化・性別・年齢等を問わず普遍的に通用するものである。論理を学ぶ第一歩は母国語の文脈を知ることから始まるため、日本語の論理を学ぶことで、論理的な思考を身につける。
科目の到達目標	1.日本語の論理・文脈の仕組みを知る。 2.演習を重ねることで、日本語を正しく読み、書き、話せる必要性を理解する。

授業回数	授業内容	授業方法	留意点	
1	論理とは 1.数学的論理と言語的論理 2.日本語における論理 3.論理的表現を身につけるには	講義	講師の用意する毎回のオリジナルテキストを用い、解説・発問・演習を繰り返していく。	
2	論理と文脈 論理の表し方(1) 1.順接 2.イコールの関係	講義		
3	論理と文脈 論理の表し方(2) 1.逆説 2.対立と強調	講義		
4	論理と文脈 論理の表し方(3) 1.抽象化 2.具体化	講義		
5	論理と文脈 論理の表し方(4) 1.接続語 2.指示語	講義		
6	敬語 1.尊敬語 2.謙譲語 3.敬語動詞	講義		
7	文章読解 評論文(1) 1.河合隼雄の文	講義		
8	文章読解 評論文(2) 1.外山滋比古の文	講義		
9	文章読解 評論文(3) 1.養老孟司の文	講義		
10	小説 1.重松清の文	講義		

授業回数	授業内容	授業方法	留意点	
11	ディベート グループディスカッション 1.聞き方 2.主張の仕方	講義 演習	講師の用意する毎回のオリジナルテキストを用い、解説・発問・演習を繰り返していく。	
12	ディベート プレーンストーミング 1.立場を変えて説明する 2.グループごとにまとめを発表する	講義 演習		
13	論文作成 論文とは 1.論文に必要な 6 項目 2.演習	講義 演習		
14	論文作成 自己アピール方法 1.読まれない文章とは 2.演習	講義 演習		
15	終講試験	論文体テスト 解説		

成績評価の方法	論文体テストによる評価
---------	-------------

使用テキスト 参考文献	講師の用意するオリジナルテキスト 養老孟司、外山滋比古、河合隼雄氏の著書
----------------	---

授業要項詳細

科目名	看護物理学	科目区分	基礎分野
担当教員	富山 昭雄	授業方法	講義
期間	1 年次 前期	曜日/時限	
単位/時間	1 単位/30 時間	回数	15 回

科目の概要	医療や看護の現場で起こりうる事象の理解やその対処について、また実際に使用する器具について、その原理等について物理学的に捉え、裏付けとなる法則や理論、及び技法について学ぶ。
科目の到達目標	1. 看護の直接的な対象である人体の構造やその特性等を物理的視点から理解する。 2. 看護の現場で使用される器具やその働き、使用法を物理の理論や法則等を参照し原理的に理解する。

授業回数	授業内容	授業方法	留意点
1	1. 移動動作に必要な力加減値 1) 力の合成と分解(実験) 2. 単位系 1) 単位系とニュートンの運動法則 3. 体位変換に役立つトルクの知識 1) 力のモーメントと慣性モーメント(実験)	講義	モデルにより演示を行う
2	1. 仕事とエネルギー 1) てこを使った様々な道具(実験) 2) 仕事と仕事の原理、仕事率 2. 安定・不安定 1) 安定・不安定様々な例について 3. 撃力と骨折 1) 運動量と力積	講義	簡単な装置を用いた説明を行う
3	1. 力のつり合いを応用する 1) 滑車を使ったつり合いの実験、弾力・抗力・つり合い・モーメントのつり合いの式から分かること。看護への応用 2. 作用・反作用ってなに? 1) 作用、反作用の法則とつり合いの力の関係 3. 力学を人体に適用する	講義	簡単な装置を用いた説明を行う
4	1. 摩擦は天の邪鬼? 1) 摩擦力、摩擦係数の測定実験 2. 人肌程度の温度 1) 温度(摂氏と絶対温度) 3. なぜ水は温める時、冷やす時役に立つか 1) 融解熱、気化熱、比熱	講義	簡単な確認実験を行う
5	1. 体熱の産生と喪失のバランス 1) 比熱の計算(続き) 2) オームの法則 3) 抵抗の接続 2. 看護における電気 1) 電力と電力量 2) アース	講義	簡単な装置を用いた説明を行う
6	1. 胃洗浄とサイフォン 1) サイフンの原理(実験) 2. 新しい単位を先取りしよう 3. 知っておきたい圧力の基礎知識 1) 圧力と単位 4. すべての基本は空気の圧力 1) 空気の及ぼす圧力	講義	簡単な装置を用いた説明を行う
7	1. ネプライザもフリスピーも原理は同じ(動圧と静圧) 1) 液体の圧力 2. 血液に関する知識 1) ルヌーイの定理・マダガス効果、毛管現象、界面活性剤、表面張力(実験)・血圧測定法・水の柱、水銀柱と大気圧の関係 3. 低圧持続吸引装置の原理 1) 低圧持続吸引装置	講義	簡単な装置を用いた説明を行う

授業回数	授業内容	授業方法	留意点
8	1.救急場面で大活躍！酸素ボンベ酸素と圧力の関係 1)ボイルの法則、シャルルの法則(実験)・ボイル・シャルルの法則、絶対温度の意味 2)酸素ボンベの残圧と残量 2.大きさ(圧力)によって生じる疾患 3.点滴や輸血、経管栄養を行う際の液体の落下速度 1)落下速度 2)輸液速度の調整の方法	講義	簡単な装置を用いた説明を行う
9	1.比重計のヒミツ 1)比重と密度、比重計(実験) 2.体温計の温度表示が上昇するのは、なぜ？ 1)体温計の原理、こぼれた水銀の処理 3.オートクレーブは、圧力釜と同じ？ 1)蒸発と沸騰、飽和蒸気圧と沸点の関係	講義	簡単な装置を用いた説明を行う
10	1.酸・アルカリとpHの関係 1)原子量、分子量等簡単な化学の基礎・酸性・アルカリ性・指示薬(実験) 2)化学反応と原子反応の違い	講義	簡単な装置を用いた説明を行う
11	1.濃度の表し方と物質の溶け方 1)溶解と混合の違い(実験)・重量パーセント濃度・モル濃度・オスモル濃度 2.皮下注射や人口透析を行う際に必要な浸透圧の知識 1)浸透圧、透析	講義	簡単な確認実験を行う
12	1.物の見えるしくみ 1)球面鏡・レンズ(凸レンズ凹レンズ)(作図と実験)虫メガネ、顕微鏡の原理、目と眼鏡・屈折、全反射(実験) 2.ファイバースコープの原理 1)ファイバースコープ	講義	簡単な装置を用いた説明を行う
13	1.紫外線の殺菌作用と赤外線利用のサーミグラフィー 1)屈折、全反射の利用・紫外線・赤外線の説明と利用(実験) 2.放射線のもつ特性と基礎知識 1)放射線の種類と利用 2)半減期	講義	簡単な装置を用いた説明を行う
14	1.医療に生きる「音波」の不思議 1)波とは(横波と縦波)(実験)・波の表し方、音の三要素・定常波(実験)・共振と共鳴(実験) 2.乳児の心拍検査と救急車のサイレンとの関係 1)ドップラー効果 2)うなり(実験)	講義	簡単な装置を用いた説明を行う
15	終講試験	客観テスト 解説	

成績評価の方法	1.客観テストにおける評価 2.論文体による評価 なお、出席状況を含め、総合的に評価する
---------	--

使用テキスト 参考文献	オリジナルテキスト
----------------	-----------

授業要項詳細

科目名	情報科学	科目区分	基礎分野
担当教員	橋本 規子	授業方法	講義・演習
期間	1 年次 後期	曜日/時限	
単位/時間	1 単位/30 時間	回数	15 回

科目の概要	IT 化に伴い、現代の医療現場における情報処理能力は必須である。本科目ではパソコンの基本的ソフトである文書作成・表計算・プレゼンテーション等、各ソフトの使い方、さらに統計学について学習することにより、看護研究において必要な情報処理能力を学ぶ。
科目の到達目標	1.情報を取り扱う上で常に順守すべき情報倫理を理解する。 2.文書作成ソフト、表計算ソフト、プレゼンテーション作成ソフトの基本的操作ができる能力を養う。 3.表計算ソフトによるデータ分析方法を理解する。

授業回数	授業内容	授業方法	留意点
1	パソコンの基本操作	講義・演習	
2	情報倫理 文書作成ソフト演習① 文章の入力、編集	講義・演習	
3	文書作成ソフト演習② 文章の入力、編集	演習	
4	文書作成ソフト演習③ 表の挿入	演習	
5	文書作成ソフト演習④ 図の挿入	演習	
6	文書作成ソフト演習⑤ 目次の挿入、差し込み文書	演習	
7	表計算ソフト演習① データの入力、編集、関数(1)	演習	
8	表計算ソフト演習② グラフ作成、関数(2)	演習	
9	プレゼンテーション作成ソフト演習①	演習	
10	プレゼンテーション作成ソフト演習②	演習	
11	推測統計学の基礎① 特性値、データ表現の仕方	講義	
12	表計算ソフト演習③ 度数分布表、ヒストグラム	演習	
13	推測統計学の基礎② 記述統計、正規分布	講義	
14	看護に必要な情報検索－文献検索－	講義・演習	
15	終講試験	客観テスト 解説	

成績評価の方法	客観テストによる評価
---------	------------

使用テキスト 参考文献	30 時間でマスターoffice2016-Windows10 対応(実教出版)
----------------	---

授業要項詳細

科目名	法学	科目区分	基礎分野
担当教員	古尾谷 薫	授業方法	講義・演習
期間	1 年次 後期	曜日/時限	
単位/時間	1 単位/15 時間	回数	8 回

科目の概要	「法」とは何か？「何故、法が必要なのか」を理解し、法治社会において生活上・職務上どのように法と関わっているかを学ぶ。そのための方法として、基本六法を概観し、特に「民法」の身分法・後見人制度等、看護学との関係を知る。さらに、医療・介護事故判例等、最新の資料や新聞やインターネットから導き紹介する。
科目の到達目標	1. 身分関係の常識的な法律知識を習得する。 2. 法的物の考え方を身近なものにし、「何故」に対し「理由」を列挙することができる。 3. 近時、社会で起こっている事件・事象の興味を持つ内容を類別することができる。

授業回数	授業内容	授業方法	留意点
1	1.「法とは何か」 1)何故、赤が止まれで青が進めか 2)何故、日本では人が右側を歩くか	講義	法は「大人の学問」である。小中高の様に常に正解がある訳ではなく、より妥当な方を選択するという生き方。
2	1.道徳・習慣とは何か？ 2.「基本六法」＝憲・民・刑・商・民訴・刑訴 3.「医療関係法規」＝医療法・看護師法等	講義	法律未満でも守らなければならない領域を知る。知識として、「何の目的で定められた法か」を知る。
3	1.「社会保障法」＝医療・年金・雇用・労災・介護 2.「労働三法」＝基準法・組合法・調整法	講義	今問題になっているテーマを、「何故、問題になっているか」を解説、自分はどんな理由で是非かを考えてみる。
4	1.民法Ⅰ 1)親族 2)婚姻・離婚 3)親子関係・養子	講義	「あなたは、あなたのお母さんから見て何親等ですか」から始まり、「婚姻、離婚の基本原則、養子縁組、離縁、認知、未婚の母及びその子、等」自分の身に置き換えて考えること、但し、学生個々の身分関係を公表させないこと (倫理綱要)
5	1.民法Ⅱ 1)相続 2)遺言 3)遺留分	講義	法定相続分の計算ができること。遺言の原則、遺留分の原則を知り、理解する。
6	1.民法Ⅲ 1) 被後見人制度＝後見・保佐・補助 2. 「臓器移植」「代理出産」「出自を知る権利」等 新聞等で話題となったテーマを取りあげる。	講義	後見人制度とは何か？また、保佐・補助とどのように異なるか。 法学のねらい ① 医学も法学も角度は異なるが「生命」を守るためにあることを理解すること ② 考えるくせをつけること ③ 法的な知識の習得

授業回数	授業内容	授業方法	留意点
7	1.民法Ⅳ 債権総論	演習	債権総則（民法第 399 条から第 520 条まで）の解釈論をグループワークにて考察する。
8	終講試験 *「命」をテーマとする作品の小論文を課題とする	客観テスト 解説	

成績評価の方法	1.客観テストによる評価 2.論文による評価 なお、出席率を含め、総合的に評価する
---------	---

使用テキスト 参考文献	法学六法 信山社
----------------	----------

授業要項詳細

科目名	スピリチュアリティ研究	科目区分	基礎分野
担当教員	榎本 香織	授業方法	講義
期間	1 年次 後期	曜日/時限	
単位/時間	1 単位/30 時間	回数	15 回

科目の概要	人間にとって生と死は永遠のテーマであるが、死生の学問的研究が始まったのは比較的近年になってからのことである。本科目では死生学（death and life studies）や看護学の観点からスピリチュアルケアにまつわる諸問題を学び、死生のあり方を考えたい。
科目の到達目標	1.現代社会における死生をめぐる現在進行形の課題についての知見や見識を知る。 2.多様な視点から人間の死生の問題を理解する。 3.看護学の観点からスピリチュアルケアにまつわる諸問題を学ぶ。

授業回数	授業内容	授業方法	留意点
1	1.死生学 1)定義、対象、分野、領域	講義	パワーポイント、配布資料を使い、講義を進める。 講義後は、配布資料の内容を復習する。
2	1.死生学 2)死生観、ライフスタイルなど	講義	
3	1.デスエデュケーションについて 1)生涯教育	講義	
4	1.デスエデュケーションについて 2)医療看護	講義	
5	1.ターミナルケアについて 1)臨床倫理・宗教学	講義	
6	1.ターミナルケアについて 2)ホスピス等の事例	講義	
7	1.スピリチュアルケア 1)歴史と背景	講義	
8	1.スピリチュアルケア 2)ケアの特徴①	講義	
9	1.スピリチュアルケア 3)ケアの特徴②	講義	
10	1.スピリチュアルケア 4)事例①	講義	
11	1.スピリチュアルケア 5)事例②	講義	
12	1.スピリチュアルケア 6)事例③	講義	
13	1.スピリチュアルケア 7)事例④	講義	
14	1.スピリチュアルケア 8)課題・問題	講義	
15	終講試験	客観テスト・解説	

成績評価の方法	客観テストによる評価 出席状況と授業中のリアクションペーパー（60%）、終講試験（40%）
使用テキスト 参考文献	特定のテキストは使用せず、授業中に随時、関連テキストにて言及・紹介する。

基礎分野

人間と生活・社会の理解

授業要項詳細

科目名	心理学	科目区分	基礎分野
担当教員	浮谷 秀一	授業方法	講義
期間	1 年次 前期	曜日/時限	
単位/時間	1 単位/30 時間	回数	15 回

科目の概要	心理学は、人間の行動の法則性に関する科学である。本教科では、知覚、欲求、思考、学習、人格、カウンセリングなどの心理学の基礎から、発達心理・医療と心理学について学習する。さらに、錯覚、記憶、学習、集団心理、性格検査、知能検査等についても学習する。
科目の到達目標	1.心理学の知見が医療場面にどのように関わっているかあるいは役立っているかを理解する。 2.学んだ心理学の知識をどのように応用できるかを適用する。

授業回数	授業内容	授業方法	留意点
1	心理学とは 1) 語源 2) アプローチ	講義	講義開始前には、テキストの関連ページを学習して講義に臨む。 講義後、テキストおよび配布資料の内容を復習する。
2	1.発達心理 1) 発達とは 2) 発達の特質	講義	
3	1.発達心理 3) 遺伝と環境	講義	
4	1.発達心理 4) 発達段階の特徴 1	講義	
5	1.発達心理 5) 発達段階の特徴 2	講義	
6	2.適応心理 1) 欲求とは 2) 欲求不満・欲求不満耐性	講義	
7	2.適応心理 3) 適応機制	講義	
8	3.性格心理 1) 性格とは 2) 性格の見方	講義	
9	3.性格心理 3) 性格の測定	講義	
10	3.性格心理 4) 性格検査実習	講義	
11	4.コミュニケーション 1) コミュニケーションとは 2) コミュニケーションの種類 3) コミュニケーションの過程	講義	講義開始時、中間試験を実施する。
12	5.学習心理 1) 学習とは	講義	
13	5.学習心理 2) 学習過程のメカニズム (1) 連合学習	講義	
14	5.学習心理 2) 学習過程のメカニズム (2) 認知学習	講義	
15	終講試験	客観テスト 解説	授業にて学習した内容および配布資料を中心に学習し、終講試験に臨む。

成績評価の方法	客観テストによる評価（中間試験：40 点、終講試験：60 点）
---------	---------------------------------

使用テキスト	「こころの発達と学習の心理」 啓明出版
--------	---------------------

授業要項詳細

科目名	コミュニケーション論	科目区分	基礎分野
担当教員	長澤 里絵	授業方法	講義・演習
期間	1 年次 後期	曜日/時限	
単位/時間	1 単位/30 時間	回数	15 回

科目の概要	看護場面ではつねに人と人との関係性のあり方が問題となる。人間存在と人間関係、社会的相互作用と社会的役割の理解の上に、医療を受ける人々を一人の人間として、心から大切にしようとする「誠実さ」と、それに支えられた「出会い」によって、対話が成立し、医療を受ける対象およびその家族の理解が充実発展でき、より良い関係を築く基礎を学習する。
科目の到達目標	1.看護におけるコミュニケーション論の基本的知識を理解する。 2.ロールプレイングを通し、対人関係能力を維持・高めコミュニケーション行動を展開できる基礎的な能力を習得する。

授業回数	授業内容	授業方法	留意点
1	イントロダクション	講義	看護コミュニケーションの特徴を理解する
2	言葉とコミュニケーション	講義	言語的コミュニケーションの利点と限界を理解する
3	ノンバーバルコミュニケーション その 1	講義	感情表現に関する非言語的コミュニケーションの種類を知り、それらの役割を理解する
4	ノンバーバルコミュニケーション その 2	講義	
5	コミュニケーション基礎 その 1「聴くこと」	講義	
6	コミュニケーション基礎 その 2「話すこと」	講義	
7	コミュニケーション基礎 その 3－相手のメッセージを受け止める・1 回 1 回の対応を大切に－	講義	「聴く」「話す」「受けとめる」「伝える」といった、コミュニケーションを学ぶ
8	看護場面からみるコミュニケーション その 1－患者の苦痛や不安を読み取る－	講義・演習	
9	看護場面からみるコミュニケーション その 2－患者のニーズに応えニーズを引き出す－	講義	
10	コミュニケーションに視点を当てた生活援助行動－患者の疑似体験を通して学ぶ患者の本当に伝えたいこと－	講義	事例分析を通して、患者の気持ちを読み取り、受けとめること、またその際の留意点を学ぶ
11	患者・看護師関係のロールプレイング その 1	講義	ロールプレイングを通して、患者の本当に伝えたいことを感じ取る 看護場面におけるアサーティブ コミュニケーションの重要性を理解する
12	患者・看護師関係のロールプレイング その 2	講義	
13	アサーティブ コミュニケーションとは	講義	
14	アサーティブ コミュニケーションの実態	講義・演習	
15	終講試験	客観テスト 解説	

成績評価の方法	1.客観テストによる評価 2.論文体テストによる評価
使用テキスト	仲間とみがく看護のコミュニケーション・センス 医歯薬出版株式会社

授業要項詳細

科目名	教育学	科目区分	基礎分野
担当教員	反橋 一憲	授業方法	講義
期間	1 年次 後期	曜日/時限	
単位/時間	1 単位/30 時間	回数	15 回

科目の概要	教育の意義・役割について検討した後、複数のテーマについてより詳細な検討を行います 扱うテーマは（１）人間の発達、（２）家庭・学校での教育、（３）生涯学習、（４）道徳と市民性、 （５）教育と評価
科目の到達目標	1.教育を通じた人間形成を考察する。 2.看護において教育が持つ意義や方法を応用することを理解する。

授業回数	授業内容	授業方法	留意点
1	教育の役割と意義	講義	講義による知識紹介を一定程度行う。設定した各テーマについて、ディスカッションを学修者が行うことで、内容の定着を図る。講義を通じて自分の意見を持ち、同時に、他人の意見を受容できるようにしてほしい。
2	教育の目的	講義	
3	教育と人間の発達（１）	講義	
4	教育と人間の発達（２）	講義	
5	家庭教育	講義	
6	学校教育	講義	
7	生涯学習	講義	
8	「正しい行い」とは何か（１）	講義	
9	「正しい行い」とは何か（２）	講義	
10	シティズンシップ教育	講義	
11	指導方法	講義	
12	教育評価	講義	
13	特別支援教育（１）	講義	
14	特別支援教育（２）	講義	
15	終講試験	客観テスト・解説	

成績評価の方法	1.客観テストによる評価 2.論文体による評価 なお、出席状況や授業への参加度から総合的に評価する
---------	---

使用テキスト 参考文献	系統看護学講座 基礎分野 教育学 医学書院 その他の文献は授業中に紹介する
----------------	--

授業要項詳細

科目名	医療英語	科目区分	基礎分野
担当教員	淵 真理, 川崎 圭子	授業方法	講義
期間	1 年次 前期	曜日/時限	
単位/時間	1 単位/30 時間	回数	15 回

科目の概要	診療場面におけるコミュニケーション能力を高め、基本的な医学用語を修得する。
科目の到達目標	1. 医師・看護師と患者の会話を聞き、内容を理解する。 2. 医学用語の語形成（語幹＋接尾辞）を理解する。 3. 診療場面における重要表現を暗記し、適用する。

授業回数	授業内容	授業方法	留意点
1	来院	講義	患者を案内する際の表現を学ぶ
2	初診受付	講義	登録票の書き方を手伝う
3	生活習慣を聞く	講義	内科で必要な表現（飲酒・喫煙など）を学ぶ
4	問診（1）	講義	症状について尋ねる表現を学ぶ
5	脈拍、血圧、体重の測定	講義	測定の際の語彙や表現を学ぶ
6	採血、採尿	講義	検査に必要な表現を学ぶ
7	診断（1）	講義	血液検査結果の説明を行う
8	問診（2）	講義	患者の訴えを詳しく尋ねる表現を学ぶ
9	症状をより詳しく聞く	講義	脈拍と血液検査の後、症状について尋ねる
10	診断（2）	講義	内視鏡検査と血液検査の結果を説明する
11	薬の説明	講義	薬の服用の仕方を説明する
12	問診（3）	講義	患者の症状や原因を尋ねる
13	MRI を受ける	講義	MRI 検査の説明を行う
14	1. 手術を勧める 2. 術後のコミュニケーション	講義	MRI 検査結果を説明し、手術の説明を行う 手術の経過、術後の説明を行う
15	終講試験	客観テスト 解説	

成績評価の方法	1. 客観テストによる評価 なお、講義参加を含め、総合的に評価する。
---------	---------------------------------------

使用テキスト 参考文献	オリジナルテキスト
----------------	-----------

授業要項詳細

科目名	倫理学	科目区分	基礎分野
担当教員	小笠原 幸	授業方法	講義・演習
期間	1 年次 後期	曜日/時限	
単位/時間	1 単位/30 時間	回数	15 回

科目の概要	倫理は、道徳のことであり、およそ「できる」ことを「してもいいのか？」と問うて、理性的な正しい判断を求めるための人間の社会的な価値判断に関する学問である。それは、当然、日常生活全般に関わる問題に関するものであると同時に現代では、体外受精に関係する「誕生」の問題から、「死」に関しても「臓器移植」に関連する「脳死」判定が問題になるなど医療倫理の技術の問題は、現代倫理の中心的な問題となってきた。本講義では、そのような私たちが解かなくてはならない倫理的な重要な問題に対して、どのような対処の方法があるのかを整理して示したいと考えている。
科目の到達目標	1. 倫理とは何かを理解する。 2. 日常生活場面における倫理的問題を考察する。 3. 看護の倫理原則を理解する。 4. 倫理的態度を身につける必要性を理解する。

授業回数	授業内容	授業方法	留意点
1	1. 講義概要 1) 「倫理学」の概要と範囲 = 導入 2. 二重の意味での「出会いの奇跡(神秘)」 1) 宇宙的 2) 個人的	講義	人間が人間関係を築く以前の「存在することの不思議さ」を「出会いの不思議さ」として捉える。
2	1. 社会における人間	講義	人の間に生きる人間
3	1. 人間が社会に生きるという意味を考える 2. 人間における「優しさ」の意味 1) コミュニケーションの意味 2) 言葉と態度(形式と内容)	講義	一人では生きられない人間
4	1. 「相手の立場に寄り添う心」と「おもてなしの心」	講義	「心の余裕」を「わがままの感情」と対比させながら、社会をよりよく展開させる道を考える
5	1. 倫理の基礎 1) 倫理とは 2) 倫理理論 (1) 倫理的利己主義(2) 功利主義 (3) 義務論	講義	「できる」ことを「してもいいのか？」と問う重要性
6	1. 医療における倫理の基本的考え方 1) 人権の尊重 2) 患者の知る権利の尊重・意思決定 3) 知り得た秘密の保護	講義	「人権」の先に「人格」「尊厳」を見る重要性
7	1. 生命倫理 1) 生命倫理とはなにか 2) 生命倫理の原則・規則 3) インフォームドコンセント 4) 守秘義務・個人情報保護	講義	近代以降の医療技術のお目つけ役としての「生命倫理」

授業回数	授業内容	授業方法	留意点
8	1.医療現場における倫理的問題への対応 1)生殖医療における倫理的問題	講義・演習	現代哲学としての「生命倫理」
9	1.「生の関連の内側から見る」⇒「人間を理解する・愛するとは どういうことか？」 1)対話と独話（ディアログとモノログ）	講義	「話しかける」ということは、人格に対して
10	1.「価値観受性への共感」＝「相手の立場に立つ」ということ 1)対話の条件(言語と共感)を考える 「人として関わる」際に大切なことを「価値の問題」として捉え、 その実現プロセスを具体的に見る	講義	ちょっとした「優しさ・気配り・思いやり」の重要性
11	1.看護倫理① 1)看護倫理とは 2)看護の倫理原則 3)看護実践上の倫理的概念 (1)アドボカシー(2)責務 (3)協力 (4)ケアの倫理	講義	講義開始前には、テキストの関連ページを学習して講義に臨む。また、講義後、テキストおよび配布資料の内容を復習する。
12	1.看護倫理② 1)専門職に求められる倫理 2)看護者の倫理綱領	講義	
13	1.看護倫理③ 1)倫理的問題アプローチ 2)倫理的ジレンマ (1)価値の対立 (2)善悪のものを選ぶとは (3)意思決定のプロセス	講義	
14	1. 看護倫理④ 1)倫理的ジレンマ事例の分析	講義・演習	
15	終講試験	客観テスト 解説	授業にて学習した内容および配布資料を中心に学習し、終講試験に臨む。

成績評価の方法	第 1 回目～10 回目 論文体テストによる評価 60 点 なお、講義への出席、講義への取り組みの姿勢を前提に、講義終了後に提出するレポートで評価する。 第 11 回目～14 回目 客観テストによる評価 40 点
---------	--

使用テキスト	第 1 回目～10 回目 パワーポイントの配布資料
参考文献	第 11 回目～14 回目 系統看護学講座専門分野Ⅰ 看護学概論 基礎看護学① 医学書院 その都度必要に応じて指示する。

授業要項詳細

科目名	健康とスポーツ	科目区分	基礎分野
担当教員	鈴木 秀生	授業方法	講義・演習
期間	1 年次 前期	曜日/時限	
単位/時間	1 単位/30 時間	回数	15 回

科目の概要	健康の概念及び現代社会で多発する健康問題を明らかにし、健康で安全な生活を送るために必要な知識を養う。具体的には、健康障害や事故の予防、それらを解決するための方法を理論的かつ実践的に学ぶ。
科目の到達目標	1.健康の維持・増進のための運動やスポーツの意義を理解する。 2.レクリエーション活動を通して、リーダーシップ・メンバーシップのあり方を考察する。

授業回数	授業内容	授業方法	留意点
1	オリエンテーション・身体運動の重要性の理解	講義	授業の内容について説明及び身体運動の重要性を解説
2	ストレッチング/バランスボール	演習	柔軟性のチェック及びストレッチング指導方法およびバランスボールを用いた身体運動の実践
3	バランスボールレクリエーションⅠ	演習	高齢者のためのバランスボールを用いたレクリエーション及び身体運動の実践
4	ストレッチング/バランスボールⅡ	演習	高齢者のためのバランスボールを用いたレクリエーション及び身体運動の実践
5	ホリスティックアプローチⅠ	演習	
6	ホリスティックアプローチⅡ	演習	
7	ホリスティックアプローチⅢ	演習	
8	フライングディスクを用いたレクリエーションⅠ	演習	フライングディスクを用いたレクリエーション及び身体運動（ディスクゴルフ、アルティメット、ドッジビー）
9	フライングディスクを用いたレクリエーションⅡ	演習	フライングディスクを用いたレクリエーション及び身体運動（ディスクゴルフ、アルティメット、ドッジビー）
10	フライングディスクを用いたレクリエーションⅢ	演習	フライングディスクを用いたレクリエーション及び身体運動（ディスクゴルフ、アルティメット、ドッジビー）
11	スポーツドッジボール	演習	ドッジボールを用いてレクリエーション及び身体運動
12	体力の概念・体力のコンディショニング	演習	
13	リラクセーション、自立訓練法①	演習	
14	リラクセーション、自立訓練法②	演習	
15	終講試験	客観テスト 解説	

成績評価の方法	客観テストによる評価
---------	------------

使用テキスト	指定なし
--------	------

授業要項詳細

科目名	国際関係論	科目区分	基礎分野
担当教員	藤谷 浩悦	授業方法	講義
期間	1 年次 後期	曜日/時限	
単位/時間	1 単位/30 時間	回数	15 回

科目の概要	現代の国際社会の成り立ちを第二次大戦後の国際社会の歴史を通して理解するとともに、国際社会の動きを分析するための理論や思想について学ぶ。また、現代の国際社会における課題ともいえる地球環境問題、安全保障問題、地域紛争問題や国際社会と日本の関係なども取り上げる。
科目の到達目標	メディアを通して目にする現代の国際社会の動きを理解するうえで必要な基礎的素養を身に付けるとともに、国際社会に対する関心を高める。

授業回数	授業内容	授業方法	留意点
1	国際関係論とは何か 国際関係論で学ぶこと	講義	テキストの該当箇所、配布プリントを予習しておくこと。 
2	国際社会を見る見方—その理論と思想—	講義	
3	現代国際社会の歴史<1> アメリカと戦後世界	講義	
4	現代国際社会の歴史<2> 米ソ対立—冷戦—	講義	
5	現代国際社会の歴史<3> 第三世界と南北問題	講義	
6	現代国際社会の歴史<4> 冷戦の崩壊	講義	
7	現代国際社会の歴史<5> 冷戦後の世界	講義	
8	現代国際社会の動き グローバリズムとリージョナリズム	講義	
9	安全保障と国際関係	講義	
10	地域紛争について	講義	
11	地球環境と国際関係	講義	
12	国際政治と国際経済の連動	講義	
13	国際関係と日本の政治外交	講義	
14	国際関係と日本の経済外交	講義	
15	終講試験	客観テスト・解説	

成績評価の方法	客観テストによる評価
---------	------------

使用テキスト 参考文献	原彬久編『国際関係学 講義』（第5版） 有斐閣
----------------	-------------------------

授業要項詳細

科目名	家族社会論	科目区分	基礎分野
担当教員	奥山 和美	授業方法	講義
期間	1 年次 前期	曜日/時限	
単位/時間	1 単位/15 時間	回数	8 回

科目の概要	人間にとっての家族の意味を問い直しながら、ライフサイクルの視点から家族の役割と構造、家族の機能について理解する。家族の概念の時代による変化をとらえながら現代家族の諸問題について社会とのかかわりのなかで考え、望ましい家族のありようについて考える。
科目の到達目標	1. 人間形成や人間生活に必要な家族の特質を理解する。 2. ライフサイクルの視点から家族の役割と構造、家族の機能を理解する。 3. 時代の変化をとらえながら家族におかれる課題を理解する。 4. 看護師として、家族の変化にどのように対応すべきかを考察する。

授業回数	授業内容	授業方法	留意点
1	1. 家族とは 1) 近代家族の特徴 2) いま、家族に生じていること 3) 家族類型	講義 演習	テキストの「家族の現在」を読んで授業に臨む。
2	1. 家族と「家」 1) 家族の私事化・個人化・主観化 2) ライフサイクルとライフコース	講義	テキストの「家族の個人化と多様化」を読んで授業に臨む。事前に家族の私事化、個人化、主観化について調べて授業に臨む。
3	1. サザエさんから見る家族とのつながり 1) 家族の機能 2) 歴史からみる家族や親子の姿	講義	他にもある、テレビ、小説、マンガなどに出てくる家族について理解しておく。
4	1. 孤食の影響	講義 演習	「孤食」を取り巻く様々な社会的要因が家族機能にどのように影響をおよぼしているのか考えて授業に臨む。
5	1. 機能不全家族とは（家族の希薄化）	講義 演習	機能不全家族とその背景となるさまざまな要因について各自調べて授業に臨む。
6	1. ライフステージでみる家族の課題	講義	テキストの「ライフステージでみる家族の課題」を読んで授業に臨む。
7	1. 家族のこれから	講義 演習	授業 1～6 回目の学びを活かし、「これからの家族」を考え、授業に臨む。
8	終講試験	客観テスト 解説	

成績評価の方法	客観テストによる評価
---------	------------

使用テキスト 参考文献	健康支援と社会保障① 健康と社会・生活 医学書院
----------------	--------------------------

専門基礎分野

人体の機能と構造

授業要項詳細

科目名	解剖生理学 I	科目区分	専門基礎分野
担当教員	瀧本 章平	授業方法	講義
期間	1 年次 前期	曜日/時限	
単位/時間	1 単位/30 時間	回数	15 回

科目の概要	看護を学ぶ上で解剖生理学は人体の構造と機能を理解するために、導入として重要な科目である。本解剖生理学 I においては人体の導入となる細胞・組織を中心として学習を行う。
科目の到達目標	1. 人体について理解し、最小構成単位である細胞の働きを理解すると同時に、細胞の集合である組織を理解する。 2. 非上皮系・上皮系を理解する。

授業回数	授業内容	授業方法	留意点
1	人体とは何か？	講義	板書にて行う
2	細胞の構造	講義	板書にて行う
3	DNA と遺伝子	講義	板書にて行う
4	細胞小器官・遺伝子発現	講義	板書にて行う
5	細胞膜、能動輸送と受動輸送	講義	板書にて行う
6	上皮組織・結合組織の解剖生理	講義	板書にて行う
7	筋組織・神経組織の解剖生理	講義	板書にて行う
8	人体を構成する膜系	講義	板書にて行う
9	皮膚の構造と機能、デルマトーム	講義	板書にて行う
10	免疫細胞、細胞性免疫と液性免疫	講義	板書にて行う
11	骨の生理、骨髄、骨のリモデリング等	講義	板書にて行う
12	全身の骨格名称	講義	板書にて行う
13	筋の生理、筋収縮の機構・エネルギー供給	講義	板書にて行う
14	全身の筋の名称	講義	板書にて行う
15	終講試験	客観テスト 解説	持込み不可

成績評価の方法	1. 客観テストによる評価 なお、講義態度、講義への積極的な参加・発言・小テスト等を総合して評価する。
---------	--

使用テキスト 参考文献	系統看護学講座 専門基礎分野 解剖生理学 人体の構造と機能① 医学書院
----------------	-------------------------------------

授業要項詳細

科目名	解剖生理学Ⅱ	科目区分	専門基礎分野
担当教員	瀧本 章平	授業方法	講義
期間	1 年次 前期	曜日/時限	
単位/時間	1 単位/30 単位	回数	15 回

科目の概要	血液、循環器系、呼吸器系について学ぶ。人体の機能を司るためにも血液の存在が不可欠である。酸素を運ぶための血液、その血液を体の隅々まで送るための循環器、酸素を取り入れる部位である呼吸器について学ぶ。
科目の到達目標	1.血液の働きや分類、酸素を運ぶ意義を理解する。 2.酸素を運ぶ際に必要な循環器の構造や機能、酸素を取り入れるための呼吸器系について一連のつながりを理解する。

授業回数	授業内容	授業方法	留意点
1	血液とは何か？	講義	板書にて行う
2	赤血球の構造と機能、赤血球の破壊	講義	板書にて行う
3	血液型、メンデルの法則	講義	板書にて行う
4	白血球の分類とそれぞれの作用	講義	板書にて行う
5	血小板による止血作用、血漿における血液凝固因子	講義	板書にて行う
6	循環器の構造と機能	講義	板書にて行う
7	心臓の解剖と生理	講義	板書にて行う
8	刺激伝導系と心電図	講義	板書にて行う
9	心周期、血圧、心拍出量などの用語	講義	板書にて行う
10	呼吸器系の解剖	講義	板書にて行う
11	呼吸中枢、呼吸の調節（中枢化学・反射性）	講義	板書にて行う
12	スパイログラム、肺活量・一秒率等	講義	板書にて行う
13	酸素解離曲線とその意義	講義	板書にて行う
14	睡眠と睡眠時無呼吸症候群	講義	板書にて行う
15	終講試験	客観テスト 解説	持込み不可

成績評価の方法	1.客観テストによる評価 なお、講義態度・講義への積極的な参加・発言・小テスト等を統合して評価する。
---------	---

使用テキスト 参考文献	系統看護学講座 専門基礎分野 解剖生理学 人体の構造と機能① 医学書院
----------------	-------------------------------------

授業要項詳細

科目名	解剖生理学Ⅲ	科目区分	専門基礎分野
担当教員	瀧本 章平	授業方法	講義
期間	1 年次 後期	曜日/時限	
単位/時間	1 単位/30 時間	回数	15 回

科目の概要	人間が生きていく上で欠かせないものとして感覚が存在する。感覚は外部の情報を入れるのに重要な役割を果たしている。本講義において神経系と感覚を学び、外的な因子に対する感覚のあり方について学ぶ。
科目の到達目標	1.神経の分類と、その伝導路について学び、中枢神経と末梢神経を理解する。 2.特殊感覚の仕組みを把握し、総合的に「感覚」について理解する。

授業回数	授業内容	授業方法	留意点
1	神経とは何か？	講義	板書にて行う
2	求心性神経と遠心性神経	講義	板書にて行う
3	無髄神経細胞と有髄神経細胞	講義	板書にて行う
4	神経伝達物質と活動電位	講義	板書にて行う
5	中枢神経と末梢神経の分類	講義	板書にて行う
6	神経の伝導路、錐体交叉、延髄交叉	講義	板書にて行う
7	筋紡錘・腱紡錘と神経、筋収縮連関	講義	板書にて行う
8	大脳皮質と大脳髄質の解剖と生理	講義	板書にて行う
9	特殊感覚の概要	講義	板書にて行う
10	視覚器の解剖と生理	講義	板書にて行う
11	嗅覚器の解剖と生理	講義	板書にて行う
12	味覚器の解剖と生理	講義	板書にて行う
13	聴覚器の解剖と生理（平衡覚含む）	講義	板書にて行う
14	皮膚の神経分布、皮膚の感覚	講義	板書にて行う
15	終講試験	客観テスト 解説	持込み不可

成績評価の方法	1.客観テストによる評価 なお、講義態度、講義への積極的な参加・発言・小テスト等を総合して評価する。
---------	---

使用テキスト 参考文献	系統看護学講座 専門基礎分野 解剖生理学 人体の構造と機能① 医学書院
----------------	-------------------------------------

授業要項詳細

科目名	解剖生理学Ⅳ	科目区分	専門基礎分野
担当教員	長戸 康和	授業方法	講義
期間	1 年次 前期・後期	曜日/時限	
単位/時間	1 単位/30 時間	回数	15 回

科目の概要	消化器系の構造と機能、内分泌器官の構造とホルモン分泌のしくみを学ぶ。
科目の到達目標	1.消化器官の構成についての知識を習得し、消化吸収の仕組みを理解する。 2.内分泌器官とホルモンの機能についての知識を習得する。

授業回数	授業内容	授業方法	留意点
1	ヒトは何を食べてきたのか、消化器官の進化から	講義	食物摂取を進化の視点から考察
2	消化器官とは、消化器官の構造	講義	消化管と消化腺の構成を理解する
3	消化器官のはじまり、消化器官の発生と腹膜	講義	消化器官の形成過程を理解する
4	口腔の器官の構造と機能、美味しく食べるために	講義	咀嚼・味覚・嗅覚などの仕組みを知る
5	咽頭から食道へ、嚥下の仕組みと嚥下リスク	講義	咽頭・食道の構成と嚥下機能を知る
6	胃と小腸の構造と機能	講義	胃と小腸の構成要素と機能を知る
7	肝臓と膵臓の構造と機能	講義	肝臓と膵臓の構造と機能を理解する
8	消化と吸収のしくみ	講義	消化吸収に関わる仕組みを知る
9	大腸と肛門、糞便の形成と排便のしくみ	講義	大腸の構造と機能、排便反射を理解
10	美食の代償、ヒトはなぜ太るのか	講義	摂食と肥満との関係を探る
11	内分泌器官とは、視床下部・下垂体系の構成	講義	ホルモン分泌の制御システムを知る
12	副腎・甲状腺・松果体	講義	主要な内分泌器官を知る
13	代謝とホルモン	講義	体液調節・糖代謝に関わるホルモンを知る
14	1.生殖機能とホルモン 2.ホルモンと自律神経の役割、恒常性の維持から	講義	性ホルモンと生殖機能の関係を理解する 恒常性維持の視点からホルモン分泌を考える
15	終講試験	客観テスト 解説	恒常性維持の視点からホルモン分泌を考える

成績評価の方法	1.客観テストによる評価 なお、講義態度、講義への積極的な参加・発言・小テスト等を総合して評価する。
---------	---

使用テキスト 参考文献	系統看護学講座 専門基礎分野 解剖生理学 人体の構造と機能① 医学書院
----------------	-------------------------------------

授業要項詳細

科目名	解剖生理学Ⅴ	科目区分	専門基礎分野
担当教員	長戸 康和	授業方法	講義
期間	1 年次 後期	曜日/時限	
単位/時間	1 単位/15 時間	回数	8 回

科目の概要	人体を構成する成分のうち約 60%が水分である（成人の場合）。その水分の調節を行うものが泌尿器であるが、泌尿器は同時に体内の老廃物を排泄する作用も有している。最終的に老廃物を排泄する部位は一般的に生殖器系と同一部位であるため、併せて学習する。
科目の到達目標	1.泌尿器系において尿を生成する過程及び、水分の出納を理解する。 2.生殖器系の解剖生理について理解する。 3.ホルモンの変動、受精から着床（妊娠成立）までの流れを理解する。

授業回数	授業内容	授業方法	留意点
1	1.泌尿器とは何か？ 2.腎臓の構造と機能	講義	板書にて行う
2	1.糸球体ろ過、GFR 2.腎皮質と腎髄質	講義	板書にて行う
3	1.ネフロン、尿細管再吸収 2.レニン-アンジオテンシン-アルドステロン系	講義	板書にて行う
4	1.排尿路	講義	板書にて行う
5	1.生殖器系概要	講義	板書にて行う
6	1.男性生殖器の構造と機能	講義	板書にて行う
7	1.女性生殖器の構造と機能 2.月経とホルモン変化	講義	板書にて行う
8	終講試験	客観テスト 解説	持込み不可

成績評価の方法	1.客観テストによる評価 なお、講義態度、講義への積極的な参加・発言・小テスト等を総合して評価する。
---------	---

使用テキスト 参考文献	系統看護学講座 専門基礎分野 解剖生理学 人体の構造と機能① 医学書院
----------------	-------------------------------------

授業要項詳細

科目名	生化学	科目区分	専門基礎分野
担当教員	田村 京子	授業方法	講義
期間	1 年次 後期	曜日/時限	
単位/時間	1 単位/30 時間	回数	15 回

科目の概要	生体の基本物質は、高分子からビタミン・無機塩などの低分子まで様々であり、これらが複雑に作用して生命活動が維持されていることを系統的に学習する。
科目の到達目標	1.細胞の構造や機能のしくみを理解する。 2.各栄養素の代謝経路のしくみを理解する。 3.遺伝情報である DNA の構造や複製、転写、翻訳のしくみを理解する。

授業回数	授業内容	授業方法	留意点
1	1.代謝総論	講義	代謝総論の章を参照
2	1.細胞の構造と機能	講義	細胞の章を参照
3	1.糖類と糖質代謝 1)糖とは 2)糖質代謝の概要、解糖系、TCA 回路	講義	糖類、糖質代謝の章を参照
4	1.糖質代謝 その1 1)グリコーゲンの合成と分解 2)糖新生	講義	糖類、糖質代謝の章を参照
5	1.糖質代謝 その2 3)ペントースリン酸回路 4)糖新生 5)血糖調節	講義	糖類、糖質代謝の章を参照
6	1.脂質と脂質代謝 1)脂質とは 2)脂肪酸の分解	講義	脂質、脂質代謝の章を参照
7	1.脂質代謝 1)脂肪酸と脂肪の合成 2) コレステロールの代謝 3)脂質によるエネルギー産生系	講義	脂質、脂質代謝の章を参照
8	1.アミノ酸とタンパク質 1)タンパク質とは	講義	アミノ酸とタンパク質の章を参照
9	1.タンパク質とアミノ酸の代謝	講義	タンパク質とアミノ酸の代謝の章を参照
10	1.代謝の異常 1)糖尿病、脂質異常症、痛風	講義	エネルギー代謝の統合と制御の章を参照
11	1.ビタミン 1)水溶性ビタミン 2) 脂溶性ビタミン	講義	ビタミンの章を参照
12	1.酵素 1)酵素の役割、性質、分類	講義	酵素の章を参照
13	1.核酸とヌクレオチド 1)核酸とは 2)DNA,RNA の構造と性質	講義	核酸とヌクレオチド、核酸とヌクレオチドの代謝、遺伝情報の章を参照
14	1.遺伝情報 1)DNA の複製、転写 2)病気と遺伝子	講義	遺伝情報の章を参照
15	終講試験	客観テスト 解説	

成績評価の方法	1.客観テストによる評価 2.論文体による評価
---------	----------------------------

使用テキスト 参考文献	系統看護学講座 専門基礎分野 生化学 人体の構造と機能② 医学書院
----------------	-----------------------------------

授業要項詳細

科目名	臨床栄養学	科目区分	専門基礎分野
担当教員	小林 和恵	授業方法	講義
期間	2 年次 前期	曜日/時限	
単位/時間	1 単位/30 時間	回数	15 回

科目の概要	人間にとっての栄養の意義、栄養と健康の関わりについて、栄養の基本的概念と各種栄養素を学ぶ。 また、健康の維持増進、健康障害の治療、食事療法に関する基礎的知識を学ぶ。
科目の到達目標	1.人間にとっての栄養の意義を理解する。 2.人生各期における食事摂取基準の特徴および望ましい食生活を理解する。 3.食事療法の基礎的知識を理解する。

授業回数	授業内容	授業方法	留意点
1	1.臨床栄養の概念 1) 栄養の意義および目的 2.栄養とは 1) 栄養と栄養素	講義	
2	1.栄養素の分類① 1) たんぱく質 2) 脂質 3)炭水化物	講義	
3	1.栄養素の分類② 1) ビタミン 2) ミネラル 2.栄養アセスメント	講義	
4	1.食品成分と食事摂取基準 1) 食品成分とエネルギー 2) 食事摂取基準	講義	
5	1.日常生活と栄養 1) 人生各期における健康生活と栄養	講義	
6	1.療養生活と栄養 1) 栄養成分別のコントロール食 (1) 病人食の特徴と種類	講義	
7	1.疾患別食事療法 1) 糖尿病① (1) 食事療法の基本方針 (2) 栄養基準の考え方 (3) 看護上の注意	講義	
8	1.疾患別食事療法 1) 糖尿病② (1) 食事療法の基本方針 (2) 栄養基準の考え方 (3) 看護上の注意	講義	
9	1.疾患別食事療法 1) 高血圧・高脂血症① (1) 食事療法の基本方針 (2) 栄養基準の考え方 (3) 看護上の注意	講義	
10	1.疾患別食事療法 1) 高血圧・高脂血症② (1) 食事療法の基本方針 (2) 栄養基準の考え方 (3) 看護上の注意	講義	

授業回数	授業内容	授業方法	留意点
11	1.疾患別食事療法 1) 心不全① (1) 食事療法の基本方針 (2) 栄養基準の考え方 (3) 看護上の注意	講義	
12	1.疾患別食事療法 1) 心不全② (1) 食事療法の基本方針 (2) 栄養基準の考え方 (3) 看護上の注意	講義	
13	1.疾患別食事療法 1) 腎疾患① (1) 食事療法の基本方針 (2) 栄養基準の考え方 (3) 看護上の注意	講義	
14	1.疾患別食事療法 1) 腎疾患② (1) 食事療法の基本方針 (2) 栄養基準の考え方 (3) 看護上の注意	講義	
15	終講試験	客観テスト 解説	

成績評価の方法	客観テストによる評価
---------	------------

使用テキスト 参考文献	系統看護学講座 専門基礎分野 栄養学 人体の構造と機能③ 医学書院
----------------	-----------------------------------

専門基礎分野

疾病の成り立ちと回復の促進

授業要項詳細

科目名	微生物学	科目区分	専門基礎分野
担当教員	蓮沼 裕也	授業方法	講義
期間	1 年次 後期	曜日/時限	
単位/時間	1 単位/30 時間	回数	15 回

科目の概要	病院感染など医療現場で起こる問題を解決するために必要な「感染制御」に関して、微生物学的な側面から基礎的知識を教授する。
科目の到達目標	1.感染症の原因微生物に関して、微生物学的特徴とそれを制御するための方法を理解する。

授業回数	授業内容	授業方法	留意点
1	1.微生物学総論 1)微生物の分類と特徴	講義	
2	1.関係法規 1)医療法、感染症法	講義	
3	1.常在菌・感染と免疫 1) 常在菌叢、自然免疫と獲得免疫	講義	
4	1.滅菌と消毒 1) 各種滅菌法、各種消毒法	講義	
5	1.細菌学① 1) グラム陽性球菌、グラム陽性桿菌	講義	
6	1.細菌学② 1) グラム陰性球菌、グラム陰性桿菌	講義	
7	1.細菌学③ 1) グラム陰性桿菌	講義	
8	1.細菌学④ 1) その他の細菌	講義	
9	1.真菌・寄生虫 1) 真菌各論、寄生虫各論	講義	
10	1.ウイルス 1) ウイルス各論	講義	
11	1.感染症検査法 1) 検体採取法、感染症検査法	講義	
12	1.感染制御① 1) 標準予防策、感染経路別予防客観テスト・解説策	講義	
13	1.感染制御② 1) ワクチン、抗菌薬	講義	
14	1.感染制御③ 1) 医療関連感染	講義	
15	終講試験	客観テスト・解説	

成績評価の方法	1.客観テストによる評価 2.論文体テスト なお、講義への出席、講義への取り組みを含め、総合的に評価する
---------	--

使用テキスト 参考文献	系統看護学講座 専門基礎分野 微生物学 疾病のなりたちと回復の促進④ 医学書院
----------------	---

授業要項詳細

科目名	病理学	科目区分	専門基礎分野
担当教員	山崎 洋次	授業方法	講義
期間	1 年次 後期	曜日/時限	
単位/時間	1 単位/30 時間	回数	15 回

科目の概要	疾病による形態や機能、代謝の異常がどのように生じるのかを、疾病の原因や発生、進展、転帰を細胞の変化としてとらえ、看護をする上での基礎的知識を学習する。また、身体各部の臓器の症状、病態を解剖生理と関連づけて理解できるよう学習する。
科目の到達目標	1. 疾病の要因とその成り立ちについて理解する。 2. 症候論から見た病態を理解する。

授業回数	授業内容	授業方法	留意点
1	生体の反応と疾病の機序 血行障害	講義	
2	炎症 免疫疾患／感染症	講義	
3	変性・壊死・萎縮・老化	講義	
4	腫瘍	講義	
5	先天異常 代謝異常	講義	
6	病態症候論① ショック／意識障害／浮腫	講義	
7	病態症候論② 貧血／出血傾向／リンパ節浮腫	講義	
8	病態症候論③ 頭痛／痙攣／運動麻痺／歩行障害	講義	
9	病態症候論④ 胸痛／不整脈／チアノーゼ／呼吸困難	講義	
10	病態症候論⑤ 腹痛／肥満／嚥下障害／吐血／下血	講義	
11	病態症候論⑥ 便秘／下痢／腹水／黄疸	講義	
12	病態症候論⑦ 脱水／排尿異常	講義	
13	病態症候論⑧ 視力障害／難聴／嚔声	講義	
14	まとめと確認	講義	
15	終講試験	客観テスト 解説	

成績評価の方法	客観テストによる評価
---------	------------

使用テキスト 参考文献	系統看護学講座 専門基礎分野 病理学 疾病のなりたちと回復の促進① 医学書店 系統看護学講座 専門基礎分野 病態生理学 疾病のなりたちと回復の促進② 医学書院
----------------	--

授業要項詳細

科目名	疾病治療論Ⅰ (整形外科疾患、運動器疾患、自己免疫疾患、アレルギー疾患、免疫不全、感染症)	科目区分	専門基礎分野
担当教員	山崎 洋次, 清水 大	授業方法	講義
期間	1 年次 後期	曜日/時限	
単位/時間	1 単位/30 時間	回数	15 回

科目の概要	疾病の起こるメカニズムを学習し、次にその不調がどのように現れるか実践的なとらえ方ができるように重要な症状・徴候の病態生理と対応や対処の原則を学ぶ。この科目では特に、骨・筋肉系および免疫系、アレルギーによる障害について学ぶ。
科目の到達目標	1.骨・筋肉系の疾患の成り立ちを理解し、疾患の回復過程、回復に必要な治療を理解する。 2.免疫系の疾患の成り立ちを理解し、疾患の回復過程、回復に必要な治療を理解する。 3.アレルギー疾患の成り立ちを理解し、疾患の回復過程、回復に必要な治療を理解する。

授業回数	授業内容	授業方法	留意点
1	運動器の構造と機能 骨 関節 筋肉	講義	
2	運動器疾患① 骨折とは 骨折の診断 骨折の治療	講義	
3	運動器疾患② 疾患の病態生理 治療	講義	
4	運動器疾患③ 疾患の病態生理 疾患と治療	講義	
5	運動器疾患④ 疾患の病態生理 治療	講義	
6	運動器疾患⑤ 疾患の病態生理 治療	講義	
7	運動器疾患⑥ 疾患の病態生理 治療	講義	
8	免疫アレルギーの基礎的知識 アレルギー総論 アレルギー疾患	講義	

授業回数	授業内容	授業方法	留意点
9	主な疾病と診療① アレルギー疾患	講義	
10	主な疾病と診療② アレルギー	講義	
11	主な疾病と診療① 膠原病 関節リュウマチ各論	講義	
12	主な疾病と診療② 膠原病 多発性筋炎 皮膚筋炎各論	講義	
12	主な疾病と診療③ 膠原病 S L E	講義	
13	主な疾病と診療① 免疫不全症	講義	
14	アレルギー疾患・膠原病・免疫不全症まとめ	講義	
15	終講試験	客観テスト 解説	

成績評価の方法	客観テストによる評価
---------	------------

使用テキスト	系統看護学講座 専門基礎分野 解剖生理学 人体の構造と機能① 医学書院 系統看護学講座 専門分野Ⅱ 運動器 成人看護学⑩ 医学書院 系統看護学講座 専門分野Ⅱ アレルギー・膠原病 感染症 成人看護学⑪ 医学書院
参考文献	系統看護学講座 専門基礎分野 病態生理学 疾病の成り立ちと促進② 医学書院

授業要項詳細

科目名	疾病治療論Ⅱ (血液・造血器疾患、循環器疾患、 呼吸器疾患)	科目区分	専門基礎分野
担当教員	廣瀬 好文	授業方法	講義
期間	2 年次 後期	曜日/時限	
単位/時間	1 単位/30 時間	回数	15 回

科目の概要	疾病の起こるメカニズムを学習し、次にその不調がどのように現れるか実践的なとらえ方ができるように重要な症状・徴候の病態生理と対応や対処の原則を学ぶ。この科目では特に、血液・造血器、循環器、呼吸器の障害について学ぶ。
科目の到達目標	1.循環器系疾患の成り立ちを理解し、疾患の回復過程、回復に必要な治療を理解する。 2.造血器系疾患の成り立ちを理解し、疾患の回復過程、回復に必要な治療を理解する。 3.呼吸器系疾患の成り立ちを理解し、疾患の回復過程、回復に必要な治療を理解する。

授業回数	授業内容	授業方法	留意点
1	循環器系疾患の病態生理、診断、検査、治療、予防① 高血圧症／動脈硬化症／閉塞性動脈硬化症／血栓症／ 塞栓症	講義	
2	循環器系疾患の病態生理、診断、検査、治療、予防② 大動脈疾患(大動脈瘤、大動脈解離)／ 静脈系疾患（下肢静脈瘤）	講義	
3	循環器系疾患の病態生理、診断、検査、治療、予防③ 心不全／心タンポナーデ／心臓弁膜症	講義	
4	循環器系疾患の病態生理、診断、検査、治療、予防④ 先天性心疾患／虚血性心疾患	講義	
5	循環器系疾患の病態生理、診断、検査、治療、予防⑤ 心電図／不整脈	講義	
6	造血器系疾患の病態生理、診断、検査、治療① 血液の解剖／貧血／再生不良性貧血	講義	
7	造血器系疾患の病態生理、診断、検査、治療② 白血病 検査：骨髄穿刺 治療：骨髄移植	講義	
8	造血器系疾患の病態生理、診断、検査、治療③ 悪性リンパ腫／多発性骨髄腫／血友病 主な検査・治療処置：化学療法、輸血、 感染防止（クリーンルーム）	講義	
9	呼吸器系疾患病態生理、診断、検査、治療、予防① 肺炎／肺結核	講義	
10	呼吸器系疾患病態生理、診断、検査、治療、予防② 気胸／肺癌	講義	

授業回数	授業内容	授業方法	留意点
11	呼吸器系疾患病態生理、診断、検査、治療、予防③ 気管支拡張症／肺気腫／気管支喘息	講義	
12	呼吸器系疾患病態生理、診断、検査、治療、予防④ 呼吸困難／呼吸不全／咳／喀痰	講義	
13	呼吸器系疾患病態生理、診断、検査、治療、予防⑤ 気管支造影／放射線療法／化学療法	講義	
14	呼吸器系疾患病態生理、診断、検査、治療、予防⑥ 薬物療法／IPPB／手術療法(肺切除)	講義	
15	終講試験	客観テスト 解説	

成績評価の方法	客観テストによる評価
---------	------------

使用テキスト	系統看護学講座 専門分野Ⅱ 呼吸器 成人看護学② 医学書院 系統看護学講座 専門分野Ⅱ 循環器 成人看護学③ 医学書院 系統看護学講座 専門分野Ⅱ 血液・造血器 成人看護学④ 医学書院
参考文献	系統看護学講座 専門基礎分野 病態生理学 疾病の成り立ちと回復の促進② 医学書院

授業要項詳細

科目名	疾病治療論Ⅲ (脳・神経、感覚器疾患、腎・泌尿器疾患、 水・電解質異常、生殖器疾患)	科目区分	専門基礎分野
担当教員	田中 俊英, 高嶋 英樹 他	授業方法	講義
期間	2 年次 前期・後期	曜日/時限	
単位/時間	1 単位/30 時間	回数	15 回

科目の概要	疾病の起こるメカニズムを学習し、次にその不調がどのように現れるか実践的なとらえ方ができるように重要な症状・徴候の病態生理と対応や対処の原則を学ぶ。この科目では、特に神経機能、排泄機能、生殖機能の障害について学ぶ。
科目の到達目標	1.脳神経系疾患の成り立ちを理解し、疾病の回復過程、回復に必要な治療を理解する。 2.感覚器系疾患の成り立ちを理解し、疾病の回復過程、回復に必要な治療を理解する。 3.腎・泌尿器系疾患の成り立ちを理解し、疾病の回復過程、回復に必要な治療を理解する。 4.生殖器疾患の成り立ちを理解し、疾病の回復過程、回復に必要な治療を理解する。

授業回数	授業内容	授業方法	留意点
1	1.脳神経系疾患の病態生理、診断、検査、治療、予防① 1)脳出血、脳梗塞 2)脳動脈瘤、くも膜下出血 (1)治療：手術療法(血腫除去術、クリッピング)	講義	
2	1.脳神経系疾患の病態生理、診断、検査、治療、予防② 1)主な症状 意識障害、運動麻痺、言語障害	講義	
3	1.脳神経系疾患の病態生理、診断、検査、治療、予防③ 1)脳腫瘍 (1)主な症状：脳圧亢進 (2)検査：腰椎穿刺、薬物療法 (3)手術療法(脳室ドレナージ、開頭術)、頭部外傷	講義	
4	1.脳神経系疾患の病態生理、診断、検査、治療、予防④ 1)パーキンソン病、筋萎縮性側索硬化症	講義	
5	2.感覚器系疾患の病態生理、診断、検査、治療、予防① 1)網膜剥離、白内障、緑内障 (1)主な症状：視覚障害 (2)手術療法(光凝固、角膜移植)	講義	
6	2.感覚器系疾患の病態生理、診断、検査、治療、予防② 1)突発性難聴、メニエル氏病 (1)主な症状：耳鳴、めまい、聴力障害 (2)検査：平衡機能検査、聴覚検査 2)鼻出血 (1)主な治療：鼻洗浄	講義	

授業回数	授業内容	授業方法	留意点
	3)喉頭癌、口唇口蓋裂 (1)治療：手術療法		
7	2.感覚器系疾患の病態生理、診断、検査、治療、予防③ 1)熱傷、皮膚癌 2)主な症状：発疹、かゆみ 3)治療：薬物療法	講義	
8	3.腎・泌尿器系疾患の病態生理、診断、検査、治療、予防① 1)糸球体腎炎、腎不全、膀胱炎、ネフローゼ症候群	講義	
9	3.腎・泌尿器系疾患の病態生理、診断、検査、治療、予防② 1)膀胱癌、前立腺肥大、前立腺癌	講義	
10	3.腎・泌尿器系疾患の病態生理、診断、検査、治療、予防③ 1)主な症状 乏尿、無尿、排尿困難、血尿、浮腫	講義	
11	3.腎・泌尿器系疾患の病態生理、診断、検査、治療、予防④ 1)治療 安静療法、食事療法、人工透析、膀胱鏡、手術療法(腎移植、 変更、膀胱内留置カテーテル法)	講義	
12	4.生殖器系疾患の病態生理、診断、検査、治療、予防① 1)不正出血、月経異常、下腹部痛、STD	講義	
13	4.生殖器系疾患の病態生理、診断、検査、治療、予防② 1)子宮内膜症、子宮筋腫、子宮癌 2)検査：子宮卵管造影	講義	
14	4.生殖器系疾患の病態生理、診断、検査、治療、予防③ 1)卵巣嚢腫、乳癌 2)主な検査：マンモグラフィー 3)治療：手術療法(子宮、乳房)	講義	
15	終講試験	客観テスト・解説	

成績評価の方法	客観テストによる評価
---------	------------

使用テキスト	系統看護学講座 専門分野Ⅱ 脳・神経 成人看護学⑦ 医学書院 系統看護学講座 専門分野Ⅱ 腎・泌尿器 成人看護学⑧ 医学書院 系統看護学講座 専門分野Ⅱ 女性生殖器 成人看護学⑨ 医学書院 系統看護学講座 専門分野Ⅱ 皮膚 成人看護学⑫ 医学書院 系統看護学講座 専門分野Ⅱ 眼 成人看護学⑬ 医学書院 系統看護学講座 専門分野Ⅱ 耳鼻咽喉 成人看護学⑭ 医学書院 参考文献 系統看護学講座 専門分野Ⅱ 歯・口腔 成人看護学⑮ 医学書院 系統看護学講座 専門基礎分野 病態生理学 疾病の成り立ちと回復の促進② 医学書院
--------	---

授業要項詳細

科目名	疾病治療論Ⅳ (消化管・消化器疾患、代謝・栄養疾患)	科目区分	専門基礎分野
担当教員	山崎 洋次	授業方法	講義
期間	2 年次 前期	曜日/時限	
単位/時間	1 単位/30 時間	回数	15 回

科目の概要	疾病の起こるメカニズムを学習し、次にその不調がどのように現れるか実践的なとらえ方ができるように重要な症状・徴候の病態生理と対応や対処の原則を学ぶ。この科目では、特に栄養の摂取・吸収・代謝機能の障害について学ぶ。
科目の到達目標	1.消化器系疾患の成り立ちを理解し、疾病の回復過程、回復に必要な治療を理解する。 2.内分泌・代謝系疾患の成り立ちを理解し、疾病の回復過程、回復に必要な治療を理解する。

授業回数	授業内容	授業方法	留意点
1	1.消化器系疾患の病態生理、診断、検査、治療、予防① 1)食道静脈瘤、食道癌、胃潰瘍、十二指腸潰瘍、胃がん	講義	
2	1.消化器系疾患の病態生理、診断、検査、治療、予防② 1)主な症状 食欲不振、嚥下困難、嘔気、嘔吐、吐血	講義	
3	1.消化器系疾患の病態生理、診断、検査、治療、予防③ 1)検査：胃透視、胃カメラ、内視鏡検査 2)治療：食事療法、手術療法	講義	
4	1.消化器系疾患の病態生理、診断、検査、治療、予防④ 1)大腸癌、クローン病、潰瘍性大腸炎、腸閉塞	講義	
5	1.消化器系疾患の病態生理、診断、検査、治療、予防⑤ 1)主な症状：腹痛、便秘、下痢 2)治療：手療法(人工肛門造設術、腸切除)	講義	
6	1.消化器系疾患の病態生理、診断、検査、治療、予防⑥ 1)肝炎、肝硬変、肝臓癌、アルコール肝障害	講義	
7	1.消化器系疾患の病態生理、診断、検査、治療、予防⑦ 1)主な症状：腹水、黄疸、肝性昏睡	講義	
8	1.消化器系疾患の病態生理、診断、検査、治療、予防⑧ 1)検査：肝生検 2)治療：インターフェロン療法、PTSD 療法、手術療法(肝切除術)	講義	
9	1.消化器系疾患の病態生理、診断、検査、治療、予防⑨ 1)急性膵炎、膵臓癌	講義	
10	2.内分泌・代謝系疾患の病態生理、診断、検査、治療、予防① 1)視床下部-下垂体前葉・後葉系疾患	講義	
11	2.内分泌・代謝系疾患の病態生理、診断、検査、治療、予防② 1)甲状腺機能亢進症	講義	

授業回数	授業内容	授業方法	留意点
12	2.内分泌・代謝系疾患の病態生理、診断、検査、治療、予防③ 1)副腎疾患	講義	
13	2. 内分泌・代謝系疾患の病態生理、診断、検査、治療、予防④ 1)糖尿病	講義	
14	2. 内分泌・代謝系疾患の病態生理、診断、検査、治療、予防⑤ 1)脂質異常症	講義	
15	終講試験	客観テスト 解説	

成績評価の方法	客観テストによる評価
---------	------------

使用テキスト	系統看護学講座 専門分野Ⅱ 消化器 成人看護学⑤ 医学書院 系統看護学講座 専門分野Ⅱ 内分泌・代謝 成人看護学⑥ 医学書院
参考文献	系統看護学講座 専門基礎分野 病態生理学 疾病の成り立ちと回復の促進② 医学書院

授業要項詳細

科目名	薬理学	科目区分	専門基礎分野
担当教員	屋代 郁子, 吉澤 一巳	授業方法	講義
期間	1 年次 後期	曜日/時限	
単位/時間	1 単位/30 時間	回数	15 回

科目の概要	薬理学総論及び看護師が知っておくべき代表的な薬物の作用機序・適応・副作用・注意事項等を学び、臨床における薬物治療の基礎を理解する。
科目の到達目標	1. 基本的薬物の薬理作用とその適応・副作用を理解する。 2. 薬物の治療効果を高め、安全な与薬管理・服薬指導をする上での留意点を理解する。

授業回数	授業内容	授業方法	留意点
1	薬理学総論 薬物治療をめざすもの	講義	
2	薬理学総論 薬の作用の仕方 薬の体内動態	講義	
3	薬理学総論 薬効に影響する因子	講義	
4	薬理学総論 薬物中毒について 薬の管理と治験	講義	
5	抗感染症薬 感染症治療に関する基礎事項	講義	
6	抗感染症薬 抗菌薬各論	講義	
7	抗癌薬 抗癌薬の作用機序・副作用対策 免疫治療薬 抑制剤・増強剤の作用機序	講義	
8	抗アレルギー薬・抗炎症薬・末梢神経作用薬 アレルギー・炎症の起こる仕組みと薬の作用機序	講義	
9	中枢神経作用薬 麻酔薬・催眠薬・抗不安薬 中枢性鎮痛薬（麻薬）の作用及び副作用について	講義	
10	心臓の血管系に作用する薬物Ⅰ	講義	
11	心臓の血管系に作用する薬物Ⅱ	講義	
12	物質代謝に作用する薬物	講義	
13	抗がん薬 外用薬	講義	
14	漢方薬	講義	
15	終講試験	客観テスト 解説	

成績評価の方法	客観テストによる評価
---------	------------

使用テキスト 参考文献	系統看護学講座 薬理学 疾病のなりたちと回復の促進③ 医学書院
----------------	---------------------------------

授業要項詳細

科目名	リハビリテーション学	科目区分	専門基礎分野
担当教員	井上 真秀	授業方法	講義・演習
期間	2 年次 前期	曜日/時限	
単位/時間	1 単位/15 時間	回数	8 回

科目の概要	1. 各リハビリテーション職種と連携して仕事をするために必要な知識として、リハビリテーションの体系、各疾患におけるリハビリテーションの役割について理解する。 2. 各専門職種の役割と連携方法、病院から施設、地域における医療と福祉の連携方法などについて実際の事例を交えながら概説する。 3. 具体的な事例などを活用して、実際のリハビリテーションについて理解する。
科目の到達目標	1. リハビリテーションに関する知識やその役割を理解し、その一員になるべく看護師に必要な知識、技術、態度を身につけるための基本を習得する。 2. リハビリテーションの基礎知識を得て疾患と関連する心身機能の構造や活動を理解する。

授業回数	授業内容	授業方法	留意点
1	リハビリテーション学の定義と理念 リハビリテーションの関連職種	講義	リハビリテーション医学を理解する。 リハビリテーション関連職種を知る。
2	疾患別リハビリテーションの実際①	講義	脳卒中、整形外科疾患などの運動器疾患に対するリハビリテーションを理解する
3	疾患別リハビリテーションの実際②	講義	心疾患、呼吸器疾患、がんなどの内部疾患に対するリハビリテーションを理解する
4	機能障害の評価と練習（運動機能中心に）	講義	関節可動域制限や筋力低下に対する評価と練習を理解する。
5	歩行能力と日常生活動作(ADL)	講義	歩行や ADL の評価を理解し日常生活での問題点を抽出する。
6	リハビリテーションに用いられる主要な概念	講義	国際障害分類 国際生活機能分類
7	地域でのリハビリテーション 地域包括ケアシステム ロコモティブシンドロームとフレイル	講義・演習	地域での高齢者リハビリテーション活動を理解し、高齢者の運動特徴を知る。 地域包括ケアシステム理念を理解する。 地域包括ケアシステムの構成要素や課題を考察する。
8	終講試験	客観テスト 解説	

成績評価の方法	1.客観テストによる評価 2.論文体による評価 なお、講義への出席を含め、総合的に評価する
---------	--

使用テキスト 参考文献	ナーシング・グラフィカ 成人看護学⑤ リハビリテーション看護 メディカ出版
----------------	---------------------------------------

専門基礎分野

健康支援と社会保障制度

授業要項詳細

科目名	現代医療論	科目区分	専門基礎分野
担当教員	山崎 洋次	授業方法	講義
期間	1 年次 後期	曜日/時限	
単位/時間	1 単位/15 時間	回数	8 回

科目の概要	医学・医療とは何かを理解し、深く考え、正しく実践してもらうことを目的に学ぶ。
科目の到達目標	1.高齢化社会、遺伝子治療、再生医療等現在の又これからの医療における看護学を理解する。 2.我が国の医療保障制度、医療経済の現状と問題点を理解する。

授業回数	授業内容	授業方法	留意点
1	近代医学の発展	講義	歴史を理解し現在を考える
2	健康とは	講義	健康とはどのような状態か
3	現在の疾病構造	講義	主に生活習慣との関連について
4	高齢化への対応	講義	未病対策及び高齢者への看護
5	医療供給体制	講義	医療関係者の現況と養成の実態
6	1.医療保障	講義	・保険制度・医療費増大について ・遺伝子治療、再生医療、臓器移植と看護
7	1.先進医療での看護死について	講義	先進医療での看護と「死」
8	終講試験	客観テスト 解説	

成績評価の方法	客観テストによる評価
---------	------------

使用テキスト 参考文献	系統看護学講座 専門基礎分野 総合医療論 健康支援と社会保障制度① 医学書院
----------------	--

授業要項詳細

科目名	公衆衛生	科目区分	専門基礎分野
担当教員	水谷 重憲	授業方法	講義
期間	2 年次 前期	曜日/時限	
単位/時間	1 単位/15 時間	回数	8 回

科目の概要	地域社会の人々の健康レベルを向上させるための知識を学ぶ。特に、講義を通じてヘルスプロモーション、健康と環境、疫学と健康指標、感染症とその予防対策、産業保健としての職業病とその発生要因、労働安全衛生法についての理解を深める。
科目の到達目標	1.地域社会における公衆衛生上の諸問題を表現することができる。 2.自身の意見を持ち、文章化してまとめる技能と疫学保健統計としての数的処理による評価手法を習得することができる。

授業回数	授業内容	授業方法	留意点
1	P H C とヘルスプロモーションによる Q O L 向上について	講義	
2	健康と環境 生態系と環境について	講義	
3	生活環境 福祉住環境とバリアフリーについて	講義	
4	疫学と健康指標 1 疫学・保健統計の基礎理解 コホート研究と症例対照研究について	講義	
5	疫学と健康指標 2 疫学・保健統計の基礎理解 相対危険と寄与危険について	講義	
6	感染症とその予防対策 産業保健としての職業病とその発生要因	講義	
7	労働安全衛生法について	講義	
8	終講試験	客観テスト 解説	

成績評価の方法	客観テストによる評価 論文体による評価
---------	------------------------

使用テキスト	系統看護学講座 専門基礎分野 公衆衛生 康支援と社会保障制度② 医学書院
--------	--------------------------------------

授業要項詳細

科目名	社会福祉制度論	科目区分	専門基礎分野
担当教員	吉田 浩滋	授業方法	講義
期間	2 年次 前期・後期	曜日/時限	
単位/時間	1 単位/30 時間	回数	15 回

科目の概要	現代の少子高齢化、超高齢化社会に対応した国の社会福祉・社会保障の変遷を学び、社会福祉や社会資源の実際を理解する必要がある。また、障害者やライフサイクルに応じた諸制度を理解する事で、高齢化への対応を視野に人間の健康を社会的側面からとらえ、そのアプローチの概要を学ぶ。
科目の到達目標	1. 社会福祉の理念と基本を理解し、人間の健康を社会的側面からとらえる視点とそのアプローチの概要を理解する。 2. 実践における協働・チームアプローチの重要性を理解する。さらに社会保障・社会福祉の理念、考え方とその具体的な諸制度・施策の基礎を理解する。 3. 国民の健康的な生活に重要な制度・政策を理解する。

授業回数	授業内容	授業方法	留意点
1	現代社会と社会福祉 1)現代社会の現状と社会福祉 2)社会福祉の原理と理念 3)社会福祉の理論	講義	
2	社会福祉の歴史 1)近世までの社会福祉の歴史 2)近代の社会福祉の発展 3)第二次世界大戦後の日本の社会福祉	講義	
3	社会福祉援助の方法 1)社会福祉のニーズとサービス 2)相談援助技術 3)社会福祉の実践事情	講義	
4	社会福祉の担い手 1)社会福祉従事者・専門職の現状と資格制度 2)社会福祉専門職の倫理と価値 3)専門職以外の社会福祉の担い手	講義	
5	社会福祉の行財政のしくみ 1)福祉行政のしくみ 2)福祉財政のしくみ 3)福祉サービスのしくみ	講義	
6	社会福祉をめぐる諸問題 1)社会福祉をめぐる諸問題 2)利用者の権利を守るしくみ 3)地域福祉と民間活動	講義	
7	中間まとめ	講義	
8	社会保障のしくみ 1)社会保障の理念と体系 2)社会保障制度 3)社会福祉制度	講義	
9	貧困への保障 1)貧困と公的扶助 2)生活保護制度 3)低所得者対策	講義	
10	子どもと家庭福祉 1)少子化と保育・子育て支援 2)児童虐待と児童養護のしくみ 3)母子・寡婦福祉	講義	
11	障害者福祉	講義	

	1)障害とノーマライゼーション・自立 2)障害者関連書制度 3)障害者自立支援法と障害者総合支援法		
12	高齢者福祉 1)介護保険制度 2)高齢者福祉諸制度 3)高齢者虐待への対策	講義	
13	医療保障 1)医療提供体制 2)医療保険制度 3)高齢者医療とその他医療制度の諸課題	講義	
14	所得保障 1)所得保障制度のしくみ 2)年金制度 3)その他所得保障制度と施策	講義	
15	終講試験	客観テスト 解説	

成績評価の方法	客観テストによる評価
---------	------------

使用テキスト 参考文献	系統看護学講座 専門基礎分野 社会保障・社会福祉 健康支援と社会保障制度③ 医学書院
----------------	--

授業要項詳細

科目名	経済と看護	科目区分	専門基礎分野
担当教員	山田 康夫	授業方法	講義・演習
期間	2 年次 前期・後期	曜日/時限	
単位/時間	1 単位/30 時間	回数	15 回

科目の概要	今日、高齢社会の伸展に伴い、国民医療費の高沸、看護師不足、病院の経営危機などの諸問題が生じており、単に財政的な問題に止まらず、看護・医療の質に関わる問題に繋がっている。これから看護職を目指すものとして、看護師の雇用環境や働き方、看護実践などについて経済学的発想を持つことが必要である。看護・医療を経済学の視点から捉えその有用性を知る。
科目の到達目標	1.看護・医療を経済的側面から考察する意義を表現することができる。 2.看護・医療サービスを経済学の視点から把握し、その有用性を列挙することができる。 3.看護・医療の経済的側面からみた諸問題を分類することができる。

授業回数	授業内容	授業方法	留意点
1	医療・看護と経済学① (経済学の概要、看護経済の概要)	講義	・テキストの所定箇所を読んで授業に臨むこと。 ・前回授業までの配布資料等を持参すること。
2	医療・看護と経済学② (看護職に経済学の知識が必要な理由)	講義	
3	経済学からみた看護サービス (看護サービスの捉え方、看護・医療サービスの特殊性)	講義	
4	社会経済環境と看護師の雇用 (看護・医療サービスの消費と生産、看護師の雇用状況)	講義	
5	診療報酬制度① (診療報酬制度のしくみ、看護師業務への影響)	講義	
6	診療報酬制度② (診療報酬制度と看護師の技能に関する問題)	講義	
7	看護師の労働供給 (労働供給理論、女子労働者の労働供給行動、看護師の労働供給行動)	講義	
8	労働市場における搾取と労働力不足 (看護師の労働需要と市場構造、看護師サービスの生産と看護師の労働力、看護師にみられる労働力不足)	講義	
9	看護師間のさまざまな格差 (格差の背景、賃金と労働条件、人的資本論からの分析)	講義	
10	階層性と看護師の賃金格差 (賃金格差を生むメカニズム、看護師の労働市場、看護師の賃金を決める要因)	講義	
11	看護師の職務価値と賃金	講義	
12	看護師の雇用政策	講義	

授業回数	授業内容	授業方法	留意点
13	経済的視点から、看護師の労働条件や看護実践が評価される仕組みを考える	講義	・テーマをグループで話し合い 後発表。1G（4～6人）
14	テーマ「これからの看護師の役割と技能を考える」	演習	
15	終講試験	客観テスト 解説	

成績評価の方法	客観テストによる評価
---------	------------

使用テキスト 参考文献	系統看護学講座 社会保障・社会福祉 健康支援と社会福祉制度③ 医学書院 看護師の働き方を経済学から読み解く 医学書院 経済学入門 弘文堂
----------------	--

授業要項詳細

科目名	看護関係法令	科目区分	専門基礎分野
担当教員	柴野 荘一, 小笠原 幸	授業方法	講義・演習
期間	3 年次 前期	曜日/時限	
単位/時間	1 単位/30 時間	回数	15 回

科目の概要	看護師は、多くの法規に関係しており、日々の看護活動を行う上で必要な法規を理解することが必要である。したがって、看護師の資格や業務を定めた保健師助産師看護師法を理解し、看護師が社会人として、職業人として働くために必要な法規を学ぶ。また、看護に関係する法規の基本的事項を学ぶ。
科目の到達目標	1. 看護者が関係法規を学ぶ意義を理解する。 2. 保健師助産師看護師法の目的と内容を理解する。 3. 看護に必要な法令の基本的知識を理解する。

授業回数	授業内容	授業方法	留意点
1	1. 看護師と関係法規の関わり 2. 看護法① 1) 保健師助産師看護師法 (1) 目的 (2) 定義 (3) 免許 (4) 業務 (5) 義務 (6) 試験 (7) 医療過誤 (8) 罰則	講義・演習	
2	1. 看護法② 1) 保健師助産師看護師法 (1) 目的 (2) 定義 (3) 免許 (4) 業務 (5) 義務 (6) 試験 (7) 医療過誤 (8) 罰則 2. 看護師等の人材確保の促進に関する法律	講義	
3	1. 労働法と社会基盤整備① 1) 労働法 (1) 労働基準法 (2) 労働安全衛生法 (3) 障害者の雇用の促進等に関する法律 (4) 雇用の分野における男女の均等な機会及び待遇の確保等に関する法律	講義	
4	1. 労働法と社会基盤整備② 1) 社会基盤整備等 (1) 男女協働参画社会基本法 (2) 配偶者からの暴力の防止及び被害者の保護等に関する法律 (3) 個人情報の保護に関する法律	講義・演習	
5	1. 医事法① 1) 医師法・歯科医師法 2) 医療法 (1) 目的 (2) 定義 (3) 病院等の人員 (4) 病院等の構造設備 (5) 診療に関する諸記録等 (6) 病床の機能分化、連携の推進	講義	
6	1. 医事法② 1) 医療関係資格法 (1) 各医療職種における定義、試験、業務	講義・演習	
7	1. 薬務法 1) 薬事一般に関する法律	講義	

授業回数	授業内容	授業方法	留意点
	(1)医療品、医療機器等の品質、有効性及び安全性の確保等に関する法律 2)麻薬・毒物等 (1)麻薬及び向精神薬取締法 (2)大麻取締法 (3)覚せい剤取締法 (4)毒物及び劇物取締法		
8	1.社会保険法 1)費用保障 (1)健康保険法 (2)国民健康保険法 (3)介護保険法 (4)その他における保険法 2)年金	講義	
9	1.福祉法① 1)共通的福祉 (1)社会福祉法 (2)生活保護法 (3)民法等－成年後見	講義	
10	1.福祉法② 1)児童分野 (1)児童福祉法 2)高齢分野 (1)老年福祉法 3)障害分野 (1)障害者基本法 (2)身体障害者福祉法 (3)知的障害者福祉法	講義	
11	1.保健衛生法① 1)共通保健法 (1)地域保健法 (2)健康増進法	講義	
12	1.保健衛生法② 1)分野別保健法 (1)精神保健及び精神障害者福祉に関する法律 (2)母子保健法 (3)母体保護法 (4)学校保健安全法 (5)がん対策基本法 (6)肝炎対策基本法 (7)アルコール健康障害対策基本法(平成 25 年) (8)アレルギー疾患対策基本法(平成 26 年) (9)難病の患者に対する医療等に関する法律(平成 26 年)	講義	
13	1.保健衛生法③ 1)感染症に関する法 (1)感染症の予防及び感染症の患者に対する医療に関する法律 (2)予防接種法 2)食品に関する法 (1)食品安全基本法(2)食品衛生法 (3)食品表示法	講義	
14	1.環境法 1)環境保全の基本法 (1)環境基本法 (2)公害の防止法	講義	
15	終講試験	客観テスト 解説	

成績評価の方法	客観テストによる評価
---------	------------

使用テキスト	系統看護学講座 看護関係法令 健康支援と社会保障制度④ 医学書院
参考文献	国民衛生の動向 厚生労働統計協会

授業要項詳細

科目名	健康行動論	科目区分	専門基礎分野
担当教員	金子 陽子	授業方法	講義・演習
期間	1 年次 後期	曜日/時限	
単位/時間	1 単位/15 時間	回数	8 回

科目の概要	健康とは何かを理解するための土台の科目とする。また、そのために、自分自身の健康に関心を持ち、かつ適切な健康管理を自ら行えるように、理論と具体的方法を学ぶ。具体的な内容として、専門分野の学びにつなげるため、健康への理解を深めるための健康で豊かな生活を考え、人間の生活と健康を多面的な支点で学び、健康の概念、健康の指標、健康に影響する因子を学習する。さらに人々の健康の状態および保健の動向と看護の関係性を知り、健康管理の理論と基本的方法を学ぶ。
科目の到達目標	1. 健康への理解を深め、健康意識を育て、自らの健康観をもつ必要性を理解する。 2. 健康で豊かな生活を考え、人間の生活と健康を多面的な支点で学び、健康の概念を理解する。 3. 人々の健康の状態および保健の動向と看護の関係性を学び、健康管理の理論と基本的方法を理解する。

授業回数	授業内容	授業方法	留意点	
1	健康の概念 1) 健康の定義 (1) 健康とは (2) WHO の定義 2) 健康を理解するための看護理論	講義・演習	テキストの所定箇所を読んで授業に臨むこと。 テキストに加えて、配布した講義資料等を事前閲覧、持参すること。	
2	健康の指標 1) 健康政策 (1) ヘルスプロモーション (2) 個人・集団の健康—生命の質を目指して 2) 健康に影響する因子 (1) 個人外的ストレス (2) 個人内的ストレス 3) 健康教育 (1) 健康教育とは (2) 公衆衛生における健康教育の歩み (3) 健康教育と行動変容 (4) 健康教育の内容	講義・演習		
3	ライフサイクルと健康 1) 発達段階的特徴と健康 2) 乳幼児期の健康 3) 学童期・思春期の健康 4) 青年期の健康 5) 成人期の健康 6) 高齢期の健康	講義・演習		
4	ライフサイクルと健康 1) 発達段階的特徴と健康 2) 乳幼児期の健康 3) 学童期・思春期の健康 4) 青年期の健康 5) 成人期の健康 6) 高齢期の健康	講義・演習		
5	障害児・障害者の健康 (身体的・精神的・社会的・スピリチュアル)	講義・演習		↓

授業回数	授業内容	授業方法	留意点
6	健康の危機管理 1) 水俣病、イタイイタイ病—環境との側面 2) 阪神淡路大震災、東日本大震災—災害看護につなげる 健康管理	講義・演習	テキストの所定箇所を読んで授業に臨むこと。 テキストに加えて、配布した講義資料等を事前閲覧、持参すること。
7	セクシュアリティと健康 1) ライフサイクルとセクシュアリティ 2) 若者と性 3) STD（エイズを含む）	講義・演習	テキストの所定箇所を読んで授業に臨むこと。 テキストに加えて、配布した講義資料等を事前閲覧、持参すること。
8	終講試験	客観テスト 解説	授業にて学習内容および配布資料を中心に学習し、終講試験に臨むこと。

成績評価の方法	1.客観テストによる評価
---------	--------------

使用テキスト 参考文献	系統看護学講座 基礎分野 社会学 医学書院 系統看護学講座 専門基礎分野 総合医療論 健康支援と社会保障制度 医学書院
----------------	--

専門分野 I

基礎看護学

授業要項詳細

科目名	看護学概論	科目区分	専門分野 I
担当教員	小笠原 幸	授業方法	講義・演習
期間	1 年次 前期	曜日/時限	
単位/時間	1 単位/30 時間	回数	15 回

科目の概要	進展する医療に対応し、看護師には療養支援の専門家として専門的知識・技術・態度が求められている。講義では「人間」「健康」「環境」「看護」をキーワードに看護の対象である人間を身体的・精神的・社会的・spiritual な側面を持つ統合体としての人間理解、健康の概念、看護の目的、役割を理解する。さらに看護実践における倫理と価値、倫理的ジレンマとは何かを学ぶ。
科目の到達目標	1. 看護の概念を理解する。 2. 看護の対象である人間を身体的・精神的・社会的・spiritual な側面を持つ統合体として理解する。 3. 健康の概念を理解する。 4. 看護の目的、役割を理解する。 5. 看護実践における倫理と価値、倫理的ジレンマとは何かを学ぶ。

授業回数	授業内容	授業方法	留意点
1	看護の歴史―職業としての看護 1. ナイチンゲールの看護の業績	講義	別紙配布資料に目を通しておく。
2	看護の対象である人間理解 その1 1. 成長発達する人間：人間とは何か―一生の営み―生きている、たくましく、良く生きていく 1) 発達課題とライフスタイル―成長発達の概念 2. 基本的欲求―ヘンダーソン、マズロー	講義 演習	演習 1. エリクソン、ハビー・ガースト生 活統合体の発達課題を参照し、自分自身の発達課題の考察
3	看護の対象である人間理解 その2 1. 生活統合体 1) 身体的・精神的・社会的・spiritual な側面を持つ統合体	演習	1. 演習事例「浜崎まゆみ」 演習 1. 身体的・精神的・社会的・spiritual な側面を持つ事実の見つけ方 演習 2. 発達課題と基本的欲求を示す事実の見つけ方
4	1. 身体的・精神的・社会的・spiritual な側面を持つ統合体―精神的側面、spiritual な側面との差異 「対」の概念	講義 演習	演習 1. 「対」の概念の捉え方
5	看護の対象である人間理解 その3 1. 環境と共存する 1) ストレス コーピング行動 2) 内部環境としてのホメオスタシス、外部環境	講義 演習	演習 1. 「浜崎まゆみ」さんのコーピング行動の分類
6	健康の概念 その1 1. 健康の定義 1) 病気、ウェルネス、安寧の定義 2) WHO の定義	演習	演習 1. 自分自身を「健康」だと感じるとき 演習 2. WHO「健康の定義」からみる健康の定義を知る意義

授業回数	授業内容	授業方法	留意点
	3)ナイチンゲールの定義 ヘンダーソンの定義		
7	健康の概念 その2 1.病気を抱えていても健康 1)病気という観点からみる健康の概念 2)安定性 実現性としての健康 3)健康と病気のモデル 健康と病気の統合	演習	演習1.「病気を抱えていても健康」の表現を変換する試み
8	看護の概念 その1 1.看護とは何か 2.ケアとは何か ケアの本質	講義 演習	演習1. ケアされたこと ケアしたこと
9	看護の概念 その2 1.ケアリングとは何か 2.ケアとケアリングの関係	演習	演習1.「温かな連鎖起こそうー僕はあきらめない」
10	看護の概念 その3 1.ケアの転換ー医療モデルから生活モデルへ 2.ケアされる人とケアする人の道後作用	演習 講義	演習1.「温かな連鎖起こそうー僕はあきらめない」
11	看護の概念 その4 1.看護の構造 2.看護の定義と特性	演習 講義	演習1「浜崎まゆみ」さんの看護の考察
12	看護の概念 その5 1.専門職団体の定義 JNA ANA ICN の定義	講義 演習	演習1「浜崎まゆみ」さんの尊厳を守る看護
13	看護の概念 その6 1.力 知識 意思 ーヘンダーソン 2.[皮膚の内側へ入る]とは?	演習	演習1「浜崎まゆみ」さんに必要な力 知識 意思 守る
14	看護の概念 その7 1.看護理論家が提唱する看護 ナイチンゲール ヘンダーソン	演習 講義	演習1「脳梗塞の在宅療養者と家族への看護」
15	終講試験	客観テスト 解説	講義内容を深く学習し臨む

成績評価の方法	客観テストによる評価
---------	------------

使用テキスト	系統看護学講座 看護学概論 基礎看護学① 医学書院 看護の基本となるものーヴァージニア・ヘンダーソン著 日本看護協会出版会 看護覚え書ー看護であること 看護でないことーフローレンス・ナイチンゲール 現代社
参考文献	

授業要項詳細

科目名	看護理論	科目区分	専門分野 I
担当教員	小笠原 幸	授業方法	講義・演習
期間	2 年次 前期・後期	曜日/時限	
単位/時間	1 単位／30 時間	回数	15 回

科目の概要	看護の歴史を概観し、看護理論家による代表的な看護理論をとりあげて学習する。看護理論に対する考えを表現することを重ね、自らの看護実践を振り返り、看護理論を活用して現象を意味づける。その過程を通して、看護に対する考えを意味づけ、看護観を深める。看護の見方や考え方を知ることにより、「看護とは何か」を探究する。 各理論①ナイチンゲール②ペプロウ③ヘンダーソン④ウィーデンバック⑤オレム⑥トラベルビー⑦ロイ⑧ワトソン⑨パースィ⑩ノディングス⑪M.ニューマン⑫ベナーについての理解が深まるように、講義と事例を使って演習、自己学習を組み合わせながら進める。
科目の到達目標	1.看護の歴史的変遷を概観し、看護の歴史的背景と現代の動向を知る。 2.看護理論を学ぶ意義を理解する。 3.各看護理論の特徴を知る。 4.臨床の場で体験した現象を学習した理論を基に、自己の看護に関して考察する。 5.「何が看護であるか」「看護として大切にすること」を問い続ける姿勢をもつ。

授業回数	授業内容	授業方法	留意点
1	看護の歴史 1) 古代から近代の看護の歴史 2) 現代の看護	講義	講義開始前には、テキストの関連ページを学習して講義に臨む。講義中に提示する課題に取り組む。 講義後、テキストおよび配布資料の内容を復習する。
2	看護理論とは何か 1)看護理論とは何か 2)看護理論を学ぶ意義 3)看護理論の分類	講義	
3	代表的な看護理論と特徴と看護への活用① —ナイチンゲール— 1) ナイチンゲールの経歴 2) ナイチンゲールが影響を受けた人 3) ナイチンゲールの看護の概念	講義	
4	代表的な看護理論と特徴と看護への活用② 『看護覚え書』読み解く！	演習	グループごとに演習の成果をまとめ、提出する。
5	代表的な看護理論と特徴と看護への活用③ 『看護覚え書』読み解く！	演習	
6	代表的な看護理論と特徴と看護への活用④ 発表およびまとめ	演習 講義	演習の成果をクラスで共有する。
7	代表的な看護理論と特徴と看護への活用⑤	講義	講義開始前には、テキストの関連ページを学

授業回数	授業内容	授業方法	留意点
	—ヘンダーソン— 1) ヘンダーソンの経歴 2) ヘンダーソンが影響を受けた人 3) ヘンダーソンの看護の概念		習して講義に臨む。 講義中に提示する課題に取り組む。 講義後、テキストおよび配布資料の内容を復習する。
8	代表的な看護理論と特徴と看護への活用⑥ 『看護の基本となるもの』を読み解く！	演習	グループごとに演習の成果をまとめ、提出する。
9	代表的な看護理論と特徴と看護への活用⑦ 『看護の基本となるもの』を読み解く！	演習	↓
10	代表的な看護理論と特徴と看護への活用⑧ 『看護の基本となるもの』を読み解く！	演習	
11	代表的な看護理論と特徴と看護への活用⑨ 発表およびまとめ	演習	
12	代表的な看護理論と特徴と看護への活用⑩ (1) ペプロウ (2) ウィーデンバック (3) オレム (4) トラベルビー	講義	講義開始前には、テキストの関連ページを学習して講義に臨む。 講義中に提示する課題に取り組む。 講義後、テキストおよび配布資料の内容を復習する。
13	代表的な看護理論と特徴と看護への活用⑪ (1) ロイ (2) ワトソン (3) パースィ	講義	↓
14	代表的な看護理論と特徴と看護への活用⑫ (1) ノディングス (2) M.ニューマン (3) ベナー	講義	
15	終講試験	客観テスト 解説	講義にて学習した内容および配布資料を中心に学習し、終講試験に臨む。

成績評価の方法	1.客観テスト（50 点）による評価 2.観察法（演習発表）（20 点）による評価 3.論文体テスト（30 点）による評価
---------	---

使用テキスト	系統看護学講座 看護学概論 基礎看護学① 医学書院 フロレンス・ナイチンゲール 看護覚え書 現代社 ヴァージニア・ヘンダーソン 看護の基本となるもの 日本看護協会出版会
参考文献	

授業要項詳細

科目名	基礎看護学方法論Ⅰ (共通基本技術：フィジカルアセスメント)	科目区分	専門分野Ⅰ
担当教員	早川 真実	講義方法	講義・技術演習
期間	1 年次 前期・後期	曜日/時限	
単位/時間	1 単位/30 時間	回数	15 回

科目の概要	対象の健康状態を把握するために必要なフィジカルアセスメントの基礎的知識と技術を学ぶ。得られた情報に基づき基準範囲内か、基準範囲から逸脱しているか判断し、対象の健康状態を理解することを学ぶ。
科目の到達目標	1.フィジカルアセスメントの基本技術を習得する。 2.身体計測を行う意義を理解する。 3.生命徴候の意義を理解する。 4.模擬患者のバイタルサインの測定を習得する。 5.系統的なフィジカルアセスメントの目的と方法を理解する。 6.模擬患者の呼吸器系、循環器系、消化器系のフィジカルイグザミネーションを実践する。

授業回数	授業内容	授業方法	留意点
1	1.フィジカルアセスメントへの導入 2.フィジカルアセスメントのための準備 3.フィジカルアセスメントにおける基本技術	講義 技術演習	テキスト「解剖生理学」P.100 図 1 呼吸と循環のつながり、P.130 図 1 呼吸器系器官の全体像、P.160 図 1 ヒトの消化器系の部位名所および位置を学習し、講義に臨む。
2	1.一般状態のアセスメント 身体計測とは①	講義・演習	身長、体重、胸囲、腹囲、握力に関して、演習課題を提示する。グループごとに演習成果を資料としてまとめ提出する。
3	1.一般状態のアセスメント 身体計測とは② 1)発表およびまとめ	演習・講義	グループワークの成果を発表し、学びを共有する。
4	1.一般状態のアセスメント バイタルサイン① 1)生命兆候とは 2)脈拍の観察	講義 技術演習	テキスト「解剖生理学」P.114 図 5-10 人体の主要な動脈を学習し、講義に臨む。
5	1.一般状態のアセスメント バイタルサイン② 1)血圧の観察	講義 技術演習	テキスト「解剖生理学」P.121 血圧の機能を学習し、講義に臨む。
6	1.一般状態のアセスメント バイタルサイン③ 1)体温の観察 2)呼吸、意識の観察	講義 技術演習	テキスト「解剖生理学」P.79 体温調節、P.339 間脳、テキスト「基礎看護技術Ⅱ」P.107 体温調節を学習し、講義に臨む。
7	1.一般状態のアセスメント バイタルサイン④	技術演習	目的および根拠、手順をグループ内にて確認し、模擬患者のバイタルサインの測定を実施する。配布資料の内容を復習し、技術演習に臨む。
8	1.系統的なフィジカルアセスメントの実際 呼吸器系アセスメント① 1)呼吸器系のフィジカルアセスメント	講義	テキスト「ヘルスアセスメント」P.84～85 呼吸系の構造と機能：アセスメントの根拠になる復習事項を復習し、講義に臨む。

授業回数	授業内容	授業方法	留意点
	呼吸器系に関する問診 2)呼吸器系のフィジカルイグザミネーション		
9	1.系統的なフィジカルアセスメントの実際 呼吸器系アセスメント② 1)呼吸器系のフィジカルイグザミネーション 胸部の視診、呼吸に伴う胸郭拡張の触診 呼吸音の聴診	技術演習	目的および根拠、手順をグループ内にて確認し、模擬患者へ呼吸器系のフィジカルイグザミネーションの技術を実施する。
10	1.系統的なフィジカルアセスメントの実際 循環器系フィジカルアセスメント① 1)循環器系のフィジカルアセスメント 循環器系に関する問診 2)循環器系のフィジカルイグザミネーション	講義	テキスト「ヘルスアセスメント」P.93～96 心臓・血管系の構造と機能：アセスメントの根拠になる復習事項を復習し、講義に臨む。
11	1.系統的なフィジカルアセスメントの実際 循環器系フィジカルアセスメント② 1)心臓の触診(心尖拍動の確認) 2)心音の聴診	技術演習	目的および根拠、手順をグループ内にて確認し、模擬患者へ循環器系のフィジカルイグザミネーションの技術を実施する。
12	1.系統的なフィジカルアセスメントの実際 腹部・消化器系フィジカルアセスメント① 1)腹部・消化器系のフィジカルアセスメント 腹部・消化器系に関する問診 2)腹部・消化器系のフィジカルイグザミネーション	講義	テキスト「ヘルスアセスメント」P.120～121 腹部(消化器系)の構造と機能：アセスメントの根拠になる復習事項を復習し、講義に臨む。
13	1.系統的なフィジカルアセスメントの実際 腹部・消化器系フィジカルアセスメント② 1)腹部の外観の視診 2)腹部の聴診	技術演習	目的および根拠、手順をグループ内にて確認し、模擬患者へ腹部・消化器系のフィジカルイグザミネーションの技術を実施する。
14	1.系統的なフィジカルアセスメントの実際 事例で学ぶ筋・骨格系、神経系のアセスメント① —アセスメントによる評価、ケアへのつながり— 1)筋・骨格系のフィジカルアセスメント (1)関節可動域測定・徒手筋力テスト 2) 神経系のフィジカルアセスメント (2)運動機能の評価 バレー徴候	講義	テキスト「ヘルスアセスメント」P.143～146 筋・骨格系の構造と機能：アセスメントの根拠になる復習事項、P.161～163 神経系の構造と機能：アセスメントの根拠になる復習項目を復習し、講義に臨む。
15	終講試験	客観テスト 解説	講義にて学習した内容および配布資料を中心に学習し、終講試験に臨む。

成績評価の方法	1.客観テストによる評価 70 点 2.観察法(バイタルサインの測定)による評価 30 点
---------	---

使用テキスト	系統看護学講座 専門分野Ⅰ 基礎看護学技術Ⅰ 基礎看護学② 医学書院 系統看護学講座 専門分野Ⅱ 基礎看護学技術Ⅱ 基礎看護学③ 医学書院
参考文献	根拠と事故防止からみた基礎・臨床看護技術 医学書院 系統看護学講座 専門基礎分野 解剖生理学 人体の構造と機能① 医学書院

授業要項詳細

科目名	基礎看護学方法論Ⅱ (共通基本技術：看護技術の概念、感染予防、 情報収集と観察・記録・報告、コミュニケーション、 教育指導技術)	科目区分	専門分野Ⅰ
担当教員	小笠原 幸, 六反 邦裕, 依山 あずさ	講義方法	講義・技術演習
期間	1 年次 前期・後期	曜日/時限	
単位/時間	1 単位/30 時間	回数	15 回

科目の概要	共通基本技術となる看護技術の考え方、人間関係を成立し発展させるコミュニケーション技術、看護に必要な情報収集・観察・記録・報告、感染予防のための技術、看護における患者教育・患者指導の技術を学ぶ。
科目の到達目標	1. 人間を対象とする看護技術の概念を理解する。 2. 人間関係を成立させるためのコミュニケーション技術を理解する。 3. 看護に必要な情報収集、観察を理解する。 4. 看護に必要な記録・報告の意義を理解する。 5. 感染予防における看護師の責務と役割を理解する。 6. 感染予防策(スタンダード・プリコーション)を習得する。 7. 看護における患者教育・患者指導を理解する。 8. 患者教育に必要な PLC の要素を理解する。

授業回数	授業内容	授業方法	留意点
1	1.看護とは 2.看護専門職とは 3.看護を構成する要素	講義・演習	講義開始前には、テキストの関連ページを学習して講義に臨む。
2	1.看護行為を支える看護技術の構造 1)看護技術とは 2)看護技術の原則	講義	
3	1.コミュニケーションの実際 1)「聞く」と「聴く」の違い 2)コミュニケーションを成立させる構成要素と成立過程	講義	
4	1.最適なコミュニケーションの距離、位置を探す	技術演習	技術演習に課題を提示する。
5	1.コミュニケーションとは 1)看護におけるコミュニケーション 2)プロセスレコードの概念 3)人間関係を成立させるためのコミュニケーション 2.看護にとってのコミュニケーションの意義	講義	講義開始前には、テキストの関連ページを学習して講義に臨む。 講義後は、配布資料の内容について復習する。
6	1 観察に関する基礎知識① 1)観察とは (1)観察の目的 (2)観察の種類 (3)観察の方法	講義	講義開始前には、テキストの関連ページを学習して講義に臨む。講義後は、配布資料の内容について復習する。
7	1.観察に関する基礎知識② 1)看護における情報とは 2)看護場面での情報収集	講義	講義後は、配布資料の内容について復習する。
8	1.看護記録・報告に関する基礎知識 1)記録とは 2)報告とは	講義	

授業回数	授業内容	授業方法	留意点
9	1. 感染予防とは 1)感染とは 2)感染成立の条件 3)感染経路別予防策 2. 標準予防策(スタンダード・プリコーション)	講義	
10	1.手指衛生の種類 1)手洗い(日常的手洗い) 2)手指消毒(衛生的手洗い) 2.標準予防策(スタンダード・プリコーション) 1)個人防護用具 (フェイスシールド、マスク、手袋) 3.感染性廃棄物の取り扱い 1)一般廃棄物、医療廃棄物、感染性廃棄物の取り扱い	講義 技術演習	配布資料の内容を復習し、技術演習に臨む。 手指衛生の技術演習では、目的および根拠、手順をグループ内にて確認しながら技術演習を実施する。なお、細菌の残りやすい部位を意識して洗い、洗い残しの確認をする。
11	1.洗浄・消毒・滅菌 2.無菌操作 1)滅菌物の取り扱い	講義	講義開始前には、テキストの関連ページを学習して講義に臨む。
12	1.無菌操作① 1)滅菌手袋の装着 2)滅菌パックの開け方 3)鑷子の取り扱い方 4)滅菌包みの開け方 5)消毒用綿球の取り扱い方 6)ガウンの着脱	技術演習	配布資料の内容を復習し、技術演習に臨む。目的および根拠、手順、清潔区域と不潔区域をグループ内にて確認しながら技術演習を実施する。 なお、滅菌物の上での会話をしない。 * 12・13 回目は、2 時間続きとする。
13	1.無菌操作② 1)滅菌手袋の装着 2)滅菌パックの開け方 3)鑷子の取り扱い方 4)滅菌包みの開け方 5)消毒用綿球の取り扱い方 6)ガウンの着脱 2.感染予防における看護師の責務と役割	技術演習 講義	↓
14	1.教育指導技術 1)看護における患者教育 2)指導におけるアプローチの方法 3)指導方法 4)患者教育に必要な看護職の PLC	講義	講義開始前には、テキストの関連ページを学習して講義に臨む。 講義後は、配布資料の内容について復習する。
15	終講試験	客観テスト 解説	講義にて学習した内容および配布資料を中心に学習し、終講試験に臨む。

成績評価の方法	1.客観テストによる評価
---------	--------------

使用テキスト	系統看護学講座 専門分野 I 基礎看護学技術③ 医学書院 根拠と事故防止からみた基礎・臨床看護技術 医学書院
参考文献	

授業要項詳細

科目名	基礎看護学方法論Ⅲ (日常生活援助技術： 環境・活動・運動・休息・睡眠)	科目区分	専門分野Ⅰ
担当教員	川野 和恵	講義方法	講義・技術演習
期間	1 年次 前期	曜日/時限	
単位/時間	1 単位/30 時間	回数	15 回

科目の概要	人間の生活は活動と休息の連続である。人が健康な生活を維持していくためには、活動と休息のバランスがとれているか重要である。したがって、人間の生活における活動と休息について学ぶ。看護を行うときの看護師の姿勢や動作が、身体を効果的に使った安定したものでなければ、患者も安心して身を任せる気持ちにはなれない。適切な姿勢・動作でなければ、患者によけいな苦痛や負担を感じさせる。したがって、患者・看護師の双方に負担をかけない効果的な姿勢・動作を行うためのボディメカニクスを学ぶ。環境を整えるとは、患者自身もっている自然治癒力を高め、健康へと向かわせる積極的な援助となる。したがって、人間にとっての環境の意味を理解し、健康的な生活環境を整えるための援助方法を学ぶ。
科目の到達目標	1. 快適な療養環境を理解する。 2. 技術演習を通して、ベッドメイキングを習得する。 3. 活動・運動の意義を理解する。 4. ボディメカニクスの定義・原則を理解する。 5. 体位の種類と特徴を理解する。 6. 技術演習を通して、模擬患者への基本的な体位変換を習得する。 7. ベッドからの移乗・移送の目的および方法、留意点を理解する。 8. 技術演習を通して、模擬患者への車椅子・ストレッチャーの移乗および移送を実践する。 9. 活動・運動の援助を受ける対象へ配慮する必要性を知る。 10. 休息・睡眠の意義およびメカニズムを理解する。 11. 休息・睡眠の援助を受ける対象へ配慮する必要性を知る。

授業回数	授業内容	授業方法	留意点
1	1. 環境の意義 2. 環境を整える技術 1) 快適さを保つ構造 2) 病室の環境	講義	テキスト「基礎看護技術」P.96～100 を学習して講義に臨む。
2	1. 病床の構成 1) 病床を構成する物品 2) 寝具の条件 3) ベッドメイキング	講義 技術演習	テキスト「基礎看護技術」P.100～102 を学習して講義に臨む。ベッドメイキングは、チェックリストを使用して、デモンストレーションを実施する。根拠やポイントとなる箇所を提示するため、チェックリストへ書き留める。
3	1. 病床作成の実際① 1) シーツのたたみ方 2) ベッドメイキング	技術演習	1・2 回目の授業と配布資料を復習し、技術演習に臨む。 * 3・4 回目は 2 時間続きとする。



授業回数	授業内容	授業方法	留意点
4	1. 病床作成の実際② 1) ベッドメイキング	技術演習	
5	1. 病床環境の整備① 1) 病床整備 2) 臥床患者のシーツ交換	講義 技術演習	テキスト「基礎看護技術」P.103 を学習して講義に臨む。 病床整備および臥床患者のシーツ交換は、チェックリストを使用して、デモンストレーションを実施する。根拠やポイントとなる箇所を提示するため、チェックリストへ書き留める。目的および根拠、手順をグループ内にて確認し、臥床患者のシーツ交換をする。 * 5・6 回目は 2 時間続きとする。
6	1. 病床環境の整備② 1) 臥床患者のシーツ交換	技術演習	↓
7	1. 病床作成についてグループワーク 2. 活動・運動の意義 3. ボディメカニクスとは	演習 講義	グループワークを通して学びを深める。 テキスト「基礎看護技術」P.160～163、P.192 を学習して講義に臨む。
8	1. 体位の種類と特徴 2. 安楽な体位 3. 活動・運動を阻害する要因 4. 同一体位と体圧	講義 技術演習	7 回目の授業と配布資料を復習し、講義に臨む。 テキスト「基礎看護技術」P.152～159、P.195～P.197 を学習し講義に臨む。
9	1. 体位変換とは 2. 体位変換① 1) ベッド上での水平移動 2) 仰臥位→左側臥位への体位変換 3) 仰臥位→長座位→端座位への体位変換 4) 端座位→立位への体位変換	講義 技術演習	テキスト「基礎看護技術」P.200～204、を学習して講義に臨む。 体位変換は、チェックリストを使用して、デモンストレーションを実施する。根拠やポイントとなる箇所を提示するため、チェックリストへ書き留める。目的および根拠、手順をグループ内にて確認し、体位変換する。 * 9・10 回目は、2 時間続きとする。
10	1. 体位変換② 1) ベッド上での水平移動 2) 仰臥位→左側臥位への体位変換 3) 仰臥位→長座位→端座位への体位変換 4) 端座位→立位への体位変換	技術演習	↓
11	1. ベッドからの移乗・移送 1) 目的および方法 2) 留意点 2. ベッドからの移乗・移送の実際① 1) ストレッチャーの移乗・移送 2) 車椅子への移乗・移送	講義 技術演習	テキスト「基礎看護技術」P.213～217 を学習して講義に臨む。 車椅子、ストレッチャーによる移送は、チェックリストを使用して、デモンストレーションを実施する。根拠やポイントとなる箇所を提示するため、チェックリストへ書き留める。 ボディメカニクスを意識し、実践する。

授業回数	授業内容	授業方法	留意点
			* 11・12 回目は、2 時間続きとする。
12	1.ベッドからの移乗・移送の実際② 1)車椅子・ストレッチャーの移乗・移送	技術演習	↓
13	1.体位変換、移乗・移送について グループワーク 2.睡眠・休息の意義 3.休息・睡眠の生理学的メカニズム	演習 講義	グループワークを通して学びを深め、 まとめる。 テキスト「基礎看護技術」P.220～226、を学 習して講義に臨む。
14	1.睡眠・休息を促す援助 2.まとめ	講義	13 回目の授業と配布資料の復習とテキスト 「基礎看護技術」P.230～233 を学習してか ら講義に臨む。 本科目についてまとめる。
15	終講試験	客観テスト 解説	講義にて学習した内容および配布資料を中 心に学習し、終講試験に臨む。

成績評価の方法	1.客観テストによる評価 80 点 2.観察法(ベッドメイキング)による評価 20 点
---------	--

使用テキスト	系統看護学講座 専門分野 I 基礎看護学技術Ⅱ 基礎看護学③ 医学書院 根拠と事故防止からみた基礎・臨床看護技術 医学書院
参考文献	

授業要項詳細

科目名	基礎看護学方法論Ⅳ (日常生活援助技術：清潔・衣生活)	科目区分	専門分野Ⅰ
担当教員	廣田 晶子, 青木 いずみ, 遠藤 基貴	授業方法	講義・技術演習
期間	1 年次 前期	曜日/時限	
単位/時間	1 単位/30 時間	回数	15 回

科目の概要	清潔を保持することは、日常生活習慣に伴う基本的ニーズである。生理的・心理的・社会的に安定した生活を送る上で必要不可欠な行為である。また、日常生活習慣として意図することなく行われている行為であり、自分で健康を守る行為としても重要な意味をもっている。しかし、疾病や障害、手術後および治療上の安静の必要から、患者は自分自身で好みに合った清潔に保つことができず、日ごろの清潔習慣が保てない状況におかれる。そのような患者には、看護としての「清潔」を保持する援助が求められる。 したがって、この単元では、健康障害をきたし自分自身で清潔を保てない状態にある患者に対して、その人の日常生活習慣や好みだけではなく、患者の健康状態に応じた清潔援助を行うための共通する基本的な援助技術を学習する。
科目の到達目標	1.健康を保つための衣生活の意義を理解する。 2.身体を清潔に保つことの意義を理解する。 3.清潔援助の必要性と方法を理解する。 4.技術演習を通して、模擬患者への清潔の基礎的な援助技術（洗髪、足浴、陰部洗浄）を実践する。 5.技術演習を通して、模擬患者への寝衣交換および清拭を習得する。 6.技術演習を通して、清潔の援助を受ける対象へ配慮する必要性を知る。

授業回数	授業内容	授業方法	留意点
1	1.衣生活の意義および衣生活の援助に必要な基礎知識 1)衣生活の意義 2)療養に適した衣服の条件 3)寝衣交換における目的と根拠	講義	テキストの関連ページを学習して講義に臨む。
2	1.臥床患者の寝衣交換①	技術演習	臥床患者の寝衣交換は、チェックリストを使用して、デモンストレーションを実施する。根拠やポイントとなる箇所を提示するため、チェックリストへ書き留める。 目的および根拠、手順をグループ内にて確認し、臥床患者の寝衣交換を体験する。 ＊2・3 回目は 2 時間続きとする
3	1.臥床患者の寝衣交換②	技術演習	↓
4	1.清潔の意義および清潔の援助に必要な基礎知識 1)清潔の意義 2)皮膚・粘膜の機能を助ける清潔援助 3)汚れを落とし皮膚を守る清潔援助 2.皮膚・粘膜の清潔援助の方法① 1)入浴、シャワー浴 2)部分浴(手浴・足浴)	講義	テキスト「基礎看護技術」P.236～238、P256～257、テキスト「解剖生理学」P69～73 を学習し、講義に臨む。

授業回数	授業内容	授業方法	留意点
5	1.皮膚・粘膜の清潔援助の方法① 1)洗髪 2)口腔ケア 3)整容	講義	テキスト「基礎看護技術」P.245～251 を学習して講義に臨む。
6	1.清潔援助の実際：洗髪①	技術演習	目的および根拠、手順をグループ内にて確認し、洗髪を体験する。 * 6・7 回目は、2 時間続きとする。
7	1.清潔援助の実際：洗髪②	技術演習	↓
8	1.清潔援助の実際：足浴①	技術演習	目的および根拠、手順をグループ内にて確認し、足浴を体験する。 * 8・9 回目は、2 時間続きとする。
9	1.清潔援助の実際：足浴②	技術演習	↓
10	1.皮膚・粘膜の清潔援助の方法② 1)全身清拭 2)陰部洗浄 2.全身清拭におけるデモンストレーション	講義	テキスト「基礎看護技術」 P252～255 を学習して講義に臨む。 全身清拭は、チェックリストを使用して、デモンストレーションを実施する。根拠やポイントとなる箇所を提示するため、チェックリストへ書き留める。
11	1.清潔援助の実際：全身清拭①	技術演習	目的および根拠、手順をグループ内にて確認し、全身清拭を体験する。 * 11・12 回目は、2 時間続きとする。
12	1.清潔援助の実際：全身清拭②	技術演習	↓
13	1.清潔援助の実際：陰部洗浄①	技術演習	目的および根拠、手順をグループ内にて確認し、陰部洗浄を体験する。 * 13・14 回目は、2 時間続きとする。
14	1.清潔援助の実際：陰部洗浄②	技術演習	↓
15	終講試験	客観テスト 解説	講義にて学習した内容および配布資料を中心に学習し、終講試験に臨む。

成績評価の方法	1.客観テストによる評価 75 点 2.観察法(全身清拭)による評価 25 点
---------	--

使用テキスト	系統看護学講座 専門分野Ⅰ 基礎看護学技術Ⅱ 基礎看護学③ 医学書院 根拠と事故防止からみた基礎・臨床看護技術 医学書院
参考文献	

授業要項詳細

科目名	基礎看護学方法論Ⅴ (日常生活援助：食事、排泄)	科目区分	専門分野Ⅰ
担当教員	河井 留美, 川野 和恵	講義方法	講義・技術演習
期間	1 年次 後期	曜日/時限	
単位/時間	1 単位/30 時間	回数	15 回

科目の概要	食べることは、人間の基本的ニーズの一つである。人が生命を維持するうえで必要不可欠な行為である。なんらかの原因により、食事摂取が困難になったとき、人は生命の危機に直面する。人間の日常生活に必要な食事・栄養の意義を理解し、その援助技術を学ぶ。ふだん意識することなく行っている排泄は、日常的な行為であり人間がもつ自然の欲求の一つである。排泄という行為は最も人に見られたくないきわめて個人的な行為である。何らかの原因によって、排泄を他人に委ねなければならない状況が生じた時、「情けない」「自分は生きている価値のない人間になってしまった」などの思いを抱くことが多い。また、排泄の援助は対象がもっとも頼みにくい援助の一つであるといわれている。したがって、排泄の援助を受ける対象に対して、羞恥心に配慮し、排泄の援助技術を学ぶ。
科目の到達目標	1. 食事・栄養の意義を理解する。 2. 摂食・嚥下のメカニズムを理解する。 3. 技術演習を通して、模擬患者への食事の援助（自力で食べられない患者）を実践する。 4. 技術演習を通して、経腸栄養（経管栄養）について理解することができる。 5. 食事の援助を受ける対象へ配慮する必要性を学ぶ。 6. 排泄の意義を理解する。 7. 排泄・排便のメカニズムを理解する。 8. 自然な排便・排尿を促すための援助を理解する。 9. 技術演習を通して、模擬患者への便器・尿器、ポータブルトイレを使用した排泄の援助を実践する。 10. シミュレータ・トレーニングモデルに導尿の排泄の援助を実践する。 11. 排泄の援助を受ける対象へ配慮する必要性を学ぶ。

授業回数	授業内容	授業方法	留意点
1	1. 食事・栄養の意義 2. 摂食・嚥下のメカニズム 3. 食事と栄養に関する基礎知識 1) 栄養状態 2) 食事摂取内容 3) 水分の摂取と排泄	講義	テキスト「基礎看護技術」P.264～276、 テキスト「解剖生理学」P162～171 を学 習し、講義に臨む。
2	1. 食事を妨げる要因 2. 患者への食事の援助 1) 食事の種類および形態 2) 食事の援助および根拠・留意点	講義	テキスト「基礎看護技術」P.277～283 を 学習し、講義に臨む。
3	1. 食事・栄養に関する援助① 1) 経口摂取できる患者の食事援助	技術演習	テキスト「基礎看護技術」P.280～283、 1・2 回目の授業と配布資料を復習し、技 術演習に臨む。

授業回数	授業内容	授業方法	留意点
			* 3・4 回目は、2 時間続きとする。
4	1.食事・栄養に関する援助② 1)経口摂取できる患者の食事援助	技術演習	
5	1.食事・栄養に関する援助③ 1)経腸栄養（経管栄養）	講義	テキスト「基礎看護技術」P.284～288 を学習して講義に臨む。
6	1.排尿の意義 2.排尿のメカニズム 3.排尿の性状 4.排尿のアセスメント 5.自然排尿を阻害する要因 6.自然排尿を促す方法	講義	テキスト「基礎看護技術」P.290～291・P306、「解剖生理学」P214～216 を学習し、講義に臨む。
7	1.排泄の援助 1)便器・尿器を使用したベッド上での排泄援助 および根拠・留意点 2.便器・尿器、ポータブルトイレを用いた排泄援助①	講義 技術演習	テキスト「基礎看護技術」P298～304 を学習して講義に臨む。
8	1.便器・尿器、ポータブルトイレを用いた排泄援助②	技術演習	6・7 回目の授業と配布資料を復習し、技術演習に臨む。 * 8・9 回目は、2 時間続きとする。
9	1.便器・尿器、ポータブルトイレを用いた排泄援助③	技術演習	
10	1.頻尿と尿失禁 2.排尿困難と尿閉 3.排尿障害のある患者の援助 1)導尿 2)持続的導尿	講義	テキスト「基礎看護技術」P.296 を学習して講義に臨む。
11	1.排泄障害時の援助① 1)導尿	技術演習	テキスト「基礎看護技術」P.306～310、10 回目の授業と配布資料を復習し、技術演習に臨む。 * 11・12 回目は、2 時間続きとする。
12	1.排泄障害時の援助② 1)導尿	技術演習	
13	1.排便のメカニズム 2.排便の性状 3.排便のアセスメント 4.自然排便を阻害する要因 5.自然排便を促す方法	講義	テキスト「基礎看護技術」P.290～306、「解剖生理学」P189～192 を学習し、講義に臨む。
14	1.排泄障害時の援助 1)浣腸 2)摘便	講義	テキスト「基礎看護技術」P.310～313 を学習し講義に臨む。
15	終講試験	客観テスト 解説	講義にて学習した内容および配布資料を中心に学習し、終講試験に臨む。

成績評価の方法	1.客観テストによる評価
使用テキスト	系統看護学講座 専門分野Ⅰ 基礎看護技術Ⅱ 基礎看護学③ 医学書院 根拠と事故防止からみた基礎・臨床看護技術 医学書院
参考文献	

授業要項詳細

科目名	基礎看護学方法論Ⅵ (診療に伴う技術：呼吸を整える援助技術、 診察・検査時の援助技術、循環を整える援助 技術、創傷管理技術)	科目区分	専門分野Ⅰ
担当教員	早川 真実, 俵山 あずさ, 相川 裕美	講義方法	講義・技術演習
期間	1 年次 後期	曜日/時限	
単位/時間	1 単位/30 時間	回数	15 回

科目の概要	正常に呼吸することを日常生活で意識することは少ない。しかし、何らかの原因で呼吸が正常に行えない状態が生じると、活動範囲が狭められるだけでなく、苦痛・不安が生じ、生命さえも脅かされる。したがって、対象の安楽、生活の質の改善、生命維持に直結する技術である呼吸の状態を整える援助技術を学ぶ。また、診察や検査を受ける対象の苦痛や不安を最小限にし、検査がスムーズに行えるように援助技術を学ぶ。さらに、体温を調節および皮膚・創傷の管理を必要とする対象への援助を学ぶ。
科目の到達目標	1.呼吸を楽にする姿勢・呼吸法の目的および方法を理解する。 2.口腔内・鼻腔内吸引の目的および方法を理解する。 3.モデル人形に口腔内・鼻腔内吸引を実践する。 4.酸素吸入療法の目的および方法を理解する。 5.検査における看護師の役割を理解する。 6.シミュレータ・トレーニングモデルを使用し、静脈内採血を実践する。 7.各種生体検査および検体検査の目的と方法、留意点を理解する。 8.創傷観察を管理する技術を学ぶ。 9.基本的な包帯法を実践する。 10.技術演習を通して、呼吸を安楽にする援助や診察・検査、治療・処置を受ける対象へ配慮する必要性を学ぶ。

授業回数	授業内容	授業方法	留意点
1	1.呼吸状態のアセスメントと呼吸を整える援助の基本① 1)呼吸状態のアセスメント	講義	テキスト「基礎看護学」P.318～320 呼吸とは、呼吸の生理学的メカニズムを学習し、講義に臨む。
2	1.呼吸状態のアセスメントと呼吸を整える援助の基本② 1)呼吸を整える援助の基本 2.呼吸の意義	講義	講義開始前には、テキストの関連ページを学習して講義に臨む。講義後は、配布資料の内容について復習する。
3	1.呼吸を整える技術① 1)呼吸を楽にする姿勢・呼吸法 2)気道分泌物の排出の援助 (1)体位ドレナージ・スクイーピング (2) 気道内加湿	講義 技術演習	テキスト「解剖生理学」P.145 肺区域と既習学習の「体位の種類と特徴」を学習し、講義に臨む。
4	1.呼吸を整える技術② 1)酸素吸入療法	講義	講義開始前には、テキストの関連ページを学習して講義に臨む。講義後は、配布資料の内容について復習する。
5	1.呼吸を整える技術の実際①	技術演習	テキスト「基礎看護技術Ⅱ」P.191～

授業回数	授業内容	授業方法	留意点
	1)口腔内・鼻腔内吸引 2)酸素吸入療法を受けている患者の観察 3)酸素ポンベの操作	講義	193 口腔内・鼻腔内吸引、P.200～ 202 酸素吸入療法、第 3・4 回目の 配布資料を復習し、技術演習に臨 む。
6	1.呼吸を整える技術の実際② 1)口腔内・鼻腔内吸引 2)酸素吸入療法を受けている患者の観察 3)酸素ポンベの操作	技術演習 講義	↓
7	1.体温を調節する技術 1)体温の恒常性 2)体温管理・保温の援助 (1)電法	講義 技術演習	テキスト「基礎看護技術」P.339 体 温調節のメカニズムを学習し、講義 に臨む。
8	1.生体検査における検査方法①	演習	各生体検査に関して、に関して、演習 課題を提示する。グループごとに演習 成果を資料としてまとめ提出する。 * 8・9 回目は、2 時間続きとする。
9	1.生体検査における検査方法②	演習	↓
10	1.生体検査における検査方法 1)発表会およびまとめ 2.検体検査 1)尿検査 2)便検査 3)喀痰検査	演習 発表	グループワークの成果を発表し、学びを共 有する。
11	1.検体検査 1)穿刺法 2)静脈内採血の目的、採血部位、留意点 2.診察・検査時の看護師の役割	講義	テキスト「解剖生理学」P.21 腹腔の細 分、P.288 胸椎と腰椎、P.289 胸郭、 P.292 骨盤の部位名所を覚え、講義 に臨む。
12	1.検体検査の実際① 1)注射器の取り扱い 2)静脈血採血	技術演習	テキスト「基礎看護技術Ⅱ」P.272 注 射に必要な器具とその取り扱い、 P.319 血液検査、第 11 回目の配布 資料を復習し、技術演習に臨む。 * 12・13 回目は、2 時間続きとする。
13	1.検体検査の実際② 1)注射器の取り扱い 2)静脈血採血	技術演習	↓
14	1.皮膚・創傷を管理する技術 1)創傷治癒の過程 2)皮膚の観察 3)創傷処置(創傷の保護) (1)包帯法	講義 技術演習	テキスト「基礎看護技術」P.422～ 423 皮膚の構造と機能を学習し、講 義に臨む。
15	終講試験	客観テスト 解説	講義にて学習した内容および配布資 料を中心に学習し、終講試験に臨む。

成績評価の方法	1.客観テストによる評価
---------	--------------

使用テキスト	系統看護学講座 専門分野Ⅰ 基礎看護技術Ⅱ 基礎看護学③ 医学書院 根拠と事故防止からみた基礎・臨床看護技術 医学書院
参考文献	

授業要項詳細

科目名	基礎看護学方法論Ⅶ (診療に伴う技術：与薬、輸血療法)	科目区分	専門分野Ⅰ
担当教員	早川 真実, 遠藤 基貴	講義方法	講義・技術演習
期間	1 年次 後期	曜日/時限	
単位/時間	1 単位/30 時間	回数	15 回

科目の概要	与薬は、医師の指示のもと、薬物療法を受ける対象にとって、より安全で適切かつ効果的に実施されることが重要である。したがって、安全で適切かつ効果的な与薬を実施するための知識および技術を学ぶ。 また輸血療法は、なんらかの理由で体内から失われた血液成分を、他人または自分の血液成分により補充する治療法であり、有効な治療である。
科目の到達目標	1.与薬の意義・目的を理解する。 2.与薬経路と体内動態を理解する。 3.与薬法、注射法の目的、方法と留意点を理解する。 4.与薬法における看護師の役割を学ぶ。 5.シミュレータ・トレーニングモデルを使用し、直腸内与薬法を実践する。 6.シミュレータ・トレーニングモデルを使用し、皮下注射・筋肉内注射・静脈内注射・点滴静脈内注射を実践する。 7.輸液ポンプ・シリンジポンプの基本的な操作を理解する。 8.与薬の援助を受ける対象へ配慮する必要性を学ぶ。 9.輸血療法の目的、方法と留意点を理解する。

授業回数	授業内容	授業方法	留意点
1	1.与薬に関する基本知識 1)与薬とは 2)薬剤の管理・取り扱い 3)与薬経路と体内動態 4)安全で確実な与薬 5)与薬における看護師の役割	講義	テキスト「基礎看護技術」P.400～405、テキスト「臨床薬理学」P20～24を学習し、講義に臨む。
2	1.各種与薬の援助法① 1)目的、方法、留意点 (1)経口的与薬法 (2)口腔内与薬法 (3)直腸内与薬法 (4)点眼法 (5)点鼻法 (6)点耳法 (7)吸入法 (8)吸入法 (9)塗布法 (10)貼付法	講義	テキスト「基礎看護技術」P402 図19-1「薬物投与経路と体循環」・P.405～409、1 回目の授業と配布資料を復習・学習してから講義に臨む。
3	1.各種与薬の援助法② 1)直腸内与薬法	技術演習	「薬物投与経路と体循環」、2 回目の授業と配布資料を復習・学習してから講義に臨む。 直腸内与薬法は、チェックリストを使用して、デモンストレーションを実施する。 根拠やポイントとなる箇所を提示する

授業回数	授業内容	授業方法	留意点
			ため、チェックリストへ書き留める。 * 3・4 回目は、2 時間続きとする。
4	1.各種与薬の援助法③ 1)直腸内与薬法	技術演習	↓
5	1.各種与薬の援助法④ 1)直腸内与薬法について グループワーク 2)注射法 (1)注射の方法と種類および特徴 (2)適応 (3)与薬方法と血中濃度	演習 講義	グループワークを通して学びを深め、まとめる。 「薬物投与経路と体循環」を覚える。 テキスト「基礎看護技術」P409(10) 注射法「図 19-3 投与経路別血中濃度の推移」～413 を学習し、講義に臨む。
6	1.各種与薬の援助法⑤ 1)目的、注射部位、刺入角度、留意事項 (1)皮下注射 (2)筋肉内注射 (3)皮内注射	講義	「薬物投与経路と体循環」、「投与経路別血中濃度の推移」を覚え、講義に臨むこと。 テキスト「基礎看護技術」P.414～418・各注射法の注射部位、テキスト「解剖生理学」P69～71・P114～115・P351 を学習して講義に臨む。
7	1. 各種与薬の援助法⑥ 1)皮下注射	技術演習	5・6 回目の授業と配布資料を復習・学習して、技術演習に臨む。 皮下注射は、チェックリストを使用して、デモンストレーションを実施する。根拠やポイントとなる箇所を提示するため、チェックリストへ書き留める。 * 7・8 回目は、2 時間続きとする。
8	1. 各種与薬の援助法⑦ 1)皮下注射	技術演習	↓
9	1. 各種与薬の援助法⑧ 1)筋肉内注射	技術演習	5・6 回目の授業と配布資料を復習・学習して、技術演習に臨む。 筋肉内注射は、チェックリストを使用して、デモンストレーションを実施する。根拠やポイントとなる箇所を提示するため、チェックリストへ書き留める。 * 9・10 回目は、2 時間続きとする。
10	1. 各種与薬の援助法⑨ 1)筋肉内注射	技術演習	↓
11	1.各種与薬の援助法⑩ 1)目的、注射部位、刺入角度、留意事項 (1)静脈内注射	講義	「薬物投与経路と体循環」・「投与経路別血中濃度の推移」を覚える。注射部位を学習して講義に臨む。

授業回数	授業内容	授業方法	留意点
	(2)点滴静脈内注射 (3)輸液ポンプ・シリンジポンプ		
12	1.各種与薬の援助法⑪ 1)静脈内注射 2)点滴静脈内注射 3)点滴静脈内注射の輸液管理 4)輸液ポンプ・シリンジポンプ	技術演習	11 回目の授業と配布資料を復習・学習し、技術演習に臨む。静脈内注射は、チェックリストを使用して、デモンストレーションを実施する。根拠やポイントとなる箇所を提示するため、チェックリストへ書き留める。 * 12・13 回目は、2 時間続きとする。
13	1.各種与薬の援助法⑫ 1)静脈内注射 2)点滴静脈内注射 3)点滴静脈内注射の輸液管理 4)輸液ポンプ・シリンジポンプ	技術演習	↓
14	1.各種与薬の援助法⑬ 1)注射法についてグループワーク 2.輸血療法 1)輸血療法の目的と種類 2)輸血療法の管理 3)輸血療法を受ける患者の援助	演習 講義	グループワークを通して学びを深め、まとめる。 テキスト「解剖生理学」P.82 図 1 血液の成分、P.85 血液の成分を復習し、講義に臨む。
15	終講試験	客観テスト 解説	講義にて学習した内容および配布資料を中心に学習し、終講試験に臨む。

成績評価の方法	1.客観テストによる評価
---------	--------------

使用テキスト	系統看護学講座 専門分野Ⅰ 基礎看護学技術Ⅱ 基礎看護学③ 医学書院 根拠と事故防止からみた基礎・臨床看護技術 医学書院
参考文献	

授業要項詳細

科目名	基礎看護学方法論Ⅷ（看護過程）	科目区分	専門分野Ⅰ
担当教員	廣田 晶子	演習方法	講義・演習
期間	1 年次 後期	曜日/時限	
単位/時間	1 単位/30 時間	回数	15 回

科目の概要	看護過程は問題解決法であり、思考プロセスでもある。適切な看護を実践するには、「看護過程」のプロセス（過程）を踏まえてなければならない。看護の対象である人（人間）を理解し、対象が何を必要としているのか、看護上の解決すべき問題は何であるのか、対象に必要な看護を導き出し、看護実践するためのプロセス（過程）を学ぶ。具体的には、紙上事例を活用し、ゴードンの 11 の機能的健康パターンによる看護過程の展開方法を学ぶ。
科目の到達目標	1.看護過程の構成要素を理解する。 2.ゴードンの 11 の機能的健康パターンのアセスメント枠組みを理解する。 3.ゴードンの 11 の機能的健康パターンによる情報の整理、分析・解釈を理解する。 4.『NANDA-Ⅰ 看護診断 定義と分類 2015－2017』の見かたおよび使用方法を理解する。 5.各クラスターでの看護診断（看護上の問題）の記述法を理解する。 6.看護診断(看護上の問題)の優先順位のつけ方を理解する。 7.看護目標の設定および看護計画の書き方を理解する。 8.立案した看護計画の実施、評価、修正の書き方を理解する。 9.ゴードンの機能健康パターンを活用し、模擬患者の看護過程を展開する。

授業回数	授業内容	授業方法	留意点
1	1.看護過程の概念 1) 問題を解決するために必要なこと 2.看護過程とは 1) 看護過程の構成要素 2) 看護過程を使うことの利点	講義 個人ワーク	講義中に提示される課題に取り組み、次回の講義に臨む。
2	1. ゴードンの 11 の機能的健康パターンのアセスメント枠組みとは 1)各クラスターの考え方 各機能的健康パターンの考え方	講義	演習後は、「ゴードンの機能的健康パターンに基づく看護過程と看護診断」テキスト P.33～42、配布資料の内容を復習する。
3	1.アセスメント（情報収集）① 1) 情報源と情報の種類 2) 情報整理	講義 個人ワーク	基礎看護学方法論Ⅰ「情報収集と観察 記録・報告」の演習内にて、配布資料の内容を復習し、講義に臨む。
4	1.アセスメント（情報収集、分析・解釈）① 栄養-代謝パターン/排泄パターン	演習・講義	演習課題を提示する。グループごとに演習成果を資料としてまとめ提出する。
5	1.アセスメント（情報収集、分析・解釈）② 活動-運動パターン/睡眠-休息パターン	演習・講義	演習課題を提示する。グループごとに演習成果を資料としてまとめ提出する。
6	1.アセスメント（情報収集、分析・解釈）③ 認知-知覚パターン/自己知覚-自己概念パターン	演習・講義	
7	1.アセスメント（情報収集、分析・解釈）④	演習・講義	

授業回数	授業内容	授業方法	留意点
	健康知覚-健康管理パターン		
8	1.アセスメント（情報収集、分析・解釈）⑤ 役割-関係パターン/セクシュアリティ-生殖パターン/ コーピング-ストレス耐性パターン/価値-信念パターン	演習・講義	
9	1.関連図 1)問題の統合	講義・演習	講義中に提示される課題に取り組み、 次回の講義に臨む。
10	1.看護診断（看護上の問題）の明確化① 1) 看護診断(看護上の問題)の種類 2) 看護診断(看護上の問題)の記述法	演習・講義	
11	1. 看護診断（看護上の問題）の明確化② 1) 看護診断（看護上の問題）の優先順位の付け方	演習・講義	
12	1.全体像	講義	
13	1.看護目標および看護計画の立案 1) 期待される成果(目標) 2) 看護計画立案	講義	講義後、テキストおよび配布資料の内容 を復習する。
14	1.実施・評価 1) 実施、評価、修正の視点	講義	
15	終講試験	客観テスト 解説	演習にて学習した内容および配布資料 を中心に学習し、終講試験に臨む。

成績評価の方法	1.客観テストによる評価
---------	--------------

使用テキスト	系統看護学講座 専門分野Ⅰ 基礎看護学技術Ⅱ 基礎看護学③ 医学書院 ゴードンの機能的健康パターンに基づく 看護過程と看護診断 NOUVELLE HIROKAWA. NANDA-Ⅰ 看護診断 定義と分類 2015－2017 医学書院
参考文献	看護の基本となるもの 日本看護協会出版

専門分野 II

成人看護学

授業要項詳細

科目名	成人看護学概論	科目区分	専門分野Ⅱ
担当教員	金子 陽子	授業方法	講義
期間	1 年次 前期・後期	曜日/時限	
単位/時間	1 単位/30 時間	回数	15 回

科目の概要	成人期の対象の年齢は幅広く、その対象の抱える諸問題也多岐に及ぶ。そこで、成人看護の対象と人間のライフサイクルからみた成人各期にある対象の特徴を理解する。加えて、成人保健の動向を把握し、成人各期における対象のライフサイクルで生じやすい健康問題についても理解する。更に、成人期にある対象を適応する有用な看護理論について学習する。
科目の到達目標	1.ライフサイクルにおける成人期の特徴と発達課題を理解することができる。 2.成人期にある対象への健康課題を理解することができる。 3.成人看護に有用な看護理論を理解することができる。

授業回数	授業内容	授業方法	留意点
1 2	1. 成人期の特徴 1) 生涯発達の視点からみた成人期の位置づけと区分 2) 身体的・心理的・社会的の特徴 3) 成人期の発達課題 ①エリクソン ②ハヴィガースト ③レビンソン 4) 成人の役割 5) 成人の生活の場 6) 成人各期における生活の特徴	講義	・健康行動論で学習した内容を復習しておくこと ・看護学概論で学習した内容を復習しておくこと
3	1. 成人の健康状況 1) 生と死の動向 2) 健康観の多様性 3) 成人各期の健康問題	講義	・国民衛生の動向を持参すること
4 5	1. 成人期を取り巻く現代社会の特徴 1) 就労・就労形態 2) 家族形態と機能 3) 日常生活を取り巻く環境 2. 生活習慣に関連する健康障害 1) 生活習慣と健康障害との関連 2) 生活習慣病の発生要因と対応	講義	・国民衛生の動向を持参すること

授業回数	授業内容	授業方法	留意点
6 7	1. 成人保健の制度とシステム 1) 健康づくり対策 2) 生活習慣病対策 3) がん対策 4) 自殺対策 2. ヘルスプロモーション	講義	・国民衛生の動向を持参すること
8	1. 職業に関連する健康障害 1) 職業性疾病および業務上疾病 2) 職業性疾病の予防と対応 3) 産業保健	講義	・国民衛生の動向を持参すること
9	1. 生活ストレスに関連する健康障害 1) 生活ストレスと健康障害 2) 成人の生活ストレス 3) ストレス関連疾患の予防と対応	講義	・国民衛生の動向を持参すること
10	1. 身体機能の特徴と看護 1) 医学的知識を応用した身体機能の理解に基づく看護 2) 身体機能の変化を分析する視点 3) 身体機能の変化に着目した看護 4) 身体機能の変化に着目した看護	講義	
11 12 13 14	1. 成人期にある対象に適應する看護理論およびモデル 1) アンドラゴジーモデル 2) エンパワメントモデル 3) 自己効力 4) 病みの軌跡 5) 危機理論 6) コーンの障害受容モデル 7) キューブラロスの死の受容過程	講義 演習	・事前に課題を提示する。
15	終講試験	客観テスト 解説	

成績評価の方法	客観テストによる評価
---------	------------

使用テキスト 参考文献	系統看護学講座 専門分野Ⅱ 成人看護学総論 成人看護学① 医学書院 国民衛生の動向 厚生労働統計協会
----------------	---

授業要項詳細

科目名	成人看護学方法論Ⅰ (日常生活行動に障害のある 対象への看護)	科目区分	専門分野Ⅱ
担当教員	柴田 和宏	授業方法	講義
期間	2年次 前期・後期	曜日/時限	
単位/時間	1単位/30時間	回数	15回

科目の概要	人間のライフサイクルの中で自立し、他者のケアを行える存在であり高いセルフケア能力をもっている対象が何らかの理由により、セルフケアが低下することによって今までのセルフケアを見直し、再獲得する必要に迫られる。そのような対象の理解していくためにセルフケアの概念やセルフケアの必要性からセルフケアの再獲得への支援方法を学ぶ。学ぶにあたり、各機能障害にあわせた対象への看護や家族への支援について事例を通して学んでいく。
科目の到達目標	1. 成人を生活者として捉え、セルフケアの必要性について理解することができる。 2. 成人のセルフケアの各レベルの特徴と看護について理解することができる。

授業回数	授業内容	授業方法	留意点
1 2	1. 成人におけるセルフケアの必要性和再獲得 1) セルフケアの概念 2) 成人にとってのセルフケア低下 3) 中途障害者とは 2. セルフケア再獲得の支援方法 1) セルフケア再獲得モデルにおける各レベルに応じた支援 2) セルフケア再獲得と自立 (依存と自立) 3) セルフケア再獲得を支援するシステム (人的・法的システム)	講義	・成人看護学概論で学習した内容を復習しておくこと ・リハビリテーション学で学習した内容を復習しておくこと
3 4 5	1. 運動器に障害のある人へのセルフケア再獲得の支援① 1) 脊髄損傷患者の特徴と看護 ①急性期における看護 ②回復期・維持期における看護	講義	・疾病治療論で学習した内容を復習しておくこと ・成人看護学概論で学習した内容を復習しておくこと ・リハビリテーション学で学習した内容を復習しておくこと
6	1. 運動器に障害のある人へのセルフケア再獲得の支援② 1) 関節リウマチ患者の特徴と看護	講義	疾病治療論で学習した内容を復習しておくこと

授業回数	授業内容	授業方法	留意点
7 8 9	1. 脳血管障害のある人へのセルフケア再獲得の支援①②③ 1) 脳血管障害のある人への特徴と症状・検査時の看護 2) 急性期における看護 3) 回復期における看護 4) 社会復帰期における看護	講義	・疾病治療論で学習した内容を復習しておくこと ・成人看護学概論で学習した内容を復習しておくこと ・リハビリテーション学で学習した内容を復習しておくこと
10 11 12	1. 循環器障害のある人へのセルフケア再獲得の支援①②③ 1) 循環器障害に関する基礎的知識 2) 急性期における看護 3) 回復期・慢性期における看護	講義	・疾病治療論で学習した内容を復習しておくこと ・成人看護学概論で学習した内容を復習しておくこと
13	1. 人工肛門を造設する人へのセルフケア再獲得 1) 人工肛門とは 2) 日常生活および職業生活に向けた人工肛門のセルフケアの確立	講義	・成人看護学概論で学習した内容を復習しておくこと
14	1. 中途視覚障害者のある人へのセルフケア再獲得 1) 中途視覚障害者の特徴 2) 中途視覚障害者の看護	講義	・成人看護学概論で学習した内容を復習しておくこと
15	終講試験	客観テスト 解説	

成績評価の方法	客観テストによる評価
---------	------------

使用テキスト	系統看護学講座 専門分野Ⅱ 成人看護学総論 成人看護学① 医学書院
参考文献	系統看護学講座 専門分野Ⅱ 循環器 成人看護学③ 医学書院 系統看護学講座 専門分野Ⅱ 消化器 成人看護学⑤ 医学書院 系統看護学講座 専門分野Ⅱ 脳・神経 成人看護学⑦ 医学書院 系統看護学講座 専門分野Ⅱ 運動器 成人看護学⑩ 医学書院 系統看護学講座 専門分野Ⅱ 眼 成人看護学⑬ 医学書院

授業要項詳細

科目名	成人看護学方法論Ⅱ (生涯にわたり疾患のコントロールを必要とする対象への看護)	科目区分	専門分野Ⅱ
担当教員	金子 陽子	授業方法	講義・演習
期間	2 年次 前期・後期	曜日/時限	
単位/時間	1 単位/30 時間	回数	15 回

科目の概要	成人が何らかの生涯において病状のコントロールが必要とされる病をもったときに、生活者としてどのように病気と家庭生活、社会生活との折り合いをつけて自分らしく生きていくかが重要となる。対象が病状のコントロールができるようにセルフマネジメント能力を高める援助や家族への支援について学んでいく。学ぶにあたり主な慢性疾患の疾病経過にあわせた人への看護や家族への支援について事例を通して学んでいく。
科目の到達目標	1.慢性疾患におけるセルフマネジメントの考え方や対象の特徴を理解できる。 2.生涯にわたり病状のコントロールや社会生活を継続していくためのセルフマネジメントについて理解できる。

授業回数	授業内容	授業方法	留意点
1 2	1. 慢性疾患の特徴と看護 2. セルフマネジメント支援の考え方 3. セルフマネジメントにおける看護職の主要な責任 4. セルフマネジメントの援助で必要とされる看護職の能力 5. 健康信念モデル、本人と病気の位置関係モデル	講義	成人看護学概論の復習をしておくこと
3	糖尿病のある人への看護① 1. 糖尿病に関する基礎的知識 2. 治療を受ける対象の看護 (食事療法・運動療法・薬物療法・インスリン注射)	講義	疾病治療論の学習を復習しておくこと
4 5	糖尿病のある人への看護② 1. 急性合併症への対応 (低血糖・高血糖・昏睡・感染) 2. 検査を受ける対象の看護 (ブドウ糖負荷試験、自己血糖測定・インスリン注射) 3. セルフケア確立のための援助	講義	疾病治療論の学習を復習しておくこと
6	糖尿病のある人への看護③ 1.検査を受ける対象の看護 自己血糖測定/インスリン自己注射	講義 演習	各自ユニフォームを着用して成人看護実習室に集合する (自己血糖測定・インスリン自己注射)
7	腎不全のある人への看護① 1. 腎不全に関する基礎的知識		疾病治療論の学習を復習しておくこと

授業回数	授業内容	授業方法	留意点
	(病期分類/特徴) 2. 検査を受ける人への看護/腎生検		
8	腎不全のある人への看護② 1. 身体変化の徴候や症状に対する知識と対処 2. 症状の変化に伴う治療の変更と治療の選択 （血液透析・腹膜透析・腎移植） 3. 合併症の知識	講義	疾病治療論の学習を復習しておくこと
9 10	腎不全のある人への看護③ 1. 日常生活におけるセルフケア （食事・活動・清潔） 2. 心理・社会的な問題に対する看護	講義	疾病治療論の学習を復習しておくこと
11 12 13	肝硬変のある人への看護①②③ 1. 肝硬変に関する基礎的知識 （原因による分類/機能的分類） 2. 未発症にある人への支援（代償期） 3. 症状を呈している人への支援（非代償期） 4. 病状の変化に伴う心理的支援	講義	疾病治療論の学習を復習しておくこと
14	内分泌機能障害にある人への看護 1. 甲状腺機能障害 2. 下垂体機能障害	講義	疾病治療論の学習を復習しておくこと
15	終講試験	客観テスト 解説	

成績評価の方法	客観テストによる評価
---------	------------

使用テキスト 参考文献	系統看護学講座 専門分野Ⅱ 消化器 成人看護学⑤ 医学書院 系統看護学講座 専門分野Ⅱ 内分泌・代謝 成人看護学⑥ 医学書院 系統看護学講座 専門分野Ⅱ 腎・泌尿器 成人看護学⑧ 医学書院 国民衛生の動向 厚生労働統計協会.
----------------	---

授業要項詳細

科目名	成人看護学方法論Ⅲ （手術を必要とする対象への看護）	科目区分	専門分野Ⅱ
担当教員	依山 あずさ, 阿部 晋大	授業方法	講義・演習
期間	2 年次 後期	曜日/時限	
単位/時間	1 単位/30 時間	回数	15 回

科目の概要	医療技術の進歩により、対象の状態に応じて手術方法を選択できるようになり、手術を低侵襲・短期間で受けることが可能となった。このような中、手術を受ける対象への看護では、手術によって生体が受ける身体的侵襲を理解し、どのような回復過程をたどるのかを理解し、その過程に沿った必要な看護を学ぶ。学ぶにあたり、周手術期における看護の基礎的知識を学んだ上で、事例を通して周手術期にある対象の看護を学ぶ。
科目の到達目標	1. 周手術期における看護について理解することができる。 2. 手術を受けた対象の観察から回復に向けた支援を述べることができる。

授業回数	授業内容	授業方法	留意点
1	1. 周手術期の看護 1) 周手術期とは 2) 手術侵襲による生体反応 3) 周手術期看護の目的と特徴	講義	成人看護学概論で学習した内容を復習しておくこと
2	1. 手術過程に応じた看護①② 1) 術前の全身状態のアセスメント 2) インフォームドコンセントの支援 3) 術前オリエンテーション 4) 術前訓練 ①呼吸機能 ②循環状態 ③栄養状態 5) 術前前日～当日の援助 手術過程に応じた看護③④ 1) 手術中の看護の目的と役割 2) 麻酔による影響 （呼吸器系・循環器系・体温異常） 3) 麻酔による影響に対する援助 （モニタリング・輸液・輸血管理・出血量・尿量測定・保温） 4) 手術体位が及ぼす影響と援助 （深部静脈血栓・褥瘡・神経障害） 5) 麻酔覚醒時への援助 6) 手術室と病棟との継続看護	講義	

授業回数	授業内容	授業方法	留意点
3 4 5	1. 手術を受けた患者の看護⑤⑥ 1) 術後合併症の予防の援助 呼吸器合併症、循環器合併症、術後腸閉塞、術後感染、縫合不全、肺血栓塞栓症、深部静脈血栓症、術後せん妄 2) 疼痛管理 3) 創傷管理 4) 早期離床 5) 術後の継続看護（退院指導） 6) 日帰り手術における継続看護	講義	
6	1. 内視鏡による手術を受ける対象の看護 1) 腹腔鏡下手術 2) 胸腔鏡下手術	講義	
7 8	1. 開腹手術を受ける患者の看護 1) 胃がんの手術を受ける患者の看護	講義	
9 10	1. 開胸手術を受ける患者の看護 1) 肺がんの手術を受ける患者の看護	講義	
11 12 13 14	1. 回復に向けての支援 1) 術直後の観察と援助 2) 術後 3 日目の観察と援助 3) まとめ	演習	・胃がんの手術を受ける患者の事例を用いる。 ・事例を事前に提示する。 ・ユニフォームに着替えて成人看護学実習室に集合する。
15	終講試験	客観テスト 解説	

成績評価の方法	客観テストによる評価
---------	------------

使用テキスト 参考文献	系統看護学講座 専門分野Ⅱ 成人看護学総論 成人看護学① 医学書院 系統看護学講座 別巻 臨床外科看護総論 医学書院 系統看護学講座 別巻 臨床外科看護各論 医学書院 国民衛生の動向 厚生労働統計協会
----------------	---

授業要項詳細

科目名	成人看護学方法論Ⅳ (生命の危機状態にある対象への看護)	科目区分	専門分野Ⅱ
担当教員	依山 あずさ, 秋田 真吾, 小澤 智	授業方法	講義・演習
期間	2 年次 後期	曜日/時限	
単位/時間	1 単位/30 時間	回数	15 回

科目の概要	突然の急病や外傷により生じた健康問題により生命に直結するような危機的状態に陥った対象と家族の特徴を理解し、患者の状態に応じた看護について学ぶ。
科目の到達目標	1. 生命の危機状態にある人に必要な援助に関する知識・技術を理解することができる。 2. 生命の危機状態にある人とその家族に対する看護を理解することができる。 3. 生命の危機状態にある人の看護過程を展開できる。

授業回数	授業内容	授業方法	留意点
1	1. 生命の危機状況にある人への看護 1) 救急・集中治療を必要とする患者・家族の特徴 2) 緊急度・重症度のアセスメント 3) 治療・検査・処置時の看護 心肺停止状態への対応、気道確保・血管確保、 気管内挿管・人工呼吸器装着時の援助 1. ショック状態における人への看護 1) ショックの種類、症状、検査 2) ショック出現時の看護	講義	・成人看護学概論で学習した内容を復習しておくこと ・病態生理学で学習した内容を復習しておくこと
2 3 4	1. 呼吸機能障害にある人への看護①② 1) 呼吸機能障害のアセスメント 2) 呼吸機能障害の症状の観察 3) 呼吸機能障害の治療に対する看護 吸入療法、胸腔ドレナージ、呼吸理学療法、人工呼吸療法	講義	・疾病治療論で学習した内容を復習しておくこと
5 6 7	1. 循環機能障害にある人への看護①②③ (心筋梗塞・狭心症・心不全) 1) 循環機能障害のアセスメント 2) 循環機能障害の症状の観察 3) 循環機能障害の治療に対する看護 経皮的冠状動脈インターベンション (PCI)、開心術、 補助循環装置、血栓溶解療法・血栓除去術、服薬指導、生活指導、ペースメーカー、植え込み型除細動器 (ICD)	講義	・疾病治療論で学習した内容を復習しておくこと
8 9 10 11	1. 周手術期にある人の看護過程の実際 1) 手術後の合併症のリスクアセスメント (1) 術前アセスメント (2) 術後アセスメント	講義 演習	・胃がんまたは大腸がんの手術を受ける人の看護 ・事例を事前に提示する。

授業回数	授業内容	授業方法	留意点
12	2) 看護問題の優先順位		
13	3) 看護計画の立案・評価		
14	4) まとめ		
15	終講試験	客観テスト 解説	

成績評価の方法	客観テストによる評価
---------	------------

使用テキスト	系統看護学講座 専門分野Ⅱ 成人看護学総論 成人看護学① 医学書院 系統看護学講座 別巻 臨床外科看護総論 医学書院 系統看護学講座 別巻 臨床外科看護各論 医学書院 系統看護学講座 別巻 救急看護 医学書院 系統看護学講座 別巻 クリティカルケア看護学 医学書院 国民衛生の動向 厚生労働統計協会
--------	--

授業要項詳細

科目名	成人看護学方法論Ⅴ (治療及び回復が困難な対象への看護)	科目区分	専門分野Ⅱ
担当教員	相川 裕美	授業方法	講義・演習
期間	2 年次 後期	曜日/時限	
単位/時間	1 単位/30 時間	回数	15 回

科目の概要	命あるものにとって死は避けられないものである。人生半ばにして病気が治癒することなく死を間近にした成人期にある人が経験している全人的苦痛を理解すると共に、治療及び回復が困難にある人とその家族がそれらの経験に意味を見出し、その人らしく生きていくための支援の方法を学ぶ。また、終末期にある対象が、人として尊厳を保つことはどういうことなのか、主にがんにより全人的苦痛のある人の生命の尊厳を保つための関わりとはどういうことなのかを考察する。
科目の到達目標	1. 緩和ケアの概念を理解することができる。 2. 対象に生じる全人的苦痛に対するアプローチ方法や家族への関わりについて理解することができる。 3. 治療及び回復が困難にある患者およびその家族の特徴を理解し、その人らしく生きていくために必要な看護の役割を理解することができる。 4. 全人的苦痛のある人の生命の尊厳を保つための関わりとはどういうことなのかを考察することができる。

授業回数	授業内容	授業方法	留意点
1	1. 緩和ケアとは 1) 緩和ケアの定義 2) 緩和ケアの考え方 (緩和ケア、ターミナルケア、ホスピスケア、サポートケア、エンドオブライフケア) 3) チームアプローチ 4) 緩和ケアの場 5) 日本における緩和ケアの歴史と現状 6) 看護師の役割	講義	・倫理学で学習した内容を復習しておくこと ・スピリチュアル研究で学習した内容を復習しておくこと ・成人看護概論で学習した内容を復習しておくこと
2	1. 死をめぐる倫理的課題 1) 生命倫理とは 2) 患者の自己決定 (ACP) 3) 意思決定 4) 安楽死と尊厳死 5) 脳死	講義	・倫理学で学習した内容を復習しておくこと ・スピリチュアル研究で学習した内容を復習しておくこと ・成人看護概論で学習した内容を復習しておくこと

授業回数	授業内容	授業方法	留意点
3 4	1. 緩和ケアを必要としている人の特徴 1) 身体的苦痛の治療と看護 (全身倦怠感、消化器症状、呼吸困難、リンパ浮腫、泌尿器症状、疼痛) 2) 精神的苦痛の治療と看護 (不安、抑うつ、せん妄、不眠) 3) 社会的苦痛に対する支援 (社会的役割の変容・喪失、経済的問題) (1) ソーシャルサポート (2) 社会資源の活用 4) スピリチュアルペイン (1) スピリチュアルペインの定義 (2) スピリチュアルケア	講義	・スピリチュアル研究で学習した内容を復習しておくこと
5	1. 造血器の腫瘍にある人への看護 (白血病、悪性リンパ腫、多発性骨髄腫) 1) 造血器の腫瘍の観察とアセスメント 2) 検査（骨髄穿刺） 3) 治療（化学療法・放射線治療・手術療法）	講義	・疾病治療論で学習した内容を復習しておくこと
6	1. 化学療法を受ける人への看護 1) 化学療法の種類 2) 化学療法の特徴 3) 患者指導	講義	・疾病治療論で学習した内容を復習しておくこと
7	1. 放射線療法を受ける人への看護 1) 放射線療法の目的・方法 2) 放射線照射時の観察と看護	講義	・疾病治療論で学習した内容を復習しておくこと
8 9	1. 肺がんの患者の看護 1) 肺がんの基礎的知識 2) 検査に対する看護 3) 治療に対する看護 4) 生活指導	講義	・疾病治療論で学習した内容を復習しておくこと
10 11	1. 乳がん患者の看護 1) 乳がんの基礎的知識 2) 検査に対する看護 3) 治療に対する看護 4) 生活指導	講義	・疾病治療論で学習した内容を復習しておくこと

授業回数	授業内容	授業方法	留意点
12	1. 臨死期の援助① 1) がん終末期の症状と全身状態 2) 臨死期に特徴的な症状 3) 輸液療法 4) 苦痛緩和の鎮静 5) 臨死期のケア ①死亡の確認・死亡診断書 ②死後のケア（エンゼルケア）	講義	
13	1. 臨死期の援助② 1) ケアの対象者としての家族 2) 家族周期における発達課題 3) 家族が受ける影響 4) 看護師の役割	講義	
14	1. 悲嘆と遺族へのケア 1) 悲嘆とは 2) 死別によっておこる生活への変化 3) グリーフワーク・グリーフケア	講義	・スピリチュアル研究で学習した内容を復習しておくこと
15	終講試験	客観テスト 解説	

成績評価の方法	客観テストによる評価
---------	------------

使用テキスト 参考文献	系統看護学講座 専門分野Ⅱ 成人看護学総論 成人看護学① 医学書院 系統看護学講座 別巻 がん看護学 医学書院 系統看護学講座 別巻 クリティカル看護学 医学書院 系統看護学講座 別巻 緩和ケア 医学書院 国民衛生の動向 厚生労働統計協会
----------------	---

専門分野Ⅱ

老年看護学

授業要項詳細

科目名	老年看護学概論	科目区分	専門分野Ⅱ
担当教員	江口 聡子	授業方法	講義・演習
期間	1 年次 後期	曜日/時限	
単位/時間	1 単位/30 時間	回数	15 回

科目の概要	ライフサイクルの最終段階である老年期にある人はいずれ穏やかな死を迎える段階にある。高齢者に対する尊厳を保ち生きがいや価値観について考え個別の存在として理解する必要がある。高齢者の身体的・精神的・社会的・Spiritual な側面、社会的役割、健康生活を理解するとともに、高齢者を取り巻く社会、保健・医療・福祉の現状と今後の課題についてまた、老年看護の機能と役割、看護活動の場を学ぶ。
科目の到達目標	1. 老年期にある対象の特徴とその健康生活について理解する。 2. 加齢に伴う変化について学び、老年看護の機能と役割を理解する。 3. 社会構造の変化、高齢者に対する保健・医療・福祉の連携について理解する。 4. 高齢者の自立した生活を支えるためのヘルスプロモーションについて理解する。

授業回数	授業内容	授業方法	留意点
1	高齢者の理解(1) ・高齢者とは ・ライフサイクルからみた高齢者 ・人口の高齢化 ・健康寿命 ・生活の視点から見た高齢者の理解 ・高齢者の特徴 ・エンド・オブ・ライフ ・喪失体験	講義	
2	高齢者の理解 (2) ・老年期の健康 ・有訴・通院・入院率 ・サクセスフルエイジング ・高齢者総合的機能評価(CGA) ・I C F ・介護予防	講義	
3	高齢者の理解(3) ・加齢に伴う身体的特徴 ・加齢に伴う精神的、社会的、spiritual な特徴 老年の教育概念「ジェロロジーモデル」の特徴 ・高齢者にとってのQ O L	講義	基礎看護学概論の既習内容を復習して授業に参加
4	高齢者の理解(4) シニア体験	演習	高齢者体験セットを準備しておく
5	高齢者の理解(5) 高齢者体験発表	演習	
6	高齢者をとりまく社会 ・高齢者の生活と家族 ・高齢者と家族のライフサイクル ・要介護高齢者と家族介護 ・高齢者が生活する場 ・継続看護	講義	
7	高齢者を支える制度と社会資源、社会参加、地域包括ケア(1) ・高齢者を支える制度 ・高齢者を支える社会資源 ・医療保険・介護保険・年金・生活保護・成年後見制度	講義	

授業回数	授業内容	授業方法	留意点
8	高齢者を支える制度と社会資源、社会参加、地域包括ケア(2) ・社会資源とは ・社会資源の種類 ・ケアマネジメント ・地域包括ケアシステムの 5 つの構成要素 ・地域移行期の支援	講義 ・ 演習	1 グループ 5 名程度でグループワークする
9	高齢者の看護の基本(1) ・高齢者看護の特性と諸理論 ・老化理論 ・心理社会面理論 ・生涯発達理論 ・高齢者看護の概念 ・幸福論 ・ウェルネスアプローチ ・コンフォート理論 ・エンパワメント ・スピリチュアリティ理論	講義	
10	高齢者の看護の基本(2) ・高齢者看護における倫理 ・自己決定・虐待・終末期ケア ・尊厳死・延命医療 ・高齢者に対するアセスメント・包括的アセスメント ・アセスメントツール ・高齢者のバイタルサインの特徴	講義 ・ 演習	1 グループ 5 名程度でグループワークする
11	高齢者の看護の基本(3) ・高齢者看護の原則・家族への看護・社会資源の活用	講義	
12	生活を支える看護 ・住まい ・経済状態 ・社会参加 ・セクシュアリティ ・性への対応	講義	
13	高齢者へのケアマネジメント ・高齢者看護におけるチームアプローチ ・高齢者のリスクマネジメント	講義	
14	高齢者のヘルスプロモーション ・高齢者の健康づくり ・転倒予防 ・認知症予防 ・介護予防	講義	
15	終講試験	客観テスト 解説	

成績評価の方法	客観テストによる評価
---------	------------

使用テキスト	系統看護学講座 専門分野Ⅱ 老年看護学 医学書院
参考文献	国民衛生の動向 厚生労働統計協会

授業要項詳細

科目名	老年看護学方法論Ⅰ	科目区分	専門分野Ⅱ
担当教員	江口 聡子	授業方法	講義・演習
期間	2年次 前期	曜日/時限	
単位/時間	1単位/30時間	回数	15回

科目の概要	高齢者は加齢や健康障害により生活機能の低下がおきやすい。本科目では高齢者の身体や生活能力をアセスメントし、自立支援と介護予防を視点にQOL向上を目指し、高齢者及びその家族への生活支援を学ぶ。
科目の到達目標	1.加齢により生じた諸問題を、高齢者の特徴をふまえて理解する。 2.加齢による障害がもたらす生活への影響と、看護する際のアセスメントの視点、看護の要点について理解する。 3.高齢者の生活を支えるために必要な基本的な援助技術を習得する。

授業回数	授業内容	授業方法	留意点
1	高齢者のフィジカルアセスメント（１） ・高齢者の特徴 ・アセスメントの注意点 ・アセスメントツール ・アセスメントの手順 ・アセスメントの課題	講義	
2	高齢者のフィジカルアセスメント（２） 主な症例のアセスメント ・肺炎 ・脳血管疾患 ・不整脈 ・心筋梗塞	演習	実習室で、フィジコを用いて行う
3	高齢者の日常生活拡大のためのアセスメント ・BADL・IADL・認知機能のアセスメント ・移動動作アセスメント ・危険察知のアセスメント ・介護環境アセスメント	講義	
4	高齢者の日常生活を支える看護（１） コミュニケーション障害と看護 ・高齢者の聴覚・視覚・精神機能 ・コミュニケーションを困難にするその他の要因	講義	
5	高齢者の日常生活を支える看護 コミュニケーション障害と看護 ・認知症・失語症・構音障害の看護	演習	
6	高齢者の日常生活を支える看護（２） 歩行・移動における障害と看護 ・転倒予防 ・運動機能向上 ・杖歩行・歩行介助用具の活用	講義・ 演習	動きやすい服装で授業に参加
7	高齢者の日常生活を支える看護 歩行・移動における障害と看護 ・片麻痺のある高齢者の歩行の介助 ・車椅子移乗	演習	動きやすい服装で授業に参加

授業回数	授業内容	授業方法	留意点
8	高齢者の日常生活を支える看護(3) 食事・栄養における障害と看護 嚥下障害のある高齢者への食事介助と口腔ケア	講義	
9	高齢者の日常生活を支える看護 食事・栄養における障害と看護 嚥下障害のある高齢者への食事介助と口腔ケア ・誤嚥防止対策	講義	
10	高齢者の日常生活を支える看護(4) 排泄障害と看護 ・失禁と尿漏れのある患者のケア ・オムツ交換と使用方法 ・陰部洗浄・摘便 ・QOL の低下を防ぐ援助	演習	実習着を着用し、実習室で行う
11	高齢者の日常生活を支える看護(5) 清潔・衣生活への看護 ・口腔ケア ・義歯の取り扱い	演習	実習着を着用し、実習室で行う
12	高齢者の日常生活を支える看護(6) 活動と休息 ・睡眠	講義	
13	高齢者の日常生活を支える看護(7) 地域で活躍する高齢者	講義	
14	高齢者の日常生活を支える看護(8) 高齢者に多い症状と看護 ・視覚障害・聴覚障害のある患者の理解 ・視覚障害の看護 ・看護とコミュニケーション技術 ・補聴器使用の看護 ・家族支援 ・社会のバリアフリー	講義 演習	視覚・聴覚障害体験グッズを準備する
15	終講試験	客観テスト 解説	

成績評価の方法	客観テストによる評価
---------	------------

使用テキスト	系統看護学講座 専門分野Ⅱ 老年看護学 医学書院 系統看護学講座 専門分野Ⅱ 老年看護 病態・疾患論 医学書院
参考文献	国民衛生の動向 厚生労働統計協会

授業要項詳細

科目名	老年看護学方法論Ⅱ	科目区分	専門分野Ⅱ
担当教員	岡村 留美, 青木 いずみ, 遠竹 華子	授業方法	講義・演習
期間	2 年次 前期	曜日/時限	
単位/時間	1 単位/30 時間	回数	15 回

科目の概要	高齢者に起こりやすい健康障害の特徴と治療過程を理解し、高齢者に多い症状・疾患に応じた家族介護を含めた看護を学ぶ。またライフステージ最後の終末期の看護を学ぶ。
科目の到達目標	1. 老年期に起こりやすい健康障害の特徴と、その治療過程における看護を理解する。 2. 看護活動領域の多様な広がりとその看護の役割を理解する。 3. ライフステージ最後の「死」について考えるとともに、人間としての尊厳を失わず、その人らしい生を全うできるよう、安らかな死への援助について理解する。

授業回数	授業内容	授業方法	留意点
1	治療を受ける高齢者の看護（1） ・薬物療法 ・加齢による生理学的変化 ・服薬管理 ・手術療法 ・高齢者の手術 ・手術侵襲 ・周手術期看護 ・合併症	講義	
2	治療を受ける高齢者の看護（2） ・リハビリテーション ・行動制限 ・加齢とリハビリ ・リハビリの意義 ・高齢者リハビリの看護	講義	
3	治療を受ける高齢者の看護（3） ・外来受診 ・診察 ・検査の看護 ・入院時の看護	講義	
4	治療を受ける高齢者の看護（4） ・行動制限 ・退院調整 ・在宅 ・地域包括ケアシステム	講義	
5	高齢者の疾患・障害に対する看護（1） ・脱水 ・貧血 ・浮腫 ・電解質異常 ・パーキンソン病	講義	
6	高齢者の疾患・障害に対する看護（2） ・肺炎 ・誤嚥	講義	
7	高齢者の疾患・障害に対する看護（3） ・骨粗鬆症 ・大腿骨頸部骨折 ・関節可動域訓練・廃用症候群の予防	講義 演習	動きやすい服装で実習室に集合
8	高齢者の疾患・障害に対する看護（4） 慢性閉塞性肺疾患（COPD）	講義	
9	高齢者の疾患・障害に対する看護（5） 心不全	講義	
10	高齢者の疾患・障害に対する看護（6） ・痛み ・掻痒感 ・倦怠感	講義	癌、肝臓病や糖尿病等病態を学習して授業参加
11	高齢者の疾患・障害に対する看護（7） 認知症・うつ病・せん妄の看護	講義	

授業回数	授業内容	授業方法	留意点
	・認知症の病態・症状 ・認知症の予防と治療 ・人権と権利擁護 ・うつ病の背景と特徴 ・せん妄を引き起こす要因 ・せん妄の予防 ・看護と家族支援		
12	終末期の看護（１） ・高齢者の死と医療ケア ・死の捉え方 ・終末期における家族支援 ・終末期を迎える場	講義	
13	終末期の看護（２） ・終末期看護の実践 ・身体徴候 ・精神的苦痛に関するケア ・臨死期の看護 ・グリーフケア	講義	
14	高齢者の介護老人保健施設での看護 ・心身状態のアセスメント ・看護展開 ・在宅サービスの利用 ・高齢者のレクリエーション ・介護負担	講義	
15	終講試験	客観テスト 解説	

成績評価の方法	客観テストによる評価
---------	------------

使用テキスト	系統看護学講座 専門分野Ⅱ 老年看護学 医学書院 系統看護学講座 専門分野Ⅱ 老年看護病態・疾患論 医学書院
--------	---

授業要項詳細

科目名	老年看護学方法論Ⅲ	科目区分	専門分野Ⅱ
担当教員	江口 聡子	授業方法	講義・演習
期間	2 年次 後期	曜日/時限	
単位/時間	1 単位/15 時間	回数	8 回

科目の概要	老年看護は、高齢者におこりやすい健康障害の特徴と治療過程を理解し、家族を含めた自立生活を支援することにある。ここでは、健康を障害された高齢者とその家族の生活を支援するために、その人らしさ、価値観、家族支援、社会資源の活用を含めた内容を看護過程に用いて学習する。
科目の到達目標	1.加齢や疾病に伴う模擬高齢者の健康課題を捉え、生活機能に着目した看護過程を展開する。

授業回数	授業内容	授業方法	留意点
1	高齢者の看護過程の基礎 高齢者の特徴を踏まえた看護過程の考え方 高齢者の特徴・看護課題を捉えるポイントをわかりやすく 看護過程事例展開(1)	講義	老年看護②リハビリテーション看護を予習して授業に参加
2	「大腿骨頸部骨折の高齢者」の看護過程の展開 ・情報収集とアセスメント	講義・演習	事例は提示しておく 基礎看護学の看護過程展開を復習して授業に参加
3	「大腿骨頸部骨折の高齢者」の看護過程の展開 ・情報収集とアセスメント	講義・演習	
4	「大腿骨頸部骨折の高齢者」の看護過程の展開 ・看護計画立案 グループで計画立案を話し合う	演習	1 グループ 5 ～ 6 名とし、グループワークする
5	「大腿骨頸部骨折の高齢者」の看護過程の展開 ・看護実践と評価 計画の一部のロールプレシナリオを作成する	演習	1 グループ 5 ～ 6 名とし、グループワークする 立案した計画の第一位に関する看護実践と評価を考察する
6 7	「大腿骨頸部骨折の高齢者」の看護過程の展開 ・看護実践 計画の一部をロールプレイする ・評価	演習	グループワークの成果を発表する 提出した看護計画や社会資源は、論文体テストとする
8	終講試験	客観テスト 解説	

成績評価の方法	客観テストによる評価 論文体テストによる評価
---------	---------------------------

使用テキスト	系統看護学講座 専門分野Ⅱ 老年看護学 医学書院 系統看護学講座 専門分野Ⅱ 老年看護 病態・疾患論 医学書院
--------	--

専門分野Ⅱ

小児看護学

授業要項詳細

科目名	小児看護学概論	科目区分	専門分野Ⅱ
担当教員	青木 章子	授業方法	講義
期間	1 年次 後期	曜日/限	
単位/間	1 単位/30 時間	回数	15 回

科目の概要	小児看護学概論では、小児看護の目的と看護の役割を知り、小児看護の理念の基に、すべての子どもの健康的な生活をめざすための基本的な知識・技術・態度を学び、子どもたちの健やかな成長・発達を促すために小児期各期の特徴と子どもと家族を含めた社会環境を捉えた看護を学ぶ。
科目の到達目標	1. 小児看護の目的と対象を学び、現代の小児看護を知る。 2. 現代の子どもと家族を取り巻く社会環境を知る。 3. 小児各期における成長・発達と健康増進のために必要な支援を知る。 4. 小児看護に携わる看護師の役割を学ぶ。

授業回数	授業内容	授業方法	留意点
1	1. 小児看護の特徴と理念 1) 小児看護の対象 2) 小児看護の目的と役割 3) 子どもの権利と看護 2. 小児医療と看護の変遷 1) 小児医療と看護の変遷	講義 演習	・講義開始前には、テキストの関連ページを学習して講義に臨む。 ・教育学の学修内容を復習して講義に臨む。
2	1. 子どもと家族 1) 子どもにとっての家族 2) 現代家族の特徴	講義 演習	・国民衛生の動向の関連ページを学習して講義に臨む。 ・「家族社会論」の学修内容を復習して講義に臨む。
3	1. 小児看護と法律・施策 1) 子どもを取り巻く社会環境 2) 母子保健施策 3) 小児に関する法律	講義 演習	・国民衛生の動向及びテキストの関連ページを学習して講義に臨む。
4	1. ベタゴジーからみる子どもの学習 2. 子どもの成長・発達 1) 成長・発達の原則 2) 成長・発達に影響する因子 3) 成長の評価 4) 発達の評価	講義 演習	事前に地域に住む子どもたちを観察した上で講義に臨む。観察の際には、メモをとっておくと良い。 (第4回～第12回まで)
5	1. 小児看護で用いられる理論 1) エリクソンの自我発達理論 2) ピアジェの認知発達理論 3) ボウルビイのアタッチメント理論	講義 演習	各自で理論家3名の資料を集めて講義に臨む。
6	1. 乳児期の子どもの成長・発達 1) 成長・発達の特徴	講義 演習	・乳児期に関連したページを講義前に読んで講義に臨む。

授業回数	授業内容	授業方法	留意点
	2) 発達課題 3) 健康問題		・第 5 回目の資料を復習して講義に臨む。
7	1. 乳児期の子どもの成長・発達を促す日常生活援助 1) 日常生活援助の特徴 2) 日常生活援助	講義 演習	(第 6 回～第 11 回まで) * 6 回・7 回は 2 時間続きとする。
8	1. 幼児期の子どもの成長・発達と看護 1) 成長・発達の特徴 2) 発達課題 3) 健康問題	講義 演習	・幼児期に関連したページを読んで学修に臨む。 * 8 回・9 回は 2 時間続きとする。
9	1. 幼児期の子どもの成長・発達を促す日常生活援助 1) 日常生活援助の特徴 2) 日常生活援助	講義 演習	
10	1. 学童期・思春期の子どもの成長・発達と看護 1) 成長・発達の特徴 2) 発達課題 3) 健康問題 4) 成長・発達を促す援助	講義 演習	・学童期・思春期に関連したページを読んで講義に臨む。
11	1. 児童虐待 1) 児童虐待の現状 2) 児童虐待を受けた子どものケア	講義 演習	・児童虐待に関連したページを読んで講義に臨む。 ・事前に児童虐待に関連した新聞記事や本を読み講義に臨む。(個人のブログ、SNS は参考にしない)
12	1. 子どもと遊び 1) 遊びの意義 2) 成長・発達段階に応じた遊び	講義 演習	・グループワークで年齢に応じた遊びを創作する。事前にグループには課題を提示する。
13	子どもの発達段階に応じた日常生活の援助 1) 日常生活の援助 食事 睡眠 排泄 清潔 遊び 2) 安全	演習	・第 6 回～第 11 回までに使用した配布資料を復習して講義に臨む。
14			
15	終講試験	客観テスト 解説	・講義にて学修した内容および配布した資料を中心に復習し、終講試験に臨む。

成績評価方法	客観テストによる評価
--------	------------

使用テキスト 参考文献	系統看護学講座 専門分野Ⅱ 小児看護学概論 小児臨床看護総論 小児看護学① 医学書院 国民衛生の動向 厚生労働統計協会
----------------	--

授業要項詳細

科目名	小児看護学方法論Ⅰ	科目区分	専門分野Ⅱ
担当教員	青木 章子, 井上 陽子	授業方法	講義・演習
期間	2 年次 前期	曜日/時限	
単位/時間	1 単位/30 時間	回数	15 回

科目の概要	1. 健康障害や入院が子どもと家族に及ぼす影響を理解する。子どもの発達段階や疾病の経過（急性期、慢性期、終末期）と症状を理解し健康障害を持つ子どもと家族の看護を行うための知識・技術・態度を学ぶ。
科目の到達目標	1. 入院や健康障害が子どもと家族に与える影響を知る。 2. 発達段階と病期の特徴を踏まえた子どもと家族に必要な看護を学ぶ。 3. 疾病の経過（急性期 慢性期 終末期）や症状に応じた看護を学ぶ。 4. 検査や処置を受ける子どもに必要な看護技術を実践するための知識・技術・態度を身につける。

授業回数	授業内容	授業方法	留意点
1	1. 健康障害をもつ子どもと家族の看護① 1) 子どもの病気の理解 2) 健康障害に伴う子どものストレスと対処 3) 子どもの健康障害に伴う家族のストレス 4) 健康障害をもつ子どもと家族へのストレス対処に対する援助	講義	・小児看護学概論で学修内容を復習して講義に臨む。 ・心理学で学修内容を復習して講義に臨む。 ・講義に関連したテキストを読んで講義に臨む。（第 1 回～第 14 回まで）
2	1. 健康障害をもつ子どもと家族の看護② 1) 入院中の子どもと家族の看護 2) 外来における子どもと家族の看護 3) 在宅療養中の子どもと家族の看護 4) 災害を受けた子どもと家族の看護	講義	・健康障害をもつ子どもと家族への看護のページを読んで講義に臨む。
3	1. 急性期にある子どもと家族の看護 1) 急性期の特徴 2) 子どもと家族の看護	講義	・急性期にある子どもと家族への看護のページを読んで講義に臨む。
4	2. 慢性期にある子どもと家族の看護 1) 慢性期の特徴 2) 子どもと家族の看護	講義	・慢性期にある子どもと家族への看護のページを読んで講義に臨む。
5	3. 終末期にある子どもと家族の看護 1) 終末期の特徴 2) 子どもの死の概念の発達 3) 子どもと家族の看護	講義	・スピリチュアル研究で学修内容を復習して講義に臨む。 ・倫理学で学修内容を復習して講義に臨む。
6	1. 子どもにみられる主な症状と看護① 1) 不機嫌 2) 啼泣 3) 意識障害・痙攣	講義	・事前に身近な子どもがどのような泣き方や表情をしているか観察して講義に臨む。 （テレビや子ども番組でも構わない）その際にはメモを取っておくことが望ましい。

授業回数	授業内容	授業方法	留意点
7	1. 子どもにみられる症状と看護② 1) 発熱 2) 発疹	講義 演習	・病態生理学の感染症・発熱・発疹の発生機序等を復習し講義に臨む。
8	1. 子どもにみられる症状と看護③ 1) 下痢・嘔吐 2) 脱水	講義 演習	・病態生理学の体液の異常・下痢・嘔吐・脱水の発生機序等を復習し講義に臨む。
9	1. 子どもにみられる症状と看護④ 1) 呼吸困難	演習 演習	・病態生理学の呼吸困難の発生機序等を復習し講義に臨む。
10	1. 検査・処置を受ける子どもの看護① 1) 子どもへの説明と同意（プレパレーション） 2) バイタルサインと身体測定 3) 検体採取（採血・採尿）	講義 演習	・プレパレーションではグループワークを行う。各グループに事前課題を提示する。第13回～第14回の技術練習で援助項目に沿って学修内容を活用していく。 ・基礎看護学方法論Ⅰと基礎看護学方法論Ⅵの第8回～第9回の学修内容を復習し講義に臨む。
11	1. 検査・処置を受ける子どもの看護② 1) 酸素療法 2) 吸引 3) 吸入	講義	・基礎看護学方法論Ⅵの第1回から第6回までの学習内容を復習して講義に臨む。
12	1. 検査、処置を受ける子どもの看護③ 1) 与薬（経口薬 坐薬） 2) 輸液管理	講義 演習	・基礎看護学方法論Ⅶの第1回～第5回と基礎看護学方法論Ⅶの第11回～第13回までの学修内容を復習して講義に臨む。
13	検査、処置を受ける子どもの看護 1) バイタルサインと身体測定 2) 吸引と吸入 3) 輸液管理	演習	・第1回・第10回・第11回の講義内容を復習し、配布資料を持参し講義に臨む。 ・基礎看護学方法論Ⅰの学修内容、基礎看護学方法論第1回～第13回、基礎看護学方法論Ⅶの第11回～第13回の学修内容を復習して講義に臨む
14			
15	終講試験	客観テスト 解説	・講義で学修した内容および配布資料を中心に復習し、終講試験に臨む。

成績評価の方法	客観テストによる評価
---------	------------

使用テキスト	系統看護学講座 専門分野Ⅱ 小児看護学概論 小児臨床看護総論 小児看護学① 医学書院 系統看護学講座 専門分野Ⅱ 小児臨床看護各論 小児看護学② 医学書院
--------	--

授業要項詳細

科目名	小児看護学方法論Ⅱ	科目区分	専門分野Ⅱ
担当教員	高嶋 英樹, 廣田 晶子	授業方法	講義
期間	2 年次 前期・後期	曜日/時限	
単位/時間	1 単位/30 時間	回数	15 回

科目の概要	小児期にみられる代表的な疾患の病態生理、診断、治療を学び、健康を障害された子どもと家族への看護実践に向けた基礎的知識を学ぶ。
科目の到達目標	1.小児期にみられる代表的な疾患の病態生理、診断、検査、治療及びその看護を知る。 2.小児期にみられる代表的な疾患をもつ子どもと家族に必要な看護を実践するための基礎的知識を習得する。

授業回数	授業内容	授業方法	留意点
1～7	小児の代表疾患 1) 新生児疾患 2) 消化器疾患 3) 呼吸器疾患 4) 循環器疾患 5) 悪性新生物疾患 6) 腎・泌尿器疾患 7) 代謝・内分泌疾患 8) 神経疾患 9) 免疫・アレルギー疾患 10) 感染症 11) 運動器疾患 12) 眼・耳鼻科疾患	講義	
8	1. 手術を受ける子どもと家族の看護 1) 子どもの手術の特徴 2) 手術前・術中・手術後の看護 2) 主な疾患と看護 (1) 口唇口蓋裂 (2) 先天性股関節脱臼	講義	

授業回数	授業内容	授業方法	留意点
9	1. 急性期にある子どもと家族の看護 1)主な疾患と看護 (1)川崎病 (2)気管支喘息	講義	
10	1. 救急救命処置が必要な子どもと家族の看護 1)主な疾患と看護 (1)溺水 (2)窒息 (3)痙攣 2. 医療的ケアを必要とする子どもと家族の看護 (1)脳性麻痺 (2)重度心身障害	講義	
11	1. 慢性期疾患の子どもと家族の看護 1)主の疾患と看護 (1)ネフローゼ症候群 (2)腎炎		
12	1. 慢性期疾患の子どもと家族の看護 1)主の疾患と看護 (1)糖尿病	講義	
13	1. 血液・腫瘍疾患の子どもと家族の看護 1)主の疾患と看護 (1)白血病 (2)神経芽腫	講義	
14	1. 発達遅滞にある子どもの家族の看護 1)主な疾患と看護 (1)自閉スペクトラム症 (2)神経性やせ症	客観テスト 解説	・講義で学修した内容および配布資料を中心に復習し、終講試験に臨む。
15	終講試験	客観テスト 解説	・講義で学修した内容および配布資料を中心に復習し、終講試験に臨む。

成績評価の方法	客観テストによる評価
---------	------------

使用テキスト	系統看護学講座 専門分野Ⅱ 小児看護学概論 小児臨床看護総論 小児看護学① 医学書院 系統看護学講座 専門分野Ⅱ 小児臨床看護各論 小児看護学② 医学書院
--------	--

授業要項詳細

科目名	小児看護学方法論Ⅲ	科目区分	専門分野Ⅱ
担当教員	青木 章子	授業方法	講義・演習
期間	2 年次 後期	曜日/時限	
単位/時間	1 単位／15 時間	回数	8 回

科目の概要	小児看護に関連する既習の知識を統合し、小児期における子どもと家族に必要な看護実践をするための看護過程の展開を学ぶ。
科目の到達目標	1.事例を通して健康上に問題のある子どもの特徴をふまえた情報収集とアセスメントの方法を理解する。 2.事例を通して健康上に問題のある子どもの看護過程の展開のあり方を学ぶ。

授業回数	授業内容	授業方法	留意点
1	小児看護の看護過程の特徴	講義	・小児看護学概論、小児看護学方法論Ⅰ・Ⅱで学修内容を復習して講義に臨む。また、講義で使用した配布資料を持参する。 ・基礎看護学方法論Ⅷでの学修内容を復習し、配布資料を持参し講義に臨む。 ・疾病治療論Ⅱの肺炎を復習して講義に臨む。 ・担当教員以外に教員 1 名入る。 ・グループで演習を行う。
2	肺炎と診断された子どもの事例紹介	講義	
3	看護過程の展開 (情報収集、アセスメントの実際)	演習	
4	看護過程の展開 (アセスメントの実際)	演習	
5	看護過程の展開 (看護問題の明確化、計画立案)	講義 演習	
6	看護過程の展開 (援助場面の実施) (まとめ：評価の視点、修正)	講義 演習	
7			
8	終講試験	客観テスト 解説	

成績評価の方法	客観テストによる評価 論文体テストによる評価
---------	---------------------------

使用テキスト	系統看護学講座 専門分野Ⅱ 小児看護学概論 小児臨床看護総論 小児看護学① 医学書院
参考文献	系統看護学講座 専門分野Ⅱ 小児臨床看護各論 小児看護学② 医学書院 ゴードンの機能的健康パターンに基づく看護過程と看護診断 NOUVELLE HIROKAWA NANDA-Ⅰ 看護診断 定義と分類 2018－2020 医学書院 看護の基本となるもの 日本看護協会出版-

専門分野Ⅱ

母性看護学

授業要項詳細

科目名	母性看護学概論	科目区分	専門分野Ⅱ
担当教員	永重 英子	授業方法	講義
期間	2 年次 前期	曜日/時限	
単位/時間	1 単位/ 3 0 時間	回数	15 回

科目の概要	本科目では、母子と家族および女性を看護の対象とした母性看護の理念と役割を知り、母性の特性を、身体的、心理・社会的、スピリチュアルな側面からとらえて、女性のライフステージ各期における健康支援（健康の保持・増進、疾病予防）と健康問題に対応した看護について学ぶ。 更に、母子保健の変遷を概観し、母性看護における法律などを学ぶ。 またリプロダクティブ・ヘルス／ライツの概念を知り、ヘルスケアの課題と倫理を含めた母性看護の在り方を学ぶ。
科目の到達目標	1.母性看護の概念を理解する。 2.母性看護の対象である母性の特性を、身体的、心理・社会的、スピリチュアルな側面からとらえ、母子および家族と女性を理解する。 3.女性のライフステージ各期における健康問題に応じた看護を理解する。 4.母子保健の概要をとらえ母性看護に関連する組織・法律・施策を理解する。 5.リプロダクティブ・ヘルス／ライツの意義を理解する。 6.性と生殖に関する生命倫理と看護倫理を理解して、看護師の使命を学ぶ。

授業回数	授業内容	授業方法	留意点
1	1. 母性看護の概念① 1)母性、父性の定義 2)母性の特性 3)親役割と親性	講義 演習	・テキストの母性看護の概念の部分を読んで講義に臨む。
2	1. 母性看護の概念② 1) 家族の発達 (1) 家族機能と発達課題 2) 母子関係 (1) 母子に関連する理論 ・基本的信頼感（エリクソン） ・母子相互作用（ケネルとクラウス） ・愛着形成、アタッチメント（ボウルビイ）	講義 演習	・既習の家族社会論の家族機能と発達課題を復習して講義に望む ・前回講義の母性看護の概念を復習して講義に臨む。
3	1. 母子関係形成と母乳育児支援 1)母乳育児の動向 2)母乳育児の特性（恩恵） 3)母乳育児のあり方	講義 演習	・前回授業の母子関係に関する資料，特に「愛着・アタッチメントならびに母子相互作用」に関する講義内容を復習して臨む
4	1. 母性看護の概念④ 1) リプロダクティブ・ヘルス/ライツ (1) リプロダクティブ・ヘルス/ライツとは (2) 女性とリプロダクティブ・ヘルス/ライツの課題	講義	・テキストの「リプロダクティブ・ヘルス/ライツ」の部分を読んで講義に臨む

授業回数	授業内容	授業方法	留意点
5	1. 母性看護の概念⑤ 1) 母性看護の変遷 2) 母性看護のあり方(母性看護の理念、役割) 3) チーム医療と協働	講義 演習	・前回学習した「リプロダクティブ・ヘルス/ライツ」をもとに、母性看護のあり方についてグループワークを実施する。
6	1.母性看護における倫理 1) 生命倫理と看護倫理 2) 倫理規定における看護者の使命	講義 演習	・既習の看護学概論の「看護倫理」を復習して講義に臨む テキストの「母性看護における倫理的配慮」を読んで講義に臨む
7	1.性と生殖① 1)セクシュアリティとは 2)セクシュアリティの発達と課題 3)生殖器の形態・機能	講義 演習	・テキストの性と生殖の部分、特に「セクシュアリティ」について読んで講義に臨む
8	1.性と生殖② 4)性分化のメカニズム 5)性周期のメカニズム 6)性行動・性反応	講義	・前回の講義内容を復習し、テキストの「性分化から性行動・性反応」を読んで講義に臨む
9	1. 女性のライフステージ各期における健康問題に応じた看護① 1)思春期女性の特徴 2)思春期女性の健康問題と看護	講義 演習	・テキストの「思春期・成熟期・更年期・老年期の健康問題と看護」を読んで講義に臨む ・グループごとで女性のライフサイクルをもとに、ライフステージ各期の特徴についてワークする
10	1. 女性のライフステージ各期における健康問題に応じた看護② 1)成熟時女性の特徴 2)成熟期女性の健康問題と看護 3) 妊孕性にかかわる健康問題と看護	講義 演習	・テキストの「思春期・成熟期・更年期・老年期の健康問題と看護」を読んで講義に臨む ・グループごとで女性のライフサイクルをもとに、ライフステージ各期の特徴についてワークする↓
11	1. 女性のライフステージ各期における健康問題に応じた看護② 1)妊孕性に関わる健康問題と看護	講義 演習	・提示された、妊孕性に関わる事例についてグループワークを行う ・第4回目のリプロダクティブ・ヘルス/ライツの授業を復習して臨む ・テキスト「妊孕性に関わる健康問題と看護」の部分を読んで講義に望む
12	1. 女性のライフステージ各期における健康問題に応じた看護③ 1)更年期女性の特徴 2)老年期女性の特徴 3)更年期～老年期女性の健康問題と看護	講義 演習	・グループごとで女性のライフサイクルをもとに、ライフステージ各期の特徴についてワークする↓
13	1.母性看護に関連する組織、法律・施策① 1) 母性看護の対象を取り巻く社会の変遷と現状 (1) 母子保健の変遷 (2) 母子保健統計の動向	講義 演習	第5回目の講義内容を復習して講義に臨む。

授業回数	授業内容	授業方法	留意点
14	1.母性看護に関連する組織、法律・施策② 1)母性看護に関する主な組織 2)母性看護に関する法律 ・母子保健法・児童福祉法・労働基準法 母体保護法 他 3)子育て支援に関連する施策 ・健やか親子 21・妊娠・出産包括支援事業他	講義	・前回の授業内容を復習して講義に臨む ・テキスト「母性看護に関する法律、子育て支援に関する施策」を読んで講義に臨む
15	終講試験	客観テスト 解説	

成績評価の方法	1. 客観テストによる評価
---------	---------------

使用テキスト 参考文献	系統看護学講座 専門分野Ⅱ 母性看護学① 母性看護学概論 医学書院 国民衛生の動向 厚生労働統計協会
----------------	---

授業要項詳細

科目名	母性看護学方法論Ⅰ	科目区分	専門分野Ⅱ
担当教員	戸村 恵理	授業方法	講義・演習
期間	2 年次 前期・後期	曜日/時限	
単位/時間	1 単位/ 3 0 時間	回数	15 回

科目の概要	正常な経過にある妊婦・産婦・褥婦・新生児とその家族の特徴を理解し、それぞれの過程において適応を促し、健康の維持・増進にむけた看護の役割と方法を学ぶ。
科目の到達目標	1. 正常な経過をたどる妊婦・産婦・褥婦期および新生児の特徴を理解する。 2. 正常な経過をたどる妊婦・産婦・褥婦期および新生児の看護ケアと基礎的看護技術を学ぶ。

授業回数	授業内容	授業方法	留意点
1	1. 妊娠の成立と定義、受胎・器官発生メカニズム 2. 妊娠の経過における胎児の発育と胎児機能の発達 3. ウイルス・薬物等が胎児に与える影響 4. 妊娠に伴う母体の身体的変化 1) 生殖器系 2) 全身状態	講義	テキストの「妊娠期における看護」の「妊娠の生理」を学習し講義に臨む。 ※受胎原理模型、胎児モデル、胎児発育順序模型を用いて、イメージを具体化する。
2	1. 妊婦の日常生活とセルフケアを支える看護 2. 妊娠中のマイナートラブルとケア 3. 妊婦の保健指導（セルフケアの促進）	演習 講義	テキストの「妊娠期における看護」を学習し講義に臨む。 DVD「目で見える母性看護—妊婦健康診査と保健指導」を視聴する。 演示：保健指導の実際 ※高血圧食品模型、腎臓病食品模型を見て、食品のイメージをはかる。
3	1. 妊婦と胎児のアセスメントと看護 1) 妊婦健康診査 2) 胎児の超音波検査、超音波ドプラ法：胎児の発育 well-being の評価 3) レオポルド触診法 2. 妊娠期の心理・社会的変化と親になることへの支援 1) 妊娠の受容とアンビバレントな感情 2) ルービンの心理的適応過程 3) 親役割獲得を促すケア	講義	テキストの「分娩期における看護」を学習し講義に臨む。 母性看護学に関する理論（ルービンの心理的適応過程等）は母性看護学概論の既習知識を想起する。
4	1. 妊婦体験（妊婦ジャケットの装着） 2. 妊婦健康診査 レオポルド触診法・腹囲・子宮底長・心音聴取・ドップラー法・トラウバ	演習	演習：妊婦ジャケットの装着 技術演習：レオポルド触診法、胎児心音聴取・ドップラー法 演示：妊婦健康診査、腹囲・子宮底長測定、レオポルド触診法、胎児心音聴

授業回数	授業内容	授業方法	留意点
			取・ドップラー法（トラウベ）
5	1. 分娩の生理 1) 分娩に関する定義 2) 分娩の三要素 2. 分娩経過と胎児の健康状態 1) 分娩の経過 2) 分娩経過とアセスメント 3) 分娩進行状態の観察と記録 (パルトグラム)	講義	テキストの「分娩期における看護」を学習し講義に臨む。 DVD「目で見る母性看護—分娩期のアセスメントと看護」を視聴する。 演習：パルトグラムの記録の見方
6	1. 産婦のニーズと看護（児の健康状態観察） 1) 入院までのケアと入院時の観察 2) 産婦と家族の心理 3) 分娩進行中の産痛緩和・安全な体位 4) 産婦の基本的ニーズのケア 5) 分娩に向けた産婦の準備とケア 2. 胎児の健康状態の観察（分娩監視装置、ドブラ法、B P S） 3. 分娩直後の母体の観察 4. 早期母子接触 5. 分娩後 2 時間の観察	講義 演習	「母性看護学実践の基本」の「産婦のニーズと看護」と「母性看護技術」の「産婦の看護にかかわる技術」を学習し講義に臨む。 入院から分娩経過に合わせた看護の実際を学ぶ。
7	1. 分娩進行中の産痛緩和・安全な体位 1) 分娩進行による産痛の部位の変化 2) 呼吸法 3) 体位の工夫 4) 圧迫・マッサージ法 5) アロマオイル、温電法等	講義	事前にDVD「目で見る母性看護—分娩期のアセスメントと看護」を視聴する。 演習：呼吸法、体位の工夫、圧迫・マッサージ法、基本的ニーズのケア（ロールプレイ）
8	1. 産褥期における身体的変化 2. 褥婦のフィジカルアセスメントと看護 1) 子宮復古のアセスメントと健康促進 (子宮底の輪状マッサージ、産褥体操、骨盤底筋体操)	講義 演習	演習：産褥体操、骨盤底筋体操 テキストの「産褥期における看護」を学習し講義に臨む。
9	1. 褥婦の日常生活とセルフケアを支える看護 2. 教育指導 3. 褥婦の心理社会的変化のアセスメントと看護 4. 親役割への支援		母子相互作用（ケネルとクラウス）、基本的信頼感（エリクソン）、愛着形成・アタッチメント（ボウルビィ）等の理論は母性看護学概論の既習知識を想起する。 退院後に備えて、褥婦のセルフケア能力の向上をはかる。 演示：褥婦への教育指導
10	1. 褥婦の情緒的反応と育児行動のアセスメント 2. マタニティブルーと産後精神障害	演習	演習：「『赤ちゃんの元気がない』と心配する褥婦」ケースのグループディスカッション ①グループ演習 ②発表

授業回数	授業内容	授業方法	留意点
11	1. 新生児の定義と生理機能 2. 新生児のアセスメントとケア① 1) 在胎週数の決定と成熟度の評価 2) アプガースコア 3) 出生直後のケア 4) 新生児の計測とフィジカルアセスメント 5) バイタルサインチェックと全身の観察 6) 出生後 24 時間以内のケア	講義	テキストの「新生児期における看護」を学習し講義に臨む。
12	1. 新生児のアセスメントとケア② 1) 出生後 24 時間以降から退院に向けたケア 2) 新生児の安全 3) 新生児の行動のアセスメント	講義	※新生児のケアは、衣類の交換 おむつ交換、抱き方と寝かせ方、新生児の皮膚の清潔法、排気、爪切り、点眼について学修する。
13	1. 新生児のアセスメントとケア③ 1) 新生児のバイタルサイン測定 2) 沐浴と臍処置 3) 衣類・おむつの交換 4) 抱き方と寝かせ方 5) 排気 6) 計測 7) 点眼	演習	実技演習：沐浴、衣類・おむつの交換 新生児のバイタルサイン測定 演示：新生児のバイタルサイン測定、計測、沐浴と臍処置、抱き方と寝かせ方、点眼
14	1. 乳房の構造と機能・乳汁分泌メカニズム 2. 母乳育児支援 1) 乳房のアセスメント 2) 出生直後からの授乳と母子同室 3) 自律授乳 4) 効果的な吸着（ラッチ・オン）と吸啜 5) 母親・新生児・授乳の観察と評価 3. 乳頭・乳房のトラブルの原因と対処方法	講義	「母性看護学概論」の「母性関係形成と母乳育児支援」を復習して講義に臨む。 演示：初回授乳指導（母児同室前の指導） 乳房トラブルの予防・ケアでは、ソフトマッサージ、乳頭乳輪部の浮腫軽減法（R P S 法）、搾乳を学修する。
15	終講試験	客観テスト解説	

成績評価の方法	客観テストによる評価
---------	------------

使用テキスト	系統看護学講座 専門分野Ⅱ 母性看護学各論 母性看護学② 医学書院
--------	-----------------------------------

授業要項詳細

科目名	母性看護学方法論Ⅱ	科目区分	専門分野Ⅱ
担当教員	中野 美穂	授業方法	講義・演習
期間	2 年次 後期	曜日/時限	
単位/時間	1 単位/30 時間	回数	15 回

科目の概要	異常な経過をたどる妊婦・産婦・褥婦および新生児とその家族の特徴を知り、対象に必要な看護を学ぶ。
科目の到達目標	1. 異常経過をたどる妊婦・産婦・褥婦および新生児とその家族の特徴について理解する。 2. 異常経過をたどる妊婦・産婦・褥婦および新生児の家族を含めた看護の実際を理解する。

授業回数	授業内容	授業方法	留意点
1	1. 妊娠期の異常と看護① 1) 子宮外妊娠と看護 2) 流産・切迫流産・不育症と看護 3) 早産・切迫早産と看護 4) 妊娠悪阻と看護	講義	テキストの「妊娠の異常と看護」を学習し講義に臨む。
2	1. 妊娠期の異常と看護② 1) 妊娠貧血と看護 2) 多胎妊娠と看護 3) 妊娠高血圧症候群（P I H）と看護 4) 妊娠糖尿病（G D M）と看護	講義	
3	1. 妊娠期の異常と看護③ 1) 合併症を有する妊娠と看護 2) 妊娠期の感染症と看護 （風疹、G B S 陽性、TORCH 症候群など） 3) 若年・高年妊娠と看護	講義	
4	1. 流産・死産後の看護 1) ペリネイタル・ロスを体験した母親と家族のケアニーズ	演習	演習：事例「妊娠 35 週で死産となった褥婦の看護」グループディスカッション
5	1. 分娩期の異常と看護① 1) 前期破水 2) 陣痛異常（過強陣痛、微弱陣痛） 3) 分娩停止（遷延分娩） 4) 児頭骨盤不均衡	講義	テキストの「分娩の異常と看護」を学習し講義に臨む。
6	1. 分娩期の異常と看護② 1) 胎児機能不全 2) 帝王切開術	講義 演習	演習：正常のモニタリングと異常時のモニタリングの変化を学び、胎児機能不全の判断の実際を学ぶ。
7	1. 分娩期の異常と看護③ 1) 分娩時異常出血（子宮破裂、頸部裂傷、会陰裂傷、弛緩出血）と看護 2) 前置胎盤と看護 3) 常位胎盤早期剥離と看護	講義 演習	演習：テーマ「帝王切開術が母体・胎児に与える影響」グループディスカッション 演習：事例「緊急帝王切開となった褥婦の術後の看護」グループディスカッション

授業回数	授業内容	授業方法	留意点
8	1. 分娩期の異常と看護④ 1) 産科D I Cと看護 2) 胎位の異常 3) 回旋異常 4) 臍帯の異常	講義	
9	1. 産褥期の異常と看護 1) 子宮復古不全と看護 2) 産褥期の感染症 (産褥熱、尿路感染、乳腺炎) 3) 血栓塞栓症と看護 4) 産後うつ病、産後精神障害と看護	講義	
10	1. 出生直後にみられやすい新生児の疾患と看護① 1) 新生児仮死 2) 新生児一過性多呼吸 (T T N)	講義	演習：新生児の蘇生物品と蘇生時の環境を実習室で見学する。(蘇生物品・保育器) D V D「目で見ると新生児看護—保育器の機能と看護」を視聴する。
11	1. 出生直後にみられやすい新生児の疾患と看護② 1) 胎便吸引症候群 (M A S) 2) 分娩外傷 (頭血腫、鎖骨骨折、神経麻痺、頭蓋内出血) 3) 外表奇形、胎児発育不全 4) 新生児のスクリーニング検査	講義	
12	1. 早産児・低出生体重児にみられやすい疾患と看護 1) 早産児・低出生体重児とは 2) N I C Uの看護 3) 呼吸窮迫症候群 (R D S) 4) 無呼吸発作 5) 脳室内出血、脳室周囲白質軟化症	講義	
13	1. 新生児の異常と看護 1) 高ビリルビン血症 2) 新生児ビタミンK 欠乏症、真性メレナ 3) 母体疾患による影響 (糖尿病、甲状腺疾患)	講義	
14	1. 先天異常 (代謝異常症、染色体異常症、羊水量の異常) の新生児と看護	講義 演習	演習：事例「先天異常をもつ児の母親のケアニーズ」グループディスカッション
15	終講試験	客観テスト解説	

成績評価の方法	客観テストによる評価
---------	------------

使用テキスト	系統看護学講座 専門分野Ⅱ 母性看護学各論 母性看護学② 医学書院
--------	-----------------------------------

授業要項詳細

科目名	母性看護学方法論Ⅲ	科目区分	専門分野Ⅱ
担当教員	米本 千里子	授業方法	講義・演習
期間	2 年次 後期	曜日/時限	
単位/時間	1 単位/15 時間	回数	8 回

科目の概要	母性看護に関連する既習の知識を統合し、妊婦・産婦・褥婦および新生児に必要な看護実践をするための看護過程のあり方を学ぶ。		
科目の到達目標	1. 妊娠・分娩・産褥期および新生児の特徴をふまえ、アセスメントの視点を理解する。 2. 事例を通して、看護問題を明確にする方法と看護計画を理解する。		
授業回数	授業内容	授業方法	留意点
1	1. 母性看護における看護過程の特徴 1) 母性看護に特徴的なアセスメントの視点 2. ウェルネス看護診断とはなにか 3. 母性看護における看護過程展開に必要なこと	講義 GW	・看護過程の概念を基に、母性看護における看護過程の特徴とウェルネス看護診断について学習する。 ・母性看護学概論、母性看護学方法論Ⅰ・Ⅱ、基礎看護学方法論Ⅷの既習内容を復習して講義に臨む
2	1. 事例紹介 正常な経過をたどる母児 (30 歳代初産 産褥 1 日目・生後 1 日目の新生児) 1. 情報の整理とアセスメント ①	講義・演習	グループで演習を行う。 情報の整理とアセスメントは母児ともにを行う 関連図を用いて、看護診断の根拠と関連性をつかみ、優先順位の決定を行う。
3	1. 情報の整理とアセスメント ②	演習	
4	1. 情報の整理とアセスメント ③	演習	
5	1. 看護診断の明確化 2. 優先順位の決定	演習	
6	1. アセスメントと看護診断の発表	演習：講義	
7	1. 看護計画（実例） 2. 実施記録と評価（実例）	講義	
8	終講試験	客観テスト・解説	

成績評価の方法	客観テストによる評価
---------	------------

使用テキスト	系統看護学講座 専門分野Ⅱ 母性看護学各論 母性看護学② 医学書院 NANDA-1 看護診断 定義と分類 2015-2017 医学書院
参考文献	

専門分野 II

精神看護学

授業要項詳細

科目名	精神看護学概論	科目区分	専門分野Ⅱ
担当教員	六反 邦裕	授業方法	講義・演習
期間	2年次 前期	曜日/時限	
単位/時間	1単位/30時間	回数	15回

科目の概要	心の働きと発達、心の健康問題を理解し、心の健康保持・増進と心を病む人を理解するための基礎知識と共に保健・医療・福祉の視点から社会での生きづらさを感じながら生活している心を病む人に対する看護の基盤を築く。また、対象との関係を築いていくことは、精神看護の基本であり、理論と共に自己を振り返り、自己洞察も必要であるためその基礎を学ぶ。
科目の到達目標	1.精神看護の対象・目的・役割を理解する。 2.心の健康の概念、心の健康に影響を及ぼす因子を理解する。 3.ストレスが心に与える影響を理解する。 4.リエゾン精神看護の活動を理解する。 5.精神保健の歴史と精神保健福祉法を理解する。

授業回数	授業内容	授業方法	留意点
1	「心のケア」と現代社会 精神看護学とその課題	講義	テキストを読んで授業に臨むこと
2	精神（こころ）の健康とは 精神の健康とは／精神障害の体験／精神障害のとらえ方	講義	テキストを読んで授業に臨むこと
3	社会の変化とメンタルヘルス	講義	テキストを読んで授業に臨むこと
4	人間の心のはたらき① 心のしくみと人格の発達	講義	テキストを読んで授業に臨むこと
5	人間の心のはたらき② 心の成長発達と危機・防衛機制 （フロイト、エリクソン）	講義	テキストを読んで授業に臨むこと
6	ライフサイクルにおける危機と健康問題	講義	
7	ストレスと対処行動、危機介入 ストレス理論（ラザルス）	講義	テキストを読んで授業に臨むこと
8	精神看護の基本概念	講義	テキストを読んで授業に臨むこと
9	精神看護の理論 オレム：セルフケア理論 ペプロウ：患者-看護師関係の発展段階	講義	テキストを参考にする
10	社会の中の精神障害① 精神障害とは・精神保健の動向	講義	テキストを読んで授業に臨むこと
11	社会の中の精神障害② 精神医療看護の歴史および法と制度 精神保健福祉法、障害者総合支援法 入院形態	講義	↓

授業回数	授業内容	授業方法	留意点
12	社会の中の精神障害③ 倫理と人権、ノーマライゼーション	講義 演習	事例に基づき、人権擁護について考えていく グループワークにて、「宇都宮事件」（1983年）の事例について考えていく
13	関係の中の個人 1. グループと看護、チームワーク、 集団力動（グループダイナミクス） 2. 家族と精神看護	講義	テキストを読んで授業に臨むこと
14	精神看護の機能と役割 看護の職場と精神保健 リエゾン精神看護／バーンアウト／感情労働	講義	テキストを読んで授業に臨むこと
15	終講試験	客観テスト 解説	

成績評価の方法	客観テストによる評価
---------	------------

使用テキスト	系統看護学講座 専門分野Ⅱ 精神看護の基礎 精神看護学① 医学書院
参考文献	国民衛生の動向 厚生労働統計協会

授業要項詳細

科目名	精神看護学方法論Ⅰ	科目区分	専門分野Ⅱ
担当教員	遠藤 基貴	授業方法	講義・演習
期間	2年次 後期	曜日/時限	
単位/時間	1単位/30時間	回数	15回

科目の概要	精神を病む人が体験している世界を知ることができ、主な疾患・症状・検査に援助の基礎的知識と考え方を理解し、回復過程に応じた看護や援助方法を学ぶ。また、基本的なコミュニケーション技術をもとに治療的に対象へ関わる方法について学ぶ。また、看護場面の再構成を通し、他者を理解するために自己の傾向を知り自己開示していくことの重要性を理解し、看護場面において活用する必要性を学ぶ。
科目の到達目標	1.主たる精神疾患の特徴と治療・検査を理解する。 2.患者-看護師における対人関係を保つ意義を理解する。 3.看護場面における自己の対人関係の傾向を知る方法を理解する。

授業回数	授業内容	授業方法	留意点
1	精神を病むことと生きること① 精神症状論と状態像 1.症状とは何か 2.さまざまな精神症状① 思考の障害/感情の障害	講義	テキスト①p136～を読んで授業に臨むこと
2	精神を病むことと生きること② 1. さまざまな精神症状② 意欲の障害/知覚の障害/意識の障害/記憶の障害 /局在症状	講義	テキスト①p136～を読んで授業に臨むこと
3	主たる精神疾患の病態① 1.統合失調症①	講義	テキスト①p157～を読んで授業に臨むこと
4	主たる精神疾患の病態② 1.統合失調症②	講義	テキスト①p157～を読んで授業に臨むこと
5	主たる精神疾患の病態③ 1.気分障害 2.不安障害 3.強迫性障害	講義	テキスト①p178～を読んで授業に臨むこと
6	主たる精神疾患の病態④ 1.解離性障害 2.摂食障害 3.睡眠障害 4.性機能不全、性同一性障害	講義	テキスト①p191～を読んで授業に臨むこと
7	主たる精神疾患の病態⑤ 1.パーソナリティ障害 2.認知症 3.てんかん	講義	テキスト①p195～を読んで授業に臨むこと テキスト①p198～を読んで授業に臨むこと

授業回数	授業内容	授業方法	留意点
8	治療・検査・精神疾患・症状を持つ対象への看護① 1.入院治療と看護の展開① 入院の意味、治療的環境をつくる	講義	テキスト②p.62～を読んで授業に臨むこと
9	治療・検査・精神疾患・症状を持つ対象への看護② 1.入院治療と看護の展開② 安全を守る、緊急事態に対処する	講義	テキスト②p.110～を読んで授業に臨むこと
10	対人関係技術① 1. 患者-看護師関係の発展過程 2. 患者-看護師関係の発展過程で生じる現象 3. 自己理解・他者理解、自己開示	講義	テキスト②p.27～を読んで授業に臨むこと
11	対人関係技術① 1. 患者-看護師関係を構築する技術 2. プロセスレコードの記載方法と考察方法	講義	テキスト②p.27～を読んで授業に臨むこと
12	対人関係技術③ 1. 看護におけるコミュニケーションの意義 2. 精神看護におけるコミュニケーション技術の方法 3. 精神症状を持つ患者とのコミュニケーション技法	講義	テキスト②p.27～を読んで授業に臨むこと
13	事例を用いての再構成の展開①	演習	グループワークにて、提示した再構成の事例における「考察」の部分を検討する
14	事例を用いての再構成の展開② まとめ	演習	↓
15	終講試験	客観テスト 解説	

成績評価の方法	客観テストによる評価
---------	------------

使用テキスト	系統看護学講座 専門分野Ⅱ 精神看護の展開 精神看護学② 医学書院
参考文献	国民衛生の動向 厚生労働統計協会

授業要項詳細

科目名	精神看護学方法論Ⅱ	科目区分	専門分野Ⅱ
担当教員	上妻 光浩	授業方法	講義
期間	2 年次 後期	曜日/時限	
単位/時間	1 単位/30 時間	回数	15 回

科目の概要	精神を病む人が体験している世界を知り、主な検査・治療、自立へ向けての基礎的知識と考え方を学ぶ。また、精神科領域で生じやすい身体的症状や地域における支援と地域リハビリテーションについて学ぶ
科目の到達目標	1.主な精神疾患の病態と治療を理解する。 2.精神科領域で生じやすい身体的症状を理解する。 3.地域における支援と地域リハビリテーションについて理解する。

授業回数	授業内容	授業方法	留意点
1	主たる精神疾患の病態と治療① 薬物療法①	講義	テキストを読んで授業に臨むこと
2	主たる精神疾患の病態と治療② 薬物療法②	講義	テキストを読んで授業に臨むこと
3	主たる精神疾患の病態と治療③ 薬物療法③	講義	テキストを読んで授業に臨むこと
4	主たる精神疾患の病態と治療④ 集団精神療法/家族療法	講義	テキストを読んで授業に臨むこと
5	主たる精神疾患の病態と治療⑤ 作業療法/レクリエーション療法	講義	テキストを読んで授業に臨むこと
6	主たる精神疾患の病態と治療⑥ 電気けいれん療法（ECT）/個人療法	講義	テキストを読んで授業に臨むこと
7	身体をケアする① 1.精神科における身体ケア 2.身体にあらわれる心の痛み	講義	テキストを読んで授業に臨むこと
8	身体をケアする② 1.精神科の治療と身体ケア① 抗精神病薬の有害反応	講義	テキスト読んで授業に臨むこと
9	身体をケアする③ 1.精神科の治療と身体ケア② 電気けいれん療法の看護	講義	テキストを読んで授業に臨むこと
10	身体をケアする④ 1.精神科の治療と身体ケア③ 身体合併症／精神科における身体ケアの実際 睡眠の援助／心的外傷をもつ患者への身体から始まるケア	講義	テキストを読んで授業に臨むこと
11	地域における精神看護① 1.地域で生活するための原則	講義	テキストを読んで授業に臨むこと

授業回数	授業内容	授業方法	留意点
12	地域における精神看護② 1.生活を支える制度 生活と社会制度／精神障害者の地域生活を 支えるために	講義	テキストを読んで授業に臨むこと
13	地域における精神看護③ 地域での看護の実践① 青年期の患者の地域生活を支える／若い患者 の退院を支える／複合的な問題を抱えた長期入 院患者の退院を支援する／グループホーム	講義	テキストを読んで授業に臨むこと
14	地域における精神看護④ 地域での看護の実践② 再発の危機を乗り越える／就労を支援する／家 族を支援する／リハビリテーション／訪問看護	講義	テキストを読んで授業に臨むこと
15	終講試験	客観テスト 解説	

成績評価の方法	客観テストによる評価
---------	------------

使用テキスト	系統看護学講座 専門分野Ⅱ 精神看護の展開 精神看護② 医学書院
参考文献	国民衛生の動向 厚生労働統計協会

授業要項詳細

科目名	精神看護学方法論Ⅲ	科目区分	専門分野Ⅱ
担当教員	六反 邦裕	授業方法	講義・演習
期間	2 年次 後期	曜日/時限	
単位/時間	1 単位/15 時間	回数	8 回

科目の概要	統合失調症の模擬患者の事例を用いて、ゴードンの機能的健康パターンに基づいた看護過程の展開を通して、精神障害を持つ対象およびその家族への理解を深める手立てとする。
科目の到達目標	1.オレムのセルフケア理論の看護論を活用し、精神を病む対象の看護問題のとらえ方や看護計画の視点を理解する 2.自己決定を促す看護を理解する 3.生活援助の必要な精神疾患事例を通し精神看護を考察する

授業回数	授業内容	授業方法	留意点
1	精神の看護過程オリエンテーション 精神の看護過程の考え方 事例の提示（統合失調症の患者の看護）	講義 ・ 演習	グループワークにて、提示された事例から、各自看護をする上で必要な情報を収集する 次の講義までに分析（アセスメント）
2	事例展開 情報の整理及び分析		一度教室に集合してからグループごとに別れて進めていく
3	事例展開 情報の整理及び分析		
4	事例展開 分析		
5	事例展開 分析～問題点の抽出～関連図		
6	事例展開 問題点の抽出～目標設定～看護計画立案		
7	事例展開 実施、評価、修正の視点	▼	▼
8	終講試験	客観テスト 解説	

成績評価の方法	客観テストによる評価
---------	------------

使用テキスト	系統看護学講座 専門分野Ⅱ 精神看護の展開 精神看護② 医学書院 ゴードンの機能的健康パターンに基づく看護過程と看護診断 ニーベルヒロカワ
参考文献	

統合分野

在宅看護論

授業要項詳細

科目名	在宅看護概論	科目区分	統合分野
担当教員	半田 朋香	授業方法	講義・演習
期間	2 年次 前期	曜日/時限	
単位/時間	1 単位/30 時間	回数	15 回

科目の概要	在宅看護が必要とされている社会情勢と、在宅で生活する対象と家族の特徴を捉え、在宅における看護の役割について学ぶ。在宅看護の概念や歴史・法制度の学びを通し在宅看護への期待や今後の課題についても明らかにする。国の推奨する地域包括ケアシステムや社会資源を学び、関係職種との連携・協働の必要性和地域全体を視野においた視点での看護のあり方について学ぶ。
科目の到達目標	1. 地域・在宅看護の概念と基本的理念及び看護活動を理解する。 2. 在宅看護の歴史的変遷と在宅看護の現状から期待される看護、在宅看護の課題を理解する。 3. 在宅療養者とその家族の生活を知り、在宅看護の特徴を理解する。 4. 在宅を支える制度と地域包括ケアシステムや社会資源、関係職種との連携・協働の必要性和看護の役割を理解する。

授業回数	授業内容	授業方法	留意点
1	1.在宅看護の歴史的変遷と現状 1)在宅看護の変遷 2)訪問看護の推移 3)在宅が注目される現在の社会背景	講義	国民衛生の動向を準備して、授業に臨む。
2	1.在宅看護と在宅ケア 1)在宅看護とは 2)在宅ケアチームの意義 3)在宅看護の特徴 4)継続看護	講義	テキストを事前に学習して、授業に臨む。
3	1.在宅看護の対象者の理解① 1)在宅療養者の特徴 2)生活の場と生活様式	講義	前回の授業で配布した資料を持参し、授業に臨む。
4	1.在宅看護の対象者の理解② 1)家族の変遷 2)家族の背景 3)在宅療養者を介護する家族	講義	前回の授業で配布した資料を持参し、授業に臨む。国民衛生の動向を準備して、授業に臨む。
5	1.在宅療養者と家族への支援 1)意思決定支援 2)相談と支持的援助 3)家族関係の調整 4)地域のサポート 5)レスパイトケア 6)人権尊重 7)権利保障	講義	前回の授業で配布した資料を持参し、授業に臨む。
6	1.在宅看護の提供の場と看護① 1)退院支援 2)退院調整 3)関連職種との連携	講義	事例を提示する。
7	1.在宅看護の提供の場と看護② 1)退院支援 2)退院調整 3)関連職種との連携	演習 講義	1 G 6 名程度でグループワークを行う。
8	1.在宅看護の提供の場と看護③ 1)訪問看護の目的 2)訪問看護の変遷	講義	前回の授業で配布した資料を持参し、授業に臨む。

授業回数	授業内容	授業方法	留意点
	3)訪問看護の提供方法と種類 4)訪問看護師の役割		
9	1.在宅チームケアの理解とケアマネジメント 1)ケアマネジメントの展開 2)介護保険制度におけるケアマネジメント 3)ケアマネジャーの業務 4)介護サービス計画の理解	講義	テキストを事前に学習して、授業に臨む。
10	1.地域包括ケアシステムと在宅ケア 1)地域包括ケアシステムとは 2)地域包括ケアシステムと看護職の役割 3)保健医療福祉の連携 4)地域包括支援センター	講義	テキストを事前に学習して、授業に臨む。
11	1.在宅を支える制度と社会資源① 1)介護保険制度と医療保険制度 「障害を伴う在宅療養者の事例を通して」	講義 演習	1 G 6 名程度で、グループワークを行う。
12	1.在宅を支える制度と社会資源② 1)介護保険制度と医療保険制度 「難病の在宅療養者の事例を通して」	演習 講義	1 G 6 名程度で、グループワークを行う。前回のグループワークを参考とする。 次回の授業資料を配布する。
13	1.地域看護と在宅看護 1)地域看護と在宅看護との関連と活動を促す理念	講義	配布した資料を事前に学習して、授業に臨む。
14	1.地域看護活動の内容 1)産業保健 2)学校保健 3)公衆衛生看護	講義	前回の授業で配布した資料を持参し、授業に臨む。 健康診断と看護についても解る内容とする。
15	終講試験	客観テスト 解説	

成績評価の方法	客観テストによる評価
---------	------------

使用テキスト	系統看護学講座 統合分野 在宅看護論 医学書院
参考文献	国民衛生の動向 厚生統計協会

授業要項詳細

科目名	在宅看護方法論 I	科目区分	統合分野
担当教員	宝田 忠子	授業方法	講義・演習
期間	2 年次 前期・後期	曜日/時限	
単位/時間	1 単位/30 時間	回数	15 回

科目の概要	地域で生活する療養者とその家族の生活を整えるために、在宅で行われる看護技術の実際と、自宅にある用具を活用して介護用品、自助具を工夫できることを学ぶ。また、在宅での診療の補助技術の方法やその根拠を学ぶ。
科目の到達目標	1.在宅看護を実践するために必要な知識、技術、態度を習得する。 2.在宅で使用している物品を使用し、介護用品や自助具の工夫をし、援助の実際を学ぶ。

授業回数	授業内容	授業方法	留意点
1	1.在宅におけるフィジカルアセスメント 1)観察とフィジカルアセスメント 2)症状・徴候アセスメント	講義	フィジカルアセスメント既習内容を確認して授業に臨む。
2	1.在宅における生活支援の方法と技術① 1)療養者の環境アセスメントと調整 2)住宅改修 3)移動活動のアセスメントと自立に向けた援助 4)在宅リハビリテーション・在宅での転倒予防	講義 演習	運動ができる服装で授業に臨む。 在宅看護実習室には靴下着用で入室する。
3	1.在宅における生活支援の方法と技術② 1)在宅における清潔の援助 (1)介護用品の工夫と入浴介助 (2)洗髪の援助 (3)口腔ケア	講義 演習	基礎看護学方法論Ⅳの清拭・洗髪を復習して臨む。 DVD 学習を行なう。
4	1.在宅における生活支援の方法と技術③ 1)在宅における清潔援助 (1)入浴介助(2)洗髪の援助(3)口腔ケア	演習	3 回目の授業内容を復習して臨む。 前回の授業資料を持参する。
5	1.在宅における生活支援の方法と技術④ 1)在宅における排泄の援助 2)排泄の自立に向けた援助 3)介護保険で利用可能な排泄関連用具	講義	基礎看護学方法論Ⅴの排泄の既習内容を確認して、授業に臨む。
6	1.在宅における生活支援の方法と技術⑤ 1)栄養と食のアセスメントと援助	講義	基礎看護学方法論Ⅴの食事・栄養に関する援助の既習内容を復習して、授業に臨む。
7	1.在宅における生活支援の方法と技術⑥ 1)口から食べることの支援	演習 講義	1 G 6 名程度で、グループワークを行う。

授業回数	授業内容	授業方法	留意点
8	1.在宅における生活支援の方法と技術⑦ 1)在宅服薬管理における関係職種との連携 2)訪問薬剤師の役割 3)服薬管理と飲み忘れに対する工夫	講義	
9	1.介護用品・自助具の活用 1)介護保険で貸与・購入できるもの 2)自宅にあるものを利用した介護用品 3)自助具の活用。。	講義 演習	1 G 6 名程度で、グループワークを行う。
10	1.在宅における医療処置と看護① 1)在宅中心静脈栄養法の管理 2)在宅経管栄養法の管理 (1) 経鼻胃チューブの挿入・確認	講義 演習	基礎看護学方法論 V の経管栄養の既習内容を復習して、授業に臨む。DVD 学習を行う。モデル人形を使用し、演習を行う。
11	1.在宅における医療処置と看護② 1)膀胱留置カテーテル装着中の管理 2)自己導尿の管理 3)ウロストミーの管理	講義	
12	1.在宅における医療処置と看護③ 1)在宅人工呼吸療法(侵襲的陽圧換気療法) 2)在宅酸素療法 3)非侵襲的陽圧換気療法	講義 演習	DVD 学習を行う 在宅酸素濃縮器を用いて、演習を行う。
13	1.在宅における医療処置と看護④ 1)褥瘡の評価 2)褥瘡発生危険度の評価 3)褥瘡のある療養者の処置と看護	講義	
14	1.在宅における感染予防 1)HIV・結核・MRSA・疥癬 2 在宅での消毒法	講義 演習	
15	終講試験	客観テスト 解説	

成績評価の方法	1.客観テストによる評価
---------	--------------

使用テキスト	系統看護学講座 統合分野 在宅看護論 医学書院
参考文献	

授業要項詳細

科目名	在宅看護方法論Ⅱ	科目区分	統合分野
担当教員	瀬下 律子	授業方法	講義・演習
期間	2 年次 後期	曜日/時限	
単位/時間	1 単位/30 時間	回数	15 回

科目の概要	在宅での主たる看護活動は訪問看護である。訪問看護の法的枠組みや成立するための条件を学ぶとともに、訪問看護と施設内看護との違いの実際を学ぶ。また、本科目では、在宅で療養する様々な療養者とその家族についての看護を学ぶ。
科目の到達目標	1.在宅看護の主たる看護活動である、訪問看護の制度や法的枠組み、訪問看護成立の条件を学び、訪問看護の実際を理解する。 2.在宅で療養する状態別・状況別対象者の看護を理解する。

授業回数	授業内容	授業方法	留意点
1	1.在宅を支える訪問看護活動 1)訪問看護の制度・法的枠組み 2)訪問看護を提供する場 3)訪問看護成立条件 4)訪問看護ステーションの成り立ち 5)訪問看護ステーションの管理	講義	
2	1.訪問看護の対象の理解 1)療養者・家族の生活者としての理解とアセスメント 2)療養を支えるためのアセスメント 3)社会資源の活用 4)訪問看護の記録	講義	
3	1.訪問看護の実際① 1)訪問マナー 2)コミュニケーション技術 3)相談 4)指導技術	演習	在宅看護実習室に入室時は靴下を着用する。
4	1.訪問看護の実際② 1)訪問マナー 2)コミュニケーション技術 3)相談 4)指導技術	演習	
5	1.看護の判断と責任 1)緊急時の看護 2)予測と安全管理 3)リスクマネジメント	講義	
6	1.状態別・状況別対象者の看護① 1)小児の療養者の在宅看護 (1)自立支援 (2)QOL の維持・向上 (3)家族支援	講義	
7	1.状態別・状況別対象者の看護② 1)脳血管疾患に罹患した要介護高齢者の在宅看護 「脳卒中の患者の事例を通して」	講義 演習	老年看護学方法論Ⅰの既習内容を復習して、授業に臨む。 事例提示

授業回数	授業内容	授業方法	留意点
8	1.状態別・状況別対象者の看護③ 1)脳血管疾患に罹患した要介護高齢者の在宅看護 「脳卒中の患者の事例を通して」	演習 講義	1 G 6 名程度でグループワークを行う。
9	1.状態別・状況別対象者の看護④ 1)認知症高齢者の在宅看護 「アルツハイマー病の療養者の事例を通して」	講義 演習	老年看護学方法論Ⅱの既習内容を復習して、授業に臨む。 事例提示 1 G 6 名程度でグループワークを行う。
10	1.状態別・状況別対象者の看護⑤ 1)認知症高齢者の在宅看護 「アルツハイマー病の療養者の事例を通して」	演習 講義	1 G 6 名程度でグループワークを行う。
11	1.状態別・状況別対象者の看護⑥ 1)精神疾患を抱えた療養者の在宅看護 (1)セルフケアの援助 (2)在宅で生活する安全への配慮	講義	
12	1.状態別・状況別対象者の看護⑦ 1)難病の療養者の在宅看護 (1)難病対策・神経難病の特徴 (2)医療機器の管理 (3)意思決定への支援	講義	
13	1.状態別・状況別対象者の看護⑧ 1)終末期の療養者の在宅看護 「終末期の在宅療養者の事例を通して」 (1)在宅療養者に対する看護 ①症状緩和 ア.トータルペイン イ.疼痛コントロール ②日常生活を整えるための援助	講義 演習	1 G 6 名程度でグループワークを行う
14	1.状態別・状況別対象者の看護⑨ 1)終末期の療養者の在宅看護 「終末期の在宅療養者の事例を通して」 (1)家族に対する看護 ①予期悲嘆の援助 ②在宅での看取り ア.家族への支援 イ.死後の処置 ③グリーフケア	演習 講義	1 G 6 名程度でグループワークを行う。
15	終講試験	客観テスト 解説	

成績評価の方法	客観テストによる評価
---------	------------

使用テキスト	系統看護学講座 統合分野 在宅看護論 医学書院
--------	-------------------------

授業要項詳細

科目名	在宅看護方法論Ⅲ	科目区分	統合分野
担当教員	半田 朋香	授業方法	講義・演習
期間	2 年次 後期	曜日/時限	
単位/時間	1 単位/15 時間	回数	8 回

科目の概要	在宅看護は、地域でその人なりの生活をするという価値観を大切に、その人が自立でき自己決定ができるように支援し、暮らしの場における QOL の維持向上をめざすことにある。ここでは、在宅療養者とその家族から在宅看護の特徴がわかるように事例を用いてその人の生き方、自己決定、家族支援、社会資源の活用、地域包括ケアシステムの内容を含んだ在宅看護のあり方を学ぶ。
科目の到達目標	1.事例を通して、在宅療養者とその家族の健康上・生活上のニーズを知り、アセスメントの必要性を理解する。 2.事例を通して、在宅療養者とその家族の療養生活に必要な看護を理解する。

授業回数	授業内容	授業方法	留意点
1	1.事例提示 (ALS にて在宅療養中の療養者) 1)事例展開① (1)情報収集 ①在宅における情報収集の視点	講義 演習	提示された事例から、各自で看護をする上で必要な情報を収集する。 在宅看護概論、在宅看護方法論Ⅰ・Ⅱの既習内容を復習して、講義に臨む。 基礎看護学方法論Ⅷでの既習内容を復習し、配布資料を持参して、講義に臨む。 グループワークは1G6名程度で行う
2	1.事例展開② 1)アセスメント	演習	
3	1.事例展開③ 1)アセスメント	演習	
4	1.事例展開④ 1)看護① (1)在宅療養の継続(2)QOL(3)家族支援	講義	
5	1.事例展開⑤ 1)看護② (1)在宅看護の技術(2)ケア方法と工夫	演習 講義	
6	1.事例展開⑥ 1)計画・立案・実施 (1)訪問看護ステーションにおける計画立案・実施	講義 演習	
7	1.事例展開⑦ 1)実施・評価 (1)訪問看護ステーションにおける看護の実施・評価	演習 講義	
8	終講試験	客観テスト 解説	

成績評価の方法	客観テストによる評価
---------	------------

使用テキスト 参考文献	系統看護学講座 統合分野 在宅看護論 医学書院 ゴードンの機能的健康パターンに基づく看護過程と看護診断
----------------	--

統合分野

看護の統合と実践

授業要項詳細

科目名	看護管理と医療安全	科目区分	統合分野
担当教員	橋野 恭子, 野上 美華子	授業方法	講義・演習
期間	3 年次 前期	曜日/時限	
単位/時間	1 単位/30 時間	回数	15 回

科目の概要	看護管理は、医療の位置づけとなる看護部のマネジメントを機能させることはや、医療の受け手の認識の変化に伴う必要不可欠な看護サービスである。これからの看護サービスを提供するための看護師の適正配置としての看護サービスが看護の質の保証を決定する。看護師の実践する看護が質の高いものとなるような看護管理・マネジメントのあり方を理解する必要がある。したがって、看護の質の保証および質を高めるための看護管理・マネジメントのあり方として、看護管理過程、看護の質保証と看護管理、専門職の機能と役割、看護に関する法律と制度等を学ぶ。医療安全では、医療事故に対しての社会的関心の高まりや、医療事故の増加の背景を知り、専門職として、医療の質的保障を成すべきかを理解する。したがって、ヒューマンエラーと医療・看護事故について理解する。事故防止に向けて専門職としての個人の準備、組織として安全管理に取り組む必要性を学ぶ。
科目の到達目標	1.看護管理の概念を理解する。 2.組織とマネジメントについて理解する。 3.チームにおける看護と他職種の協働・連携を理解する。 4.対象者のプライバシーや個人情報を保護するための情報管理を理解する。 5.病院組織内のしくみを知る。 6.医療・看護における安全の基盤となる考えを知る。 7.医療・看護の事故予防に関する看護職の役割と法的責任を知る。 8.事例を通して医療安全のあり方を学ぶ。

授業回数	授業内容	授業方法	留意点
1	1.看護とマネジメント 1)看護管理の基礎 (1)看護管理とは (2)マネジメントとは (3)看護管理の目的 (4)看護管理者の役割と責務 (5)看護マネジメントが行われる場 2)看護管理の歴史 (1)看護マネジメントの変遷および考え方 3)看護のマネジメントが行われる場	講義	授業開始前には、テキストの関連ページを学習して授業に臨むこと。 授業後は、配布資料の内容について復習する。
2	1. 看護管理過程 ① 組織とマネジメント 2)組織とその構造 (1)組織の定義 (2)組織づくりに必要な二つの視点 (3)組織構造・組織過程・組織文化 (4)責任と権限 2)マネジャーの仕事とその役割	講義	授業開始前には、テキストの関連ページを学習して授業に臨むこと。 授業後は、配布資料の内容について復習する。

授業回数	授業内容	授業方法	留意点
	(1)マネジメントの階層と主たる役割 (2)看護管理の対象とその範囲 3)チームマネジメント (1)看護チーム (2)セルフ・マネジングチーム (3)成功事例を通して現場力を高める		
3	1.看護管理過程 ② 患者の権利擁護と看護倫理 1)患者の権利擁護 (1)患者の権利に対する認識 (2)患者の権利擁護 2)看護者の倫理的行動 (1)医療の倫理原則とケアリングの倫理 (2)倫理綱領を使う (3)看護者の倫理課題 (4)倫理課題への対処	講義	「看護学概論」の授業科目にて、配布された資料およびテキストを使用し、看護者による患者の権利擁護、医療の倫理原則、看護者の倫理綱領に関して、復習して臨むこと。 授業後は、配布資料の内容について復習する。
4	1.看護管理過程 ③ 看護師の仕事とその管理 1)看護師の仕事 (1)療養上の世話 (2)診療の補助 (3)他職種との連携 2)看護業務の管理 (1)看護業務基準 (2)看護手順 (3)看護業務の安全管理 3)物品の流通・安全管理 (1)医療機器 (2)薬剤の流れ	講義	「看護関係法令」および「看護学概論」の授業科目にて、配布された資料およびテキストを使用し、看護に関する法律・制度として、「保健師助産師看護師法」の復習し、講義に臨むこと。 授業後は、配布資料の内容について復習する。
5	1.看護管理過程 ④ 看護師の仕事とその管理 1)情報を管理する (1)患者と医療者の情報交換 (2)医療者同士の情報交換 (3)共有して理解する守秘義務、情報開示 (4)病院間の連携、ほかの施設との連携 (5)情報の交換をスムーズに行うための工夫 (6)医療情報の種類 2)組織の目標を達成するために (1)組織の目標 (2)看護部での仕事の役割と責任 3)人の動きをサポートする (1)勤務体制	講義	授業開始前には、テキストの関連ページを学習して授業に臨むこと。 授業後は、配布資料の内容について復習する。
6	1.組織構造と機能	講義	「主となる実習病院の理念を達成す

授業回数	授業内容	授業方法	留意点
	1)病院組織の構造 2)病院組織における主な部門 2. 看護部門の組織 1)病院組織における看護部門の位置付けの変遷 2)新しい看護部組織 3)看護職が組織で働くことの意義	・ 演習	る組織のあり方」をテーマとしてグループワークする。 1 グループ 5 人とし、8 グループ 編成とする。 グループワークの成果を発表し、学びを深める。
7	1.看護部門のマネジメント(組織行動) 1)看護部のマネジメントの基礎となる考え方やスキル (1)モチベーション、組織文化、コンフリクトマネジメント(交渉)、タイムマネジメント、リーダーシップ等	講義	授業開始前には、テキストの関連ページを学習して授業に臨むこと。 授業後は、配布資料の内容について復習する。
8	1.医療事故予防および安全の基盤となる考え方 1)医療安全の背景と経緯	講義	授業開始前には、テキストの関連ページを学習して授業に臨むこと。 授業後は、配布資料の内容について復習する。
9	1.KYT(危険予知トレーニング)から考える医療安全① —転倒・転落— 1)状況把握 2)本質追求 3)改善策	演習	配布されたワークシートを基にグループワークを進める。次回、グループワークの発表となる。発表は作成した資料を読み上げるだけでなく、話し合った内容も発表する。
10	1.KYT(危険予知トレーニング)から考える医療安全② —転倒・転落— 1)グループワークの発表 2)転倒転落の背景と要因	講義 ・ 演習	グループワークの成果を発表し、学びを深める。 授業後は、配布資料やグループワークの内容について復習する。
11	1.看護業務と事故発生要因 2.事例から学ぶ医療安全 1)医療事故の種類：その分析と対策 (1)療養上の世話の事故防止：「誤嚥」 (2)診療の補助の事故防止：「誤薬」「チューブトラブル」	講義 ・ 演習	事例をテーマにグループワークする。 1 グループ 5 人とし、8 グループ 編成とする。グループワークの成果を発表し、学びを深める。
12	1.リスクマネジメント 2.安全管理体制の在り方 1)安全管理のしくみ 2)医療事故対策	講義	授業開始前には、テキストの関連ページを学習して授業に臨むこと。 授業後は、配布資料の内容について復習する。
13	1.医療事故を防ぐ 1)インシデント・アクシデントレポートとは 2)事故の分析方法と活用 (1)P－mSHELL モデル (2)4 M-4E (3)RCA(根本原因分析)	講義	授業開始前には、テキストの関連ページを学習して授業に臨むこと。 授業後は、配布資料の内容について復習する。
14	1.医療訴訟の現状 1)医療訴訟 2)事故と過失(過誤)のとりえ方	講義	授業開始前には、テキストの関連ページを学習して授業に臨むこと。 授業後は、配布資料の内容について

授業回数	授業内容	授業方法	留意点
	3) 3つの法的責任 2. 看護医療事故を予防するためのチーム医療の連携と協働 医療事故と事故後の対応 1) 被害を受けた患者・家族の心理 2) 医療事故を起こした医療者(当事者)の思い 3) 法的責任追及が医療に与える影響 3. 安全文化の醸成に向けて		復習する。
15	終講試験	客観テスト 解説	授業にて学習した内容および配布資料を学習し、終講試験に臨んでほしい。

成績評価の方法	1. 客観テストによる評価
---------	---------------

使用テキスト	系統看護学講座 統合分野 看護管理 看護の統合と実践① 医学書院
参考文献	系統看護学講座 統合分野 医療安全 看護の統合と実践② 医学書院 看護管理学習テキスト 看護管理概説 日本看護協会出版会 5 日間で学ぶ医療安全超入門、Gakken.

授業要項詳細

科目名	国際協力	科目区分	統合分野
担当教員	井澤 浩美	授業方法	講義
期間	3 年次 前期	曜日/時限	
単位/時間	1 単位/30 時間	回数	15 回

科目の概要	現代の日本は経済連携協定により、諸外国の看護師が来日し、わが国の看護師免許を取得し、日本人看護師と共に看護に従事している人も増えつつある。看護の現場では、彼らと共に援助を提供する状況が今後わが国のあちこちで展開されることが予測される。経済のグローバル化の進展は、政治も文化、医療や看護のグローバル化の進展も推し進めている現状である。今後の看護を担う者として、国内外における健康問題の現状と国際協力の仕組みについて看護の視点から理解し、異なった文化や社会における問題を解決していく必要性を学ぶ。
科目の到達目標	1.国際機関の役割や国際保健政策、国際看護活動について理解する。 2.国際看護の必要性を理解した上で、看護や医療の質の向上について考察する。 3.看護の国際協力の実際や日本における多文化共生と看護の役割について考察する。 4.グローバルヘルスの現状と課題について理解する。

授業回数	授業内容	授業方法	留意点
1	国際看護学とは 1.国際的な視野をもつことの意味 2.国際看護学の概念、目的 3.国際開発援助の変遷 4.グローバルヘルスの現状と課題	講義	テキスト p.2～を読んで授業に臨むこと。
2	国際保健医療の課題とミレニアム目標（MDGs）① 1.極度の貧困と飢餓の撲滅・普遍的な初等教育の達成・ジェンダー平等の推進と女性の地位向上 2.乳幼児死亡率の削減・妊産婦の健康状態の改善・HIV/エイズ、マラリア、結核、その他疾病の蔓延防止	講義	テキスト p.17～を読んで授業に臨むこと。
3	国際保健医療の課題とミレニアム目標（MDGs）② 1.環境の持続可能性を確保・開発のためのグローバルなパートナーシップの推進 2. 2030 年 開発アジェンダ	講義	テキスト p.17～を読んで授業に臨むこと。
4	国際看護活動の支援を必要とする対象① 1.国際看護活動が扱う範囲 2.海外における看護活動	講義	テキスト p.35～を読んで授業に臨むこと。
5	国際看護活動の支援を必要とする対象② 1.在日外国人への看護活動	講義	テキスト p.48～を読んで授業に臨むこと。
6	国際機関の役割 1.世界保健機関（WHO）国連児童基金	講義	テキスト p.66～を読んで授業に臨むこと。

	（UNICEF）／国連人口基金（UNFPA）／国連エイズ合同計画（UNAIDS）／国連難民高等弁務官事務所（UNHCR）／国連開発計画（UNDP）		
7	国際看護活動の実践① 1. 国際看護師協会（ICN）／国際助産師連盟（ICM）／国際協力機構（JICA）／専門家、青年海外協力隊（JOCV）／非政府団体（NGO） 2. 緊急援助活動について	講義	テキスト p.86～を読んで授業に臨むこと。
8	国際看護活動の実践②－異文化理解とコミュニケーション 1. JICA 技術協力	講義	
9	国際看護活動の展開手法 1. プライマリ・ヘルスケア（PHC） 2. プロジェクトサイクルマネジメント（PCM） 3. 日本における多文化共生社会と看護の役割	講義	テキスト p.99～を読んで授業に臨むこと。
10	EPA 看護師候補者の状況を知る 1. 異文化への理解と日本における看護実践	講義	
11	異文化理解と国際看護活動① 1. 文化的存在としての人間の理解	講義	テキスト p.118～を読んで授業に臨むこと。
12	異文化理解と国際看護活動② 1. 文化を考慮した看護 2. 国際看護活動に必要な能力	講義	テキスト p.132～を読んで授業に臨むこと。
13	国際看護の実践① 深刻化する難民問題と活動の実践	講義	
14	国際看護の実践② 国際看護活動の 3 側面／国際協力活動の実践／国内で行う途上国の人材育成活動／海外での大規模災害への看護援助の例	講義	テキスト p.160～を読んで授業に臨むこと。
15	終講試験	客観テスト 解説	

成績評価の方法	客観テストによる評価
---------	------------

使用テキスト 参考文献	系統看護学講座 統合分野 災害看護・国際看護学 看護の統合と実践③ 国際看護学 医学書院
----------------	--

授業要項詳細

科目名	災害看護論	科目区分	統合分野
担当教員	川野 和恵	授業方法	講義・演習
期間	3 年次 前期	曜日/時限	
単位/時間	1 単位/15 時間	回数	8 回

科目の概要	近年頻発する災害に対応できる看護の基礎的知識を養うために、災害サイクルに応じた看護の役割を学ぶ。また、演習通して、災害看護における特殊な技術として、トリアージの方法、救命救急時の看護や応急処置を学ぶ。
科目の到達目標	1.災害看護の定義と災害サイクルに応じた看護の役割を理解する。 2.トリアージの目的と方法を理解する。 3.災害時に必要な応急処置の基本的技術を実践する。 4.援助を受ける対象へ配慮する必要性を知る。

授業回数	授業内容	授業方法	留意点
1	1.災害の概念 2.災害サイクルと看護 3.災害医療に関する法律問題 4.災害医療に関する国の政策	講義	講義開始前には、テキストの関連ページを学習して講義に臨むこと。
2	1.被災地における災害時の看護活動 1)初動時（超急性期・急性期）における看護活動 2)医療救護所における看護活動 2.被災地の心理・支援者の心理の理解と援助	講義	講義開始前には、テキストの関連ページを学習して講義に臨むこと。
3	1.災害時に必要な医療・看護技術① 1) 救急処置 (1)心肺蘇生 ① B L S ② AED	講義 技術演習	講義開始前には、テキストの関連ページを学習して講義に臨むこと。 ※3・4 回目は 2 時間続きとする。
4	1.災害時に必要な医療・看護技術② 1) 救急処置 (1)心肺蘇生 ① B L S ② AED	技術演習	
5	1.災害時に必要な医療・看護技術① 1)災害時のトリアージ 2) 止血法	講義 技術演習	講義開始前には、テキストの関連ページを学習して講義に臨むこと。 ※5・6 回目は 2 時間続きとする。
6	1.災害時に必要な医療・看護技術② 1)災害時のトリアージ 2) 止血法	技術演習	
7	1.災害時における健康危機管理	講義 技術演習	講義開始前には、テキストの関連ページを学習して講義に臨むこと。
8	終講試験	客観テスト 解説	講義・演習にて学習した内容および配布資料を中心に学習し、終講に臨む。

成績評価の方法	客観テストによる評価
使用テキスト 参考文献	系統看護学講座 統合分野 災害看護学・国際看護学 漢語の統合と実践③ 医学書院

授業要項詳細

科目名	看護の統合と実践	科目区分	統合分野
担当教員	廣田 晶子	授業方法	講義・演習
期間	3 年次 前期・後期	曜日/時限	
単位/時間	1 単位/30 時間	回数	15 回

科目の概要	3 年間の学習内容を活用し、より臨床実践に近い形で学習し、臨床において適応できるような基礎的知識・技術・態度を学ぶ。具体的には、<u>臨床現場において遭遇しやすい状況・場面を想定し、また、時間管理や援助の優先順位、多重課題、チーム内の報告、連絡、相談等の要因を組み込んだ複数事例を基にし、シミュレーション学習する。</u> <u>卒業までに実習で培っている途上ですが、5 つの力を意識し、その力を個人ワークやグループワーク、リフレクションの随所で発揮しながら学習を進めていきましょう。</u> 実習で培う力（基礎看護実習～領域別実習～統合実習の全 12 クール） 1.看護の基礎となる力 倫理的な行動、自己の課題を明確にする、自律した学習、他者との意見を共有し学びを深める 2.対象を多面的に理解する力 対象の健康障害を理解、対象に治療が及ぼす影響を理解、対象の生活を理解する、対象の思いを大切にす、対象の現在の状況を理解 3.対象に必要なケアを理解する力 対象に必要なアセスメント、アセスメントによって看護問題と援助計画を立案 対象の VG の設定→気づきをアセスメントし看護の方向性を見出す 4.対象に必要なケアを提供する力 対象と適切に関わる、対象に必要な技術を看護師と一緒に提供できる、行った援助を評価・修正して新たな援助をする、対象に必要な看護技術を提供できる、対象の状況に応じてケアする、根拠のある実践と評価 5.多職種のチームで協働する力
科目の到達目標	1.事例を基に複数患者の状況を把握するために、必要な情報は何かを判断する。 成人看護学方法論Ⅰ＜柏（A）氏 51 歳 男性 2 型糖尿病＞ 老年看護学方法論Ⅲ＜秋山（B）氏 94 歳 男性 肺炎と脱水＞ 2.事例を基に A 氏と B 氏に必要な援助を抽出する。 3.事例を基に A 氏と B 氏に対する援助の優先順位を判断する。 4.事例を基に A 氏と B 氏への援助の優先順位をふまえて、必要な援助をチームメンバーと連携しながら、模擬患者に実施する。 5.事例を基に A 氏と B 氏に実施した援助をチームメンバーとリフレクションを行う。 6.事例を通して自己の看護観を考察する。 7.専門職業人として責任・倫理観を養う。

授業回数	授業内容	授業方法	留意点
第 1 回	1.科目の進め方 1)科目の概要および到達目標 2)授業内容および留意点 (1)事例紹介 3)成績評価の方法 4)ワークの進め方 (1)個人ワーク (2)グループワーク 2. A 氏と B 氏の事例展開① <u>個人ワーク</u>	講義 演習	・提示した事例を熟読する。 ・A 氏 成人看護学方法論 1 の事例 ・B 氏 老年看護学方法論Ⅲの事例 ・授業で活用した資料・学習ノート・各自必要なものを準備し授業に臨む
第 2 回	1.A 氏と B 氏の事例展開② <u>個人ワーク</u> 1)A 氏と B 氏の状況を把握するための情報整理 2) A 氏と B 氏に必要な援助 3) A 氏と B 氏に対する援助の優先順位 2. 看護の統合実践の A 氏と B 氏の看護実践に必要な 5 つの力	講義 演習	・第 3 回のグループワークでは、A 氏と B 氏の看護および 5 つの力を培うための学習内容を発表できるよう整える ・なお、授業終了時に A 氏と B 氏の看護および 5 つの力を提出する ・グループ分け（4～5 人/G）と担当教員は 5/20 に発表する
第 3 回	1. A 氏と B 氏の事例展開③ <u>グループワーク</u> 1) A 氏と B 氏の看護を考える ケースカンファレンスの実施 2) A 氏と B 氏の事例展開に必要な 5 つの力	講義 演習	・個人ワークから導き出した A 氏と B 氏の看護をプレゼンテーションできるよう準備しグループワークに臨む（5 分/1 人） ・個人ワークした A 氏と B 氏の看護をグループメンバーで意見交換する ・グループで討議し、創意工夫した A 氏と B 氏の看護を 明文化する ・A 氏と B 氏になってほしい姿や解決が必要な問題や課題を共有する ・個人ワークした 5 つの力をグループで共有する
第 4 回	1. A 氏と B 氏の看護の実際（シミュレーション） <u>ミッション 1 ステージ 1 気づく 五感をフル回転</u> 1) A 氏と B 氏の看護考える A 氏と B 氏の現在の状態と生活	技術演習 講義	【技術演習のルール】 第 4 回～第 12 回 ・チノパンとボロシャツを着用 ・靴はナースシューズ ・ミッションに応じ役割分担を決める ・役割分担はグループに一任する ・役割分担は必ず輪番とする ・考えた看護の根拠は必ず明確にする ・必ずリフレクションを行う
第 5 回	1. A 氏と B 氏の看護の実際（シミュレーション）	技術演習	・模擬患者との援助場面を通して学

授業回数	授業内容	授業方法	留意点
	<u>ミッション2 ステージ1 コミュニケーションの場面</u> 1)A 氏と B 氏の看護考える A 氏と B 氏の願いとは 願いや思いを知る～わかる～使う～実践	講義	習を進めます
第 6 回	1. A 氏と B 氏の看護の実際（シミュレーション） <u>ミッション3 ステージ2 状態観察と報告の場面</u> 1)A 氏と B 氏の看護考える A 氏と B 氏の検温とアセスメント、そして報告	技術演習 講義	・技術の根拠を明確にする ・正確な技術を提供する ・必要であればタブレットで撮影し、撮影動画をグループワークに活用する ・A 氏と B 氏の患者役をするときは、事例に描かれている年齢・性別・身体状況をなるべく近い状態で演じるよう取り組む
第 7 回	1. A 氏と B 氏の看護の実際（シミュレーション） <u>ミッション4 ステージ2 食事の場面</u> 1)A 氏と B 氏の看護考える A 氏と B 氏の食事の援助	技術演習 講義	
第 8 回	1. A 氏と B 氏の看護の実際（シミュレーション） <u>ミッション5 ステージ2 移動の場面</u> ※危険予知をしながら看護を考える 1)A 氏と B 氏の看護考える A 氏と B 氏の活動・休息の援助	技術演習 講義	
第 9 回	1. A 氏と B 氏の看護の実際（シミュレーション） <u>ミッション6 ステージ2 排泄の場面</u> 1)A 氏と B 氏の看護考える A 氏と B 氏の排泄援助	技術演習 講義	
第 10 回	1. A 氏と B 氏の看護の実際（シミュレーション） <u>ミッション7 ステージ3 安全確保と事故防止</u> 1)A 氏と B 氏の看護考える A 氏と B 氏の安全管理	技術演習 講義	
第 11 回	1. A 氏と B 氏の看護の実際（シミュレーション） <u>ミッション8 ステージ4 多重課題①</u> 1)A 氏と B 氏の看護考える 多重課題との遭遇とその対応	技術演習 講義	
第 12 回	1. A 氏と B 氏の看護の実際（シミュレーション） <u>ミッション9 ステージ4 多重課題②</u> 1)A 氏と B 氏の看護考える 多重課題との遭遇とその対応	技術演習 講義	

授業回数	授業内容	授業方法	留意点
第 13 回	1. A 氏と B 氏の看護の実際（シミュレーション） <u>ミッション 10 ステージ 4 カンファレンス</u> 1) A 氏と B 氏の看護考える 保健・医療・福祉チームと看護職との協働	講義 演習	
第 14 回	1.リフレクション（個人とグループ） 1)A 氏と B 氏のシミュレーションからの学び 2)5 つの力の評価 3)自己の課題	講義 演習	
第 15 回 終講試験	客観テスト（筆記試験） 観察法（実技試験）		

成績評価の方法	1.客観テストによる評価 20 点 2.観察法による評価 80 点 1)グループワークによる学習成果（50 点） 2)OSCE：（30 点）
---------	---

使用テキスト	根拠と事故防止からみた基礎・臨床看護技術 医学書院 医学書院 e テキスト
--------	--

授業要項詳細

科目名	研究の基礎	科目区分	統合分野
担当教員	廣田 晶子	授業方法	講義・演習
期間	2 年次 後期	曜日/時限	
単位/時間	1 単位/30 時間	回数	15 回

科目の概要	看護研究の意義および研究の基礎を学ぶ。研究を進めるうえで必要な倫理的配慮を学び、看護学実習での受持ち患者の看護実践を通して、事例研究（ケーススタディ）をすることにより、自己の看護観を探究する。
科目の到達目標	1. 看護研究の意義を理解する。 2. 研究の種類と特徴を知る。 3. 研究における倫理的な配慮を理解する。 4. 研究課題の明確化、文献検索、研究方法の選定、データ収集・分析、結果・考察という一連の研究プロセスが理解する。 5. 文献検索の方法と活用の仕方を理解する。 6. 研究課題に関する文献検索を行い、文献検討およびクリティークを実践する。 7. 研究プロセスを踏まえ、研究計画書の書き方を学ぶ。 8. 事例研究（ケーススタディ）のすすめ方を理解する。

授業回数	授業内容	授業方法	留意点
1	1. 調べること 1) 調べて分かることと研究の相違点 2) 研究の意義と目的	講義・演習	日常生活の中、または基礎看護学実習Ⅱでの看護実践の中で、各自 7「興味、関心をもっていること」「疑問に感じていること」を抽出し、テーマを決めて調べグループワークする
2	1 看護研究と何か 1) 研究の意義 2) 看護研究の特徴と種類 2. 看護研究の進め方 1) 看護研究のプロセス （1）テーマの検討と決定 2) 文献調査（文献検索と文献検討）	講義・演習	研究計画書を作成するにあたり、文献検索をする。 * 2・3 回目は、2 時間続きとする。 ↓
3	1. 文献調査（文献検索と文献検討） 1) 文献とは 2) 文献検索の目的 3) 文献検索の進め方	講義・演習	講義中に指示された課題に取り組み次回に臨む ↓
4	1. 文献検討（クリティーク）の方法①	講義・演習	講義開始前には、テキストの関連ページを学習して講義に臨む。 講義中に提示される課題に取り組み、次回の講義に臨む。
5	1. 文献検討（クリティーク）の方法②	講義・演習	↓

授業回数	授業内容	授業方法	留意点
6	1.研究における倫理的配慮 1) 研究における倫理的問題 2) 研究の倫理指針 3) 依頼書と同意書 4) 研究倫理審査	講義	講義開始前には、テキストの関連ページを学習して講義に臨む。
7	1.研究デザインー研究の方法と選択ー 1) 研究デザインはなぜ必要か 2) 研究デザインの選択 (1) 質的研究と量的研究	講義	講義開始前には、テキストの関連ページを学習して講義に臨む。
8	1.研究の進め方① 1) 研究課題を見つけ研究テーマを絞り込む 2) データの収集、分析	講義	講義開始前には、テキストの関連ページを学習して講義に臨む。
9	1.研究の進め方② 1) 研究計画書の作成 (1) 研究計画書とは (2) 研究計画書の書式と書き方	講義	講義中に提示される課題に取り組み、次回の講義に臨む。
10	1.研究の進め方③ 1) 研究計画書の作成 (1) 研究計画書とは (2) 研究計画書の書式と書き方 2) 研究計画書の体験	講義・演習	基礎看護学実習Ⅱへの関心が研究テーマとなりうるか、文献検索をし、先行研究を調べたことから、何を明らかにしたいのかを明確にし、指定用紙に研究計画書を作成し、提出する。 * 10・11 回目は、2 時間続きとする。
11	1.研究の進め方④ 1) 研究計画書の作成 (1) 研究計画書とは (2) 研究計画書の書式と書き方 2) 研究計画書の体験	講義・演習	↓
12	1.研究成果をまとめる 2.研究成果を伝える	講義	講義開始前には、テキストの関連ページを学習して講義に臨む。
13 14	1.事例研究の具体体的方法 1) 事例研究を行う目的 (1) 事例研究（ケーススタディ）の進め方	講義	講義開始前には、テキストの関連ページを学習して講義に臨む。
15	終講試験	客観テスト 解説	演習にて学習した内容および配布資料を中心に学習し、終講試験に臨む。

成績評価の方法	客観テストによる評価
---------	------------

使用テキスト 参考文献	系統看護学講座 別巻 看護研究 医学書院
----------------	----------------------

2022 年度 看護学実習要項

I. 本校における看護学実習

1. 看護学実習の意義

看護学実習は、学内で習得した知識・技術・態度を基にあらゆる発達段階と健康レベルにある対象への看護を実践し、対象が健康な状態になるプロセスを共にする体験学習である。そのような中で直接的経験を通して、看護の対象ならびに家族の反応を受け止め、看護者としての自己のあり方を反省的経験として考察し、一定の過程を展開し看護の方法を理解する。すなわち、対象にとって必要な看護実践能力と基礎的能力を身につける学修場面としてきわめて重要な意味をもち、看護学教育において欠くことのできない授業である。

2. 学修の進め方

本校は、学修内容の難易度を考慮しながら看護学実習を展開する。専門分野Ⅰにおいては、「基礎看護学実習Ⅰ・Ⅱ」を設定し、看護の興味関心を喚起する。専門分野Ⅱにおいては「成人看護学実習Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ」「老年看護学実習Ⅰ・Ⅱ」「小児看護学実習」「母性看護学実習」「精神看護学実習」と進み、いわゆる看護の基礎的能力を修得し積み上げていく。そして、統合分野においては「在宅看護論実習」「統合実習」をゴールとして、看護を統合的にとらえる能力を養う。

II. 看護学実習の目的・目標

1. 目的

既習した看護の知識・技術・態度をもとに医療等の場において、看護実践を通して理論と実践を統合し、看護を理解し、保健医療福祉チームと連携・協働して看護を提供するために基礎的な看護実践力を身につけるとともに、主体的に課題に取り組み、倫理観を培い、自己教育力を養う。

2. 目標

- 1)あらゆる健康レベルにある対象の身体的・精神的・社会的・spiritual な側面を持つ統合体として理解する。
- 2)対象の健康上の問題を科学的根拠に基づいて判断し、看護過程を展開する能力を養う。
- 3)対象の QOL を高め、健康の保持増進にむけた日常生活の援助を実践する。
- 4)対象に関心を寄せ、ケアリングができるコミュニケーション能力を養う。
- 5)保健・医療・福祉チームの一員として、他職種と調整し、看護の役割と責務を果たす基礎的能力を養う。
- 6)保健・医療・福祉における問題を通して、倫理観を培うとともに自己教育力を養う。

注：実習目標の考え方

- 1)「用語解」において、人間を「人間とは、身体的・精神的・社会的・spiritual な側面を持つ統合体であり、発達課題を達成する存在である」と定義している。看護の対象は、まさに人間であるが、人間のなかの「患者」と分類される。

存在が看護の対象となる。しかし、「患者」と表現すると、診断名を持っていることに限定される。看護の対象には健康な人間も含まれることから「対象」と命名し、実習目標 1 にあげ、看護実践の前に看護の対象を理解する目標として設定した。

- 2) 看護実践の方法論が「看護過程」である。つまり、健康上の問題を科学的に判断した上で、「看護過程」に基づく看護を実践することが可能となる。一方、看護過程は、「問題解決思考」でもある。しかし、「問題解決思考」は看護を学ぶ前に、既に習得されている能力である。したがって、「看護の場」において、健康上の問題を解決する。

「看護過程」を展開することを学ぶことを明確に示し、「看護過程を展開する能力を養う」という表現を用

い、実習目標として設定した。

- 3) 看護学実習においては、日常生活の援助を実践することを学習する。その際、現在、対象に必要な看護実践だけが求められるのではなく、対象の QOL を高める援助ならびに、健康の保持増進にむけた日常生活の援助を実践することが看護であることを理解した看護実践が求められる。したがって、実習目標として設定した。
- 4) 当校の教育理念は「ケアリング」ができる専門職業人の育成にある。「ケアリング」関係構築は困難な学習過程を伴い看護学実習においてのみ達成されるものではなく、3 年間の教育において達成される。しかし、看護学実習の場において、ケアリングができるコミュニケーション能力を養うことは、3 年間の学習目標の基礎となり、実習での学びを座学や他者との人間関係においてさらに深化させることが求められる。したがって実習目標として設定した。
- 5) 看護師は、保健・医療・福祉チームの一員として、他職種と調整する役割を持つ。また、その中で看護師は、看護の役割のみならず、責務を果たすことが求められるため、実習目標として設定した。
- 6) 保健・医療・福祉における問題の中で特に看護師が会える問題として「倫理的ジレンマ」があげられる。倫理的ジレンマを解決するために倫理的判断ができる倫理観を培うことが求められる。また、同時に自己教育力を習得することで、倫理的ジレンマ以外の諸問題を概観する能力も習得されることから実習目標として設定した。

III. 看護学実習における倫理的行動指針

医療の高度化・専門化・複雑化、国民の権利意識の高まりなどを背景に、2003 年、日本看護協会は「看護者の倫理綱領」¹⁾ (別紙 1) を改訂した。これには、看護職者が理想とする道徳的な行動指針と社会に対して引き受けるべき専門職としての責務と役割が明示されている。その前文の中に、「看護者は、看護職の免許によって看護を実践する権限を与えられた者であり、その社会的責務を果たすため、看護の実践にあたっては、人々の生きる権利、尊厳を保つ権利、敬意のこもった看護を受ける権利、平等な看護を受ける権利などの人権を尊重することが求められる」とある。

このような状況の中、看護職者のみならず学修者においても倫理教育の強化の必要性が高まった。

本校では「看護倫理とは、看護実践場面で直面する様々な倫理的問題に対して、普遍的な倫理原理やその時代の社会思想などから看護職者によってなされる判断およびそのための論拠を追求すること」と定義した。1 年次より倫理の本質、原則、あり方を学び、倫理に基づいた看護を実践するための基礎を学修する。

看護学実習では、「看護者の倫理綱領」を行動規範として看護実践を行い、倫理に基づいた看護を実践する基礎的能力を養う。学修者は看護学実習の指導者をロールモデルとし、看護職としてふさわしい倫理的行動を修得していく。卒業時の倫理的行動の到達目標は「看護師に求められる実践能力と卒業時の到達目標」²⁾ に準じて、以下のように 5 項目設定した。

1. 対象者のプライバシーや個人情報を保護する
2. 対象者の価値観、生活習慣、慣習、信条等を尊重する
3. 対象者の尊厳や人権を守り、擁護的立場で行動することの重要性を理解する
4. 対象者の選択権及び自己決定を尊重する
5. 組織の倫理規定及び行動規範に従って行動する

したがって、学修者は看護実践を通して、看護職者としての倫理的な資質を養うと共に、生涯を通してその資質を身につける。

<引用文献>

- 1) 看護者の倫理綱領,日本看護協会,2003.
- 2) 厚生労働省：看護師等養成所の運営に関する指導ガイドライン 別表3,2015

IV. 看護学実習の考え方

本校では、実習は看護学を教授する授業における一つの形態にとらえ、「臨地実習」ではなく「看護学実習」とする。

1. 看護学実習の考え方と位置づけ

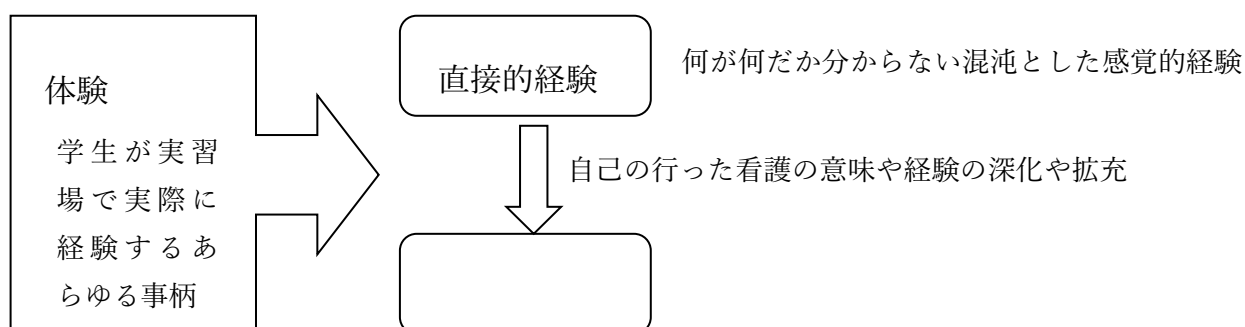
看護学実習では、看護職者が行う実践の中に学生自身が身を置き、講義や演習で学んだ知識と技術ならびに態度を用いて科学的根拠に基づき実践、統合し対象にとって必要な看護実践能力の基本を主体的に身につけることにある。つまり、看護の方法について、「知る」「わかる」段階から「使う」「実践できる」段階に到達させるために看護学実習は不可欠な過程である。また、看護実践において不可欠な援助的人間関係形成能力や専門職業人としての役割や責務を果たす能力は、学生自らが看護行為を行うという過程で育まれていくものである。実習の場における学生は、現実の場面のみがつくり出す看護する喜びや難しさとともに、自己の新たな発見を実感し、対象に対する責任を認識しながら、看護に対する更なる学修を深めていく。この学修過程は学生にとって、大きな成長の助けとなり、生涯学習し続けるための自己教育力を育成し、専門職業人としての自覚と責任が形成できるようになる。

現在の我が国におかれている状況は高齢社会の進展の加速、少子化、医療の高度化、在院日数の短期化、生活習慣病、医療経済の悪化、変化の激しい社会環境、国際化と多くの課題があり、そこにおける看護師に期待される役割はきわめて大きい。加えて、看護の対象における療養環境も病院施設から福祉施設、地域へと拡大しており看護師は対象の QOL の向上を目指すために、更に求められる技術能力や質の向上が求められている現状である。

本校は「健康でかけがえのないその人らしい人生を尊重する」という教育理念のもと、看護に必要な知識・技術・態度を修得し、温かいまなざしを持ち、ケアリングを追求する専門職業人を育成するために、看護の対象である人間をその人の人格のみならず、健康な人生そのものを尊重し高い倫理観を持つ事の大切さを育めるよう対象を身体的・精神的・社会的・spiritual な側面を持つ統合体としてとらえられるような学修内容とする。

看護実践の基本である科学的思考を土台に対象である人間と生活・社会を理解するための心理を学修する基礎分野、基礎分野の学修に基づき更に看護の専門知識を強化するために専門基礎分野を学ぶ。専門分野Ⅰの看護実践が行える能力を育む学修を基盤に専門分野Ⅱでは、成長発達段階に応じた各期の特徴と健康課題を系統立てて学修する。統合分野では、既習の知識・技術を統合し対象の生活状況に応じた看護を学ぶためすべての教育の集大成とした。看護学実習ではこれら既習の学修を統合しあらゆる発達段階と健康課題を持つ対象や家族への看護を実践し、対象が健康に至るまでの過程を共にする体験学習である。看護学実習での経験を通して、自己の行った看護の意味や経験の深化や拡充に向けて学生自身が自己教育力の推進や探究心を育む上でも不可欠な過程である。

また、学修を行う上での考え方としては、基礎から応用へ、容易から難解へ、正常から異常へ、単純から複雑へと学修できるよう配慮する。



反省的経験

実際に起きている現象を言語で説明できる経験

図1. 体験と経験のプロセスおよびその定義

2. 看護学実習の構成

本校の看護学実習の構成にあたり以下の内容を考慮する

1)基礎看護学実習は、各看護学の実習に先立って行われる看護学の基礎を学ぶ実習であり、看護の興味関心を喚起する各看護学実習に向けての導入となる。

基礎看護学実習は、「基礎看護学で学んだ基礎的知識・技術・態度を用い、対象に応じた看護を修得し、各看護学領域に応用できる基礎的能力を養う。」ことを目的とする。基礎看護学実習は、知る段階から実践する段階へと発展的に看護実践を学べるよう基礎看護学実習 135 時間を I-1 および I-2 (45 時間)、基礎看護学実習 II (90 時間)に設定する。

基礎看護学実習 I-1 では、実際の医療現場の見学を通して、病院の役割・機能・設備を知る。また、コミュニケーション技術を用いて、対象の療養生活と対象の思いを知る。さらに、看護師の対象に対する関わり方を知り、看護の魅力や興味を持ち、今後の学習の動機づけとなるよう看護学実習を進める内容とした。

基礎看護学実習 I-2 では、日常生活援助を必要とする対象を受け持ち、対象の日常生活に関する問題を把握し、対象の状態に合わせた援助計画を立案、原理・原則のもと目的・根拠・手順に基づき実践する内容とした。

基礎看護学実習 II では、看護の対象を理解し、対象が何を必要としているのか、健康上の問題は何であるのか対象に必要な看護を導き出し、看護実践するためのプロセスとして、看護過程を用いて看護を展開する基礎を学ぶ内容とした。

2)成人看護学実習は健康障害別に I～Ⅲで構成した。

成人看護学実習 I は、日常生活行動に障害のある対象を理解する実習として設定した。日常生活行動に障害のある対象への看護においては患者およびその家族の特徴をふまえた残存機能の維持・拡大のための援助を学ぶ。また、継続看護の視点を用いて社会資源の活用について学ぶ実習として設定した。

成人看護学実習 II は、「生涯にわたり健康障害のコントロールを必要とする患者への看護」を学ぶ実習とした。生涯にわたり疾患のコントロールを必要とする患者への看護では、長期にわたり治療を必要とする患者およびその家族を理解する。また、社会復帰に向けてセルフケアの向上ができるような援助を学ぶ実習として設定した。

成人看護学実習Ⅲは、主に手術が必要となる患者を受け持ち、術前から術中、術後、退院に向けての援助について学ぶ実習として設定した。

3)老年看護学実習は老年期の特徴を理解し、健康レベルに応じた看護を学修するために以下のように、老年看護学実習 I・II で構成した。

老年看護学実習 I は、各施設を利用する老年期にある対象とのコミュニケーションを通して、老年期の特徴や対象の健康問題と日常生活との関連性について知り、看護の役割を学修する。

介護老人保健施設を利用している高齢者を対象に、老年期の特徴と健康障害の関連性について知り、介護予防や生活機能の維持、向上、自立支援、生活の再構築に向けた援助や家族支援、他職種との連携、協働、看護師の役割について学ぶ。また、人生を完成させるためのステージを生きている老年者の生き生きとした姿を学習するために、老人福祉センターでの実習や地域包括ケアシステムを支える介護保険サービスとしての位置づけであり、地域で生活している老年期にある対象を支える小規模多機能型居宅介護の実際を学習する実習を計画

した。

老年看護学実習Ⅱでは、加齢や健康問題により健康が障害された対象を理解する。また、対象の健康上の問題や生活障害、残存機能をとらえ日常生活の維持拡大に向けた援助を学ぶ実習として設定した。

4)小児看護学は、子どもと家族のライフステージに応じて支援する領域である。小児看護の対象は、すべての子どもとその家族である。子どもの成長・発達と、家族を含めた全体像を捉えることが必要である。

小児看護学実習では、学内での既習の知識・技術・態度を臨床で統合し、健康な子どもの成長・発達の特徴を学び、子どもの理解を深め、さらに健康上の問題を持つ子どもとその家族への支援に取り組むための基礎的知識を学修する。

保育園実習では、健康な乳幼児と関わり、成長・発達や基本的生活習慣への支援を学び、子どもへの理解を通して、健康な子どもとその家族への健康増進に向けた支援を学ぶ。病院実習では、健康上の問題を持つ子どもとその家族に必要な看護を学ぶ。特に、家族にとって唯一無二の存在である子どもが病むことは耐え難い経験となる。したがって、個々の家族への支援の仕方をも理解する。この両者での学修を通し、小児期の対象と家族への理解を深め、看護を実践するための基礎的能力を養う。

5)母性看護学実習は、病棟（外来含む）および子育て支援センターで実習する。

病棟での実習は、分娩という生命誕生の場面や産後の母児ケアの実際を学び、命の尊厳や家族のありよう、母性・父性観を考えられる機会とする。更に緊急時の対応をはじめ、周産期領域における医師、助産師、看護師および他職種と連携したチーム医療の実際を学ぶ。また、外来では妊婦とその家族が安心して妊娠期～産褥期をすごせるような支援を学ぶ。

子育て支援センター実習においては、センターの役割ならびに地域の保健資源等をしり、地域の子育て支援のありかたを学ぶ。

6)精神看護学実習では精神に障害のある人およびその家族への理解を深める中で、社会での生きづらさや多様な価値観を持っている事に気づき、セルフケア能力を高めるための援助を学習する。また、その過程を通し、学生自ら自己洞察を行う事の必要性について学ぶ。

7)在宅看護論実習では地域で療養しているあらゆるライフステージにある対象者とその家族を理解するために、在宅療養と家族の生活の場における実習を行うことにより、在宅で療養する人々や家族の特徴を学び、そこで対象の QOL とセルフケアの向上を目指した看護の役割を学ぶ。また、在宅療養を支える多職種の役割を学ぶ。今後、2025 年における日本は、地域包括ケア構築をめざしていることをふまえ、その概要を学ぶことをねらいとし、訪問看護ステーションにおいて学びを深める実習とする。

8)看護の統合と実践ではこれまでの専門分野での学修をふまえ、知識・技術・態度を統合し、実際の臨床の場に即した看護を実践できる基礎的能力が学修できるよう以下の内容で構成した。

看護チームリーダーにおける役割と他職種との協働のあり方、複数受け持ち患者への看護を通して様々な状況に対する判断力、夜間における看護を通して患者の生活と看護の継続性を主に学ぶ。これらの内容を学修する事により、専門職業人としての責任と役割を考察し、医療チームの一員として、看護の担うべき責任と自覚を養えるような学修内容とする。

3. 看護学実習の時間数の考え方

- 1) 看護実践能力を育成する効果的な看護学実習にするためには、実習の事前準備や実習中・実習後の学習ならびに自己評価を行うことが必要である等の観点から、看護学実習を充実させるために実

活動の場以外で行う学習¹⁾（以下「実践活動外学習」という）の時間を実習時間に含めている。実習時間は、看護学実習および実践活動外学習の総計で計上する。

- 2) 臨地実習は、実践活動の場において行う実習のみを指すもの²⁾とあるが、当校は臨地実習を看護学実習と表現する。看護学実習の内容は関連する施設等の見学、臨地でのオリエンテーション、看護援助の準備や計画立案、カンファレンス、実習評価、実習記録等も含める。
- 3) 実践活動外学習は、実践活動の場以外で行う学習であり、当校では主に学内で実施するため、「学内実習」と称する。内容は学内オリエンテーション、看護学実習に関連した事前学習やエビデンスを確認するための文献検索、学内カンファレンス、患者に合わせた技術を提供するための演習、全員が体験することが困難な事象についての演習、実習評価、実習記録、まとめ発表会等がある。
- 4) 看護学実習は 8：30～17：00 とし、1 日 7.5 時間で計上する。
但し、基礎看護学実習Ⅱと老年看護学実習Ⅰは 8：30～16：30 とし、1 日 7 時間で計上する。
- 5) 原則、水曜日は学内実習とするが、実習方法や実習施設との関連で、学内実習を変更する。
- 6) 実習時間に計上する学内実習は事前にオリエンテーションを行い、不利益がないようにする。

<引用文献>

- 1) 厚生労働省：看護師等養成所の運営に関する指導ガイドライン,p10,138,（2015 年 3 月 31 日）
- 2) 厚生労働省：看護師等養成所の運営に関する指導ガイドライン,p10,137,（2015 年 3 月 31 日）

4. 各看護学実習の時期ならびに時間数

実習科目名	単位数	時間数	実習時間内訳		実習時期
			看護学実習	実践活動外学習 (学内実習)	
基礎看護学実習Ⅰ-1	1	45	7時間(1日間)	8時間	1年次5月
基礎看護学実習Ⅰ-2			28時間(4日間)	2時間	1年次12月
基礎看護学実習Ⅱ	2	90	75時間(10日間)	15時間	2年次7月
成人看護学実習Ⅰ	2	90	75時間(10日間)	15時間	2年次1月
成人看護学実習Ⅱ	2	90	75時間(10日間)	15時間	3年次4月～11月
成人看護学実習Ⅲ	2	90	75時間(10日間)	15時間	3年次4月～11月
老年看護学実習Ⅰ	2	90	56時間(9日間)	34時間	2年次11月
老年看護学実習Ⅱ	2	90	84時間(12日間)	6時間	3年次4月～11月
小児看護学実習	2	90	84時間(12日間)	6時間	3年次4月～11月
母性看護学実習	2	90	84時間(12日間)	6時間	3年次4月～11月
精神看護学実習	2	90	84時間(12日間)	6時間	3年次4月～11月
在宅看護論実習	2	90	84時間(12日間)	6時間	3年次4月～11月
看護の統合と実践	2	90	82.5時間(11日間)	7.5時間	3年次11月
合計	23	1035			

5. 実習体制

1 グループの学生数を6人または7人とし、合計13グループ編成で実習を進度していく。

V. 3 年間の実習計画

3年間の実習計画																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																								
月	4				5				6				7				8				9				10				11				12				1				2																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																															
週	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	16	17	18	19	20	21	22	23	24	25	26	27	28	29	30	31	32	33	34	35	36	37	38	39	40	41	42	43	44	45	46	47	48																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																								
3 年次			各領域別看護学実習 成人Ⅱ・Ⅲ・老年Ⅱ・小児・母性・在宅・精神 																			各領域別看護学実習 成人Ⅱ・Ⅲ・老年Ⅱ・小児・母性・在宅・精神 																看護の 統合と 実践																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																		</

VI. オリエンテーションのねらい

学修者は効果的な看護学実習を行うために、主体的に必要な知識や看護技術を修得し、事前準備を充分に行って臨むことが望ましい。特に専門領域実習前には、既習した多くの知識・技術を復習し、レディネスを整えること、すなわち事前準備が大変重要である。

看護基礎教育 3 年課程のカリキュラム(当校は 3090 時間 98 単位)は 3 年間の限られた期間で修得するため、3 年次に看護学実習が集中し、タイトなスケジュールとなる傾向がある。当校の場合も 3 年次に連続的に専門分野の実習が集中して入るため、できるだけ早期(2 年次)にかつ計画的に看護学実習の準備を始める必要がある。

これらのことから全体オリエンテーションには各専門領域の実習オリエンテーションを早期に行い、2 年次冬休みや 3 年次進級前の春休みなどの長期休暇を有効に使い、計画的に 3 年次看護学実習の準備ができるように学修者への動機づけをするねらいがある。

本校の場合、2 年次 1～2 月の成人看護学実習 I に備えて、全体オリエンテーションを 2 年次 3 月に実施する。成人看護学実習 I は看護過程を実践するはじめての体験となるので、学修者が十分な事前準備を行い、実習成果をあげられるようにする必要がある。また、学修者のレディネスを評価し、成長を促す良い機会とする。

オリエンテーションの時期

種類	実習	実施時期
全体オリエンテーション	3 年間で学ぶ看護学実習	1 年次 4 月
	基礎看護学実習Ⅱ、老年看護学実習Ⅰ・Ⅱ 成人看護学実習Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ	2 年次 4 月
	成人看護学実習Ⅱ・Ⅲ、老年看護学実習Ⅱ、小児看護学実習 母性看護学実習、精神看護学実習、在宅看護論実習 看護の統合と実践	2 年次 3 月
科目別オリエンテーション	基礎看護学実習Ⅰ	1 年次 4 月
	基礎看護学実習Ⅰー 2	1 年次 11 月
	基礎看護学実習Ⅱ	2 年次 6 月
	老年看護学実習Ⅰ	2 年次 5 月
	成人看護学実習Ⅰ	2 年次 12 月
	成人看護学実習Ⅱ・Ⅲ、老年看護学実習Ⅱ、小児看護学実習 母性看護学実習、精神看護学実習、在宅看護論実習	2 年次 3 月
	看護の統合と実践	3 年次 10 月
グループオリエンテーション	3 年間で学ぶ看護学実習	実習前週 (金曜日)

VII. 本校における看護学実習評価の考え方

1. 看護学実習評価の意義

看護学実習評価は、看護学実習の目的、目標が達成されているか、あるいはどの程度達成されているかを把握し、目標に対し未達成な部分を学修者が達成するための学修を促進することに意義がある。また、看護学実習評価は学修者が看護学実習の到達度や自己課題を把握し、次の学修の手立てとするものである。また教員ならびに実習指導者にとっては、実習指導の評価及び実習指導の検討に活かすことができる。

本校の実習評価表には、学修者が主体的に学修するために自己評価欄を取り入れ評価する。自己評価は、学修者が自ら知識・技術・態度において努力したこと、課題を把握し、今後の実習の手立てにするという主体的な機能をもつものである。

これらのねらいを達成するためには、自己評価・他者評価によって学修者が課題を明確にし、課題を達成するための学習内容や方法を理解し、課題を達成していけると感じられるようにすることが必要である。そこで、学修者が客観的に評価できるよう、評価項目を観察や測定できる行動レベルで表し、さらに学習課題を理解できるように評価基準をそれぞれの評価項目ごとにあげる。また、自己評価と他者評価に大きな相違が生じたときは、学修者と面接し、相違が生じた理由を学修者と教員の両者で確認することで、学修者の自己理解や教員※¹の認識の傾向などを知り、相互の成長を図るものである。

1) 評価の原則

本校の看護学実習評価は、各看護学の実習評価表に基づいて行う。実習評価表は、看護学実習の目的・目標に対しての評価項目、すなわち、対象理解、問題解決能力と看護実践、評価・修正、保健医療福祉の連携という内容で構成している。その内容は、各看護学の実習目的・目標に対する評価内容で構成され、それらの項目に対する成果（達成度）の高低を5段階で評価する。評価基準は、目標の到達度80%以上を5点、70%以上を4点、60%以上を3点、50%以上を2点、40%以下を1点とする。尚、評価の信頼性、公平性を確保するために、各々の看護学実習において評価基準を作成し、適用する。

さらに合格の基準として、評価項目のすべての内容の達成度が80%以上を優、70%以上を良、60%以上を可、それ以下を不可とし、可以上を合格とする。

2) 評価における倫理的配慮

日本看護協会の「看護師の倫理規定とその解説」第1項は「看護師は人間の生命を尊重し、また人間としての尊厳および権利を尊重する」と規定している。これらは看護実践の場を想定した規程ではあるが、当然、人間を対象とする教育の場にも適用されなければならない。教員は、看護職としてこれら看護職能団体の倫理規定を遵守する責務をもち、教育評価における倫理的配慮が必要である。

本校における教員の教育活動の倫理的配慮は、フライによる看護実践の倫理に則る。看護実践をはじめ、ある活動における対象者の人権擁護に向けた倫理的配慮には「善行」「正義」「自律」「誠実」「忠誠」という5つの倫理的原則がある。

以下に自己の教育活動を評価しようとする教員が、評価主体としてかかわる人々に対し留意すべき倫理的配慮について述べる。

（１）善行

善を行い、害を避けるという義務を意味する。評価に関連する自己の行動が、それにかかわる人々にとってどのような利益・不利益を生じさせるかを十分に考慮する。そのためには、目的にかなった測定用具の選択、適切な方法による測定の実施、測定結果の適切な解釈を行う。

（２）正義

人に対し平等、公平に対応する義務を意味し、評価にかかわる人々に平等に対応する義務をもつ。そのためには、客観的には評価に基づき評価を行う。

（３）自立

人が自らの選択によって自分自身の行動を決定する自由をもつことを意味する。そのためには、評価主体として協力を依頼する人々が自らの選択によって協力の諾否を決定できる権利、すなわち自己決定の権利を保障する。

（４）誠実

嘘を言わない、他者をだまさない義務である。そのためには、評価主体として協力を依頼する際、評価結果の活用可能性を十分説明する。

（５）忠誠

人が専心したことに対して誠実であり続けることを意味する。そのためには、秘密を守り、約束を守る。

２．看護学実習評価のねらい

- １）学修者の看護学実習における目標を達成し、学修者の成長を促し、望ましい行動の変容を支援する。
- ２）指導者が看護学実習における指導計画および指導方法を評価し、効果的な指導方法を考察する。

３．看護学実習評価の基本形態

看護学実習の目標を達成させるために実習前、実習中、実習終了後に各々の評価活動を展開し、学修者がより高いレベルで目標達成できるように導くため各時期に評価活動を行う。

１）看護学実習における診断的評価

評価は看護学実習に臨む前に学内の学習活動において習得されているはずの知識、技術の習得度を判定する評価であり、実習前に必ず実施する。評価する方法はプレテスト、チェックリスト、自己申告などがあるが、各領域の実習の目標達成に最も適切と思われる方法を選択し、評価する。

２）看護学実習における形成的評価

看護学実習の目標を達成させるために、学修者は自己の学習進展状況を知ることが必要である。また、教員はそれに基づき教授活動を点検し、改善、修正に役立てるために実習中に形成的評価を行う。方法は、学修者の実習中の看護実践の観察、カンファレンス中での学習状況の観察ならびに中間の評価面接等を行う。

３）看護学実習における総括的評価

看護学実習における総括的評価は実習評価表に基づき学習成果の達成度を最終的に判定するために行う。方法としては３者による面接、ポストテスト等を活用する。

4. 評価の実際

1) 観察法

- (1) 行動計画の発表の仕方
- (2) 一連の看護過程展開時の取り組み方
- (3) 受け持ち患者との信頼関係のつくり方
- (4) カンファレンスでの学ぶ態度
- (5) 実習メンバーとの関係性

2) 実習記録、課題レポート類の点検

- (1) 記録の内容は趣旨に沿っているか
- (2) 記録の内容は適切か
- (3) 指導された内容を誠実に受け止め、修正しているか
- (4) 提出期限は守られているか

3) 指導記録の活用

- (1) 実習指導計画にそって指導経過を記録し、日々の指導場面、面接へ反映する。

4) 逸話記録の活用

- (1) 学習者の印象的な学習場면을エピソードとして記録し、日々の指導場面、面接に活用する。

5. 評価の基準

実習時間の5分の4以上出席した学生が評価の対象となり、評価は以下の基準にて実習の内容をもって行う。

1) 評価表の評価基準

各々の看護学実習領域において評価基準を適用する。評価基準は「5」「4」「3」「2」「1」の5段階評定とし、以下にその基準を示す。

- 5：評価項目の中核目標を形成する内容を80%以上達成している。
- 4：評価項目の中核目標を形成する内容を70%以上達成している。
- 3：評価項目の中核目標を形成する内容を60%以上達成している。
- 2：評価項目の中核目標を形成する内容の達成が50%程度と不十分であるが、不十分な理由を説明することができる。
- 1：評価項目の中核目標を形成する内容の達成が40%程度と不十分であるが、不十分な理由を1つ説明することができる。

2) 評価表の総合評価

優：評価項目のすべての内容の達成度が80%以上

良：評価項目のすべての内容の達成度が70%以上

可：評価項目のすべての内容の達成度が60%以上

不可：評価項目のすべての内容の達成度が60%未満

6. 評価の視点

- 1) 評価表に示されている評価項目の達成度を評価する。
- 2) 学修者の学び方を評価しない。
- 3) 指導事項は評価表の欄外に記録し次回の実習への指針とする。
- 4) 自己評価は学修者が実習目標に対する学習の取り組みを知り、課題を明確にするためのものであるため、学修者の自己評価は評価をつけるための参考資料としない。

7. 評価における運用の留意点

- 1) 実習評価会議の決議を経て、評価は決定する。
- 2) 学生の学修のための資料とするため、実習評価表は実習終了後、直ちに返却する。
- 3) 原則、実習評価表は原本を学生へ返却し、コピーを学校へ保存する。
- 4) 目標達成できない可能性のある学生に対しては速やかに教員会議を開催し、合格に達するような対策を講じる。

